

高等学校における
「通級による指導」
手引書

令和 3 年 3 月

奈良県立大和中央高等学校
定時制課程

目次

I はじめに	P. 1
II 高等学校における通級による指導の制度化	
1. 国の高等学校における通級による指導の制度化の経緯	P. 3
Q1:「高等学校における…」とありますが、小・中学校でも通級による指導は行われているのですか。	
2. 高等学校における通級による指導の必要性とは	P. 3
Q2:高等学校における通級による指導の趣旨は何ですか。	
Q3:インクルーシブ教育システムとはどのようなものですか。	
3. 通級による指導とは	P. 4
Q4:対象となる生徒はどのような生徒ですか。	
Q5:障害に応じた特別の指導とは、どのような指導ですか。	
Q6:自立活動とはどのようなものですか。	
Q7:通級による指導は教育課程上どのような扱いになりますか。	
Q8:単位修得の条件はありますか。	
Q9:単位数に制限はありますか。	
Q10:単位認定は年度ごとにしなければならないのですか。	
Q11:指導要録にはどのように記載すればよいのでしょうか。	
Q12:実施形態にはどのようなものがありますか。	
Q13:課程の制限などはありますか。	
Q14:指導する教員に資格は必要ですか。	
Q15:個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成する必要はありますか。	
III 大和中央高等学校における通級による指導の実施に向けた体制整備	
1. 特別支援教育を推進する校内体制	P. 8
Q16:ユニバーサルデザインを取り入れた授業とはどのようなものですか。	
Q17:「見守り」とは何ですか。	
Q18:「見守り」の生徒に対してはどのような支援をしていますか。	
Q19:「学習支援」とは何ですか。	
Q20:「学習支援」の必要な生徒に対してはどのような支援をしていますか。	
Q21:個別の教育支援計画はどのような生徒に作成していますか。	
Q22:個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成に当たり、留意すべきことは何ですか。	

2. 通級による指導を推進する校内体制 ……………P. 10

Q23:通級による指導を開始するに当たって、どのような会議を行いましたか。

Q24:教育課程編成に関わるカリキュラムチームの具体的な開催時期や検討内容を教えてください。

Q25:個別の教育支援計画は必ず進路先に引き継がなければならないですか。

Q26:通級による指導を受講する生徒の個別の指導計画は、他の生徒の個別の指導計画とどこが異なりますか。

3. 通級による指導を受講する対象生徒……………P. 14

Q27:希望をすれば1年生(1年次)から受講できますか。

Q28:次年度の対象生徒決定までの流れはどのようになりますか。

Q29:実態調査チェックシートとはどのようなものですか。

Q30:通級による指導を受講する条件として本人や保護者との合意形成が必要なのはなぜですか。

Q31:本人や保護者と合意形成を図ることは難しくないですか。

4. 通級による指導の教育課程……………P. 15

Q32:年間通年2単位としたのはなぜですか。

5. 通級による指導の指導時間……………P. 15

Q33:時間割を編成する上で気を付けたことはありますか。

6. 通級による指導の指導内容……………P. 16

Q34:授業名は自立活動ですか。

Q35:通級による指導を受講している生徒の情報共有はしていますか。

7. 通級による指導の単位認定……………P. 17

Q36:定期考査などがありますか。

Q37:一人一人ねらいが異なると思いますが、どのように評価するのですか。

Q38:単位として認められないことはありますか。

Q39:個別の指導計画の目標はどのように設定すればよいのでしょうか。

Q40:通級による指導を単位として認められた場合、卒業に必要な74単位に含めることはできますか。

8. 通級による指導の周知……………P. 19

Q41:職員研修の内容はどのようなものですか。

Q42:通級による指導の担当者が説明している内容はどのようなものですか。

IV 大和中央高等学校における通級による指導に関する資料

〈様式1〉大和中央高等学校における実態調査チェックシート

〈様式2〉大和中央高等学校における「通級による指導」受講願

〈様式3〉大和中央高等学校における個別の指導計画(実態把握票) 表面 《特別支援教育・通級による指導共通》

〈様式4〉大和中央高等学校における個別の教育支援計画

〈様式5〉大和中央高等学校における個別の指導計画 裏面 《通級による指導用》

〈様式6〉大和中央高等学校における個別の指導計画 裏面 《特別支援教育「学習支援」用》

(資料1)大和中央高等学校における通級による指導の受講までの流れ

(資料2)大和中央高等学校における通級による指導の保護者周知文

(資料3)大和中央高等学校における実態把握票 作成用

(資料4)大和中央高等学校における実態把握チェックリスト

(資料5)大和中央高等学校におけるシラバス 取組一覧表

(資料6)大和中央高等学校におけるシラバス 取組内容説明

(資料7)自立活動の内容

(資料8)平成30年4月～10月の取組

V 高等学校における通級による指導の実施に関する参考資料

(資料9)奈良県立教育研究所 平成30年度 プロジェクト研究IV

「多様な生徒の自立と社会参加に向けた高等学校における特別支援教育
—生徒の主体的な取組を促す支援体制づくり—」

http://www.e-net.nara.jp/kenkyo/index.cfm/21,2075,c,html/2075/H30kenkyusyuroku_A6.pdf

I はじめに

大和中央高等学校では、県教育委員会から高等学校における通級による指導に関する研究指定を受け、平成30年4月1日に施行された「学校教育法施行規則の一部改正」を踏まえ、本県の高等学校における通級による指導の推進に関する研究を進めてきました。次に大和中央高等学校において通級による指導の実践結果をまとめた概要を示しています。詳細は、「Ⅲ 大和中央高等学校における通級による指導の実施に向けた体制整備」で説明します。

大和中央高等学校における通級による指導の実践について

(ア) 特別支援教育を推進する校内体制

- ・ 第1次支援として全ての生徒に対してユニバーサルデザインを取り入れた授業を実施する
- ・ 第2次支援として“見守り”を行う
- ・ 第3次支援として“学習支援”を行う
- ・ 学習に関する第1次支援から第3次支援とは別に、自立や社会参加を目指して通級による指導を実施する

(イ) 通級による指導を推進する校内体制

- ・ 校長が通級による指導の対象となる生徒の決定、指導の開始、終了及び中止の判断を行う
- ・ 特別支援委員会は通級推進委員会を兼ね、年2回実施する
- ・ 協議内容や課題に応じて迅速な動きが可能な小規模のチームを5つ編成し、必要に応じて随時相談が可能な体制を構築する

(ウ) 通級による指導を受講する生徒

- ・ 学校教育法施行規則第140条に示された障害がある生徒のうち、平成25年10月4日付け文科初第756号「障害のある児童生徒等に対する早期からの一貫した支援について（通知）」に定めるところ及び卒業後の生活をイメージし、コミュニケーション、自尊感情、自己管理等の視点から総合的に判断する
- ・ 2年生（2年次）以上を対象とする
- ・ 上記を満たし、本人、保護者と受講について合意形成でき、受講願を提出した生徒を対象とする

(エ) 通級による指導の教育課程

- ・ 学校教育法施行規則第140条による特別の教育課程を編成する
- ・ 年2単位の設定とする
- ・ 卒業単位に計6単位まで含めることができる

(オ) 通級による指導の指導時間

- ・ 教科の授業と同様に2限連続の授業時間とする

(カ) 通級による指導の指導内容

- ・ 生徒が社会に出たときに必要な力を身に付けることをねらいとする
- ・ 授業名は「社会生活Ⅰ」「社会生活Ⅱ」「ライフマネジメント」とする
- ・ 自立活動に相当する内容として、コミュニケーションに関する事、自己理解に関する事、生活に関する事等を中心的に取り扱い、個々の特性を加味し、具体的な指導内容や支援方法を検討する

(キ) 通級による指導の単位認定

- ・ 個別の指導計画の目標に基づき、評価する
- ・ 成績会議で諮り、承認された場合に単位認定する

(ク) 通級による指導の周知

- ・ 教員に対して、通級による指導の効果を高めるために、毎年6月頃に職員研修を行うとともに、通級による指導の授業を公開し、チューター（大和中央高等学校では時間割が全員異なるなど、クラス単位の行動が少なく個別対応が多いので、担任制ではなくチューター制をとっている）及び教科担当者との連携を図る
- ・ 生徒や保護者に対して、説明を丁寧に行い、周知を図る
 新入生：体験入学時に全体会で概要を簡単に説明した後、個別相談窓口を設けて詳しく説明する 等
 在校生：9月の三者懇談時に案内文書を配布し、通級による指導の対象となると考えられる生徒には個別に通級による指導について説明する 等

Ⅱ 高等学校における通級による指導の制度化

1. 国の高等学校における通級による指導の制度化の経緯

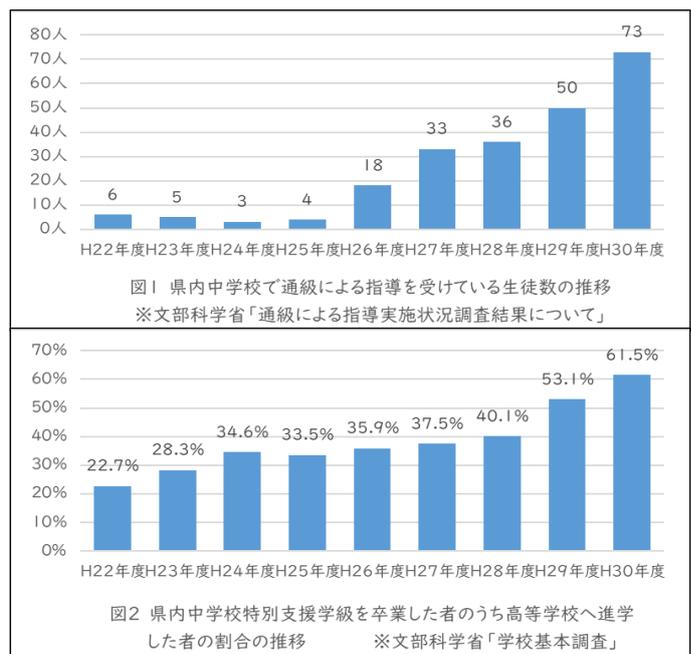
「特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議 高等学校ワーキング・グループ」は、発達障害のある生徒に対する配慮や支援に重点を置き、高等学校における特別支援教育の充実方策について「高等学校における特別支援教育の推進について～高等学校ワーキング・グループ報告～」(平成21年8月27日)をまとめました。その中で、高等学校に進学する発達障害等困難のある生徒の高等学校進学者全体に対する割合は2%程度であったことから、発達障害のある生徒の自立と社会参加に向け、高等学校段階でも適切な指導と必要な支援は喫緊の課題であるとし、議論が繰り返されてきました。そして、「高等学校における特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議」において「高等学校における通級による指導の制度化及び充実方策について(報告)」(平成28年3月)がまとめられました。平成28年12月には学校教育法施行規則が一部改正され、平成30年度より高等学校における通級による指導が導入されました。

Q1:「高等学校における…」とありますが、小・中学校でも通級による指導は行われているのですか。

A1:小・中学校では平成5年に制度化されました。その後、通級による指導を受ける児童生徒は年々増加しています。

2. 高等学校における通級による指導の必要性とは

中学校において通級による指導を受けている生徒数は全国的に増加傾向にあり、奈良県の中学校においても同様です(図1)。また、奈良県内の各年度の中学校特別支援学級を卒業した生徒が次年度に高等学校へ進学した人数及び割合は年々増加しています(図2)。こうした現状を考えると、高等学校における特別支援教育の充実が必要になってきていることが分かります。



Q 2：高等学校における通級による指導の趣旨は何ですか。

A 2：インクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、高等学校においても適切に特別支援教育が実施されるよう、多様な学びの場の整備が求められていますが、高等学校では、障害のある生徒に対する指導や支援は、通常の授業の範囲内での配慮や学校設定教科・科目等により実施されており、特別の指導領域を設定して、障害に応じた特別の指導（通級による指導）を実施することは制度化されていませんでした。このため、小・中学校等からの学びの連続性を一層確保しつつ、生徒一人一人の教育的ニーズに即した適切な指導及び必要な支援を提供する観点から、高等学校においても障害に応じた特別の指導を行えるようにするため、通級による指導が制度化されました。

Q 3：インクルーシブ教育システムとはどのようなものですか。

A 3：インクルーシブ教育システムは、障害者の権利に関する条約で提唱され、人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とする等の目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みのことを意味しています。

3. 通級による指導とは

通常の学級に在籍する軽度の障害を有する児童生徒が、ほとんどの授業を通常の学級で受けながら、週に1単位時間～8単位時間（LD、ADHDは月1単位時間から週8単位時間まで）を標準とし、個々の障害に応じた特別の指導を「通級指導教室」といった特別の場で受ける指導形態のことです。

Q 4：対象となる生徒はどのような生徒ですか。

A 4：言語障害者、自閉症者、情緒障害者、弱視者、難聴者、学習障害者、注意欠陥多動性障害者、その他障害のある者で、特別の教育課程による教育を行うことが適当な者（学校教育法施行規則第140条より）とされています。また、平成25年10月4日付け文科初第756号「障害のある児童生徒等に対する早期からの一貫した支援について（通知）」には、通級による指導の対象とする障害の程度が示されています。

Q 5：障害に応じた特別の指導とは、どのような指導ですか。

A 5：障害による学習上又は生活上の困難を改善し、又は克服することを目的とする指導とされています。これは、特別支援学校の特別な指導領域である自立活動の目標とするところであり、通級による指導では、特別支援学校の自立活動に相当する指導を行います。

Q 6：自立活動とはどのようなものですか。

A 6：特別支援学校における自立活動は、幼児児童生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培うことをねらいとして、特別支援学校の教育課程に設けられた指導領域です。その内容は、特別支援学校学習指導要領において、健康の保持、心理的な安定、人間関係の形成、環境の把握、身体の動き、コミュニケーションの6区分27項目が設定されています（資料7）。つまり、自立活動は指導領域であり、教科・科目ではありません。この指導領域では、一人一人の生徒の状態や発達の程度等に応じて必要な項目を選定し、それらを相互に関連付けて指導内容を設定することとされており、個別の指導計画を作成して、その目標に合わせた指導を行います。

Q 7：通級による指導は教育課程上どのような扱いになりますか。

A 7：障害に応じた特別の指導を行う必要がある者を教育する場合には、文部科学大臣が別に定めるところにより、特別の教育課程によることができる（学校教育法施行規則第140条）とされています。

つまり、通級による指導は高等学校の通常の教育課程に加え、又はその一部に替えることができます。ただし、必履修教科・科目、総合的な探究の時間及び特別活動など、替えることができないものもあります。

●加える場合の例（授業時数が増加する）

各教科に共通する 必履修教科・科目 (31単位)	総合的な探究の時間 (2単位)	選択教科・科目 (41単位)	障害に応じた特別の指導	特別活動
--------------------------------	--------------------	-------------------	-------------	------

授業時数
が増加

●替える場合の例（授業時数が増加しない）

各教科に共通する 必履修教科・科目 (31単位)	総合的な探究の時間 (2単位)	選択教科・科目 (41単位)	障害に応じた特別の指導	特別活動
--------------------------------	--------------------	-------------------	-------------	------

Q 8：単位修得の条件はありますか。

A 8：通級による指導を受講する生徒に対して作成された個別の指導計画（様式5）において個別に設定された目標からみて満足できると認められた場合は、単位修得が認定されます。

Q 9：単位数に制限はありますか。

A 9：通級による指導に係る修得単位数は、年間7単位を超えない範囲で卒業認定単位に含めることができるとされています。年間7単位というのは、中学校における通級による指導が年間280単位時間（8単位）を超えない範囲で卒業認定単位に含めることができるとされているため、中学校と高等学校の授業時数の比率から算出されています。

Q 10：単位認定は年度ごとにしなければならないのですか。

A 10：単位認定は、年次ごとに履修した単位を修得したことを認定することを原則としますが、通級による指導を年度途中から履修する場合など、特定の年度における授業時数が、1単位として計算する標準の単位時間（35単位時間）に満たなくとも、次年度以降に通級による指導を履修し、2以上の年次にわたる授業時数を合算して単位の認定を行うことも可能です。また、単位認定を学期の区分ごとに行うこともできます。

Q 11：指導要録にはどのように記載すればよいのでしょうか。

A 11：指導要録の様式1（学籍に関する記録）裏面の「各教科・科目等の修得単位数の記録」には、総合的な探究の時間の次に自立活動の欄を設けて修得単位数の合計を記載します。

様式2（指導に関する記録）の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄には、通級による指導を受けた学校名、通級による指導の授業時数及び指導期間、指導の内容や修得単数等を記載します。

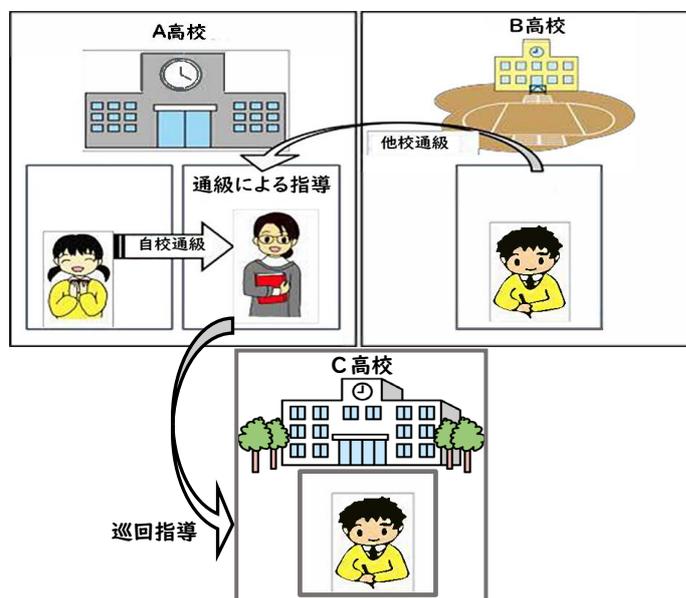
Q 12：実施形態にはどのようなものがありますか。

A 12：自校通級、他校通級、巡回指導の3通りあります。

自校通級：指導を行う教員、指導を受ける生徒、移動する場所が全て同じ学校です。

他校通級：指導を行う教員と指導を行う場所は同じですが、指導を受ける生徒は他校から通います。

巡回指導：指導を受ける生徒と指導する場所は同じですが、指導する教員は他校から来校します。



Q 1 3 : 課程の制限などはありますか。

A 1 3 : 特に制限はありません。全日制、定時制、通信制のどの課程でも指導できます。

Q 1 4 : 指導する教員に資格は必要ですか。

A 1 4 : 高等学校の教員免許状を保有している必要がありますが、特定の教科の免許状を保有している必要はありません。しかし、特別支援教育に関する知識を有し、障害による学習上又は生活上の困難を改善し、又は克服することを目的とする指導に専門性や経験を有する教員であることが必要とされています。

ただし、各教科の内容を取り扱いながら障害に応じた特別の指導を行う場合には、当該教科の免許状を保有する教員も一緒に個別の指導計画の作成や指導を行うことが望ましいとされています。

Q 1 5 : 個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成する必要はありますか。

A 1 5 : 通級による指導を受ける生徒に対して、個別の教育支援計画は、学校教育法施行規則に基づき作成・活用する必要があります。また、個別の指導計画は、高等学校学習指導要領（平成30年公示）に基づき作成・活用する必要があります。

高等学校における活用は、保護者の同意を事前に得るなど個人情報の適切な取扱いに留意しつつ、個別の教育支援計画や個別の指導計画を就職先・進学先に引き継ぎ、支援の継続性の確保に努めることなどが考えられます。（様式4、5参照）

個別の教育支援計画：家庭や地域、医療や福祉等の関係機関との連携を図り、長期的な視点で教育的支援を行うための計画

個別の指導計画：各教科等の指導に当たって、指導の目標や内容、指導方法等を示した計画

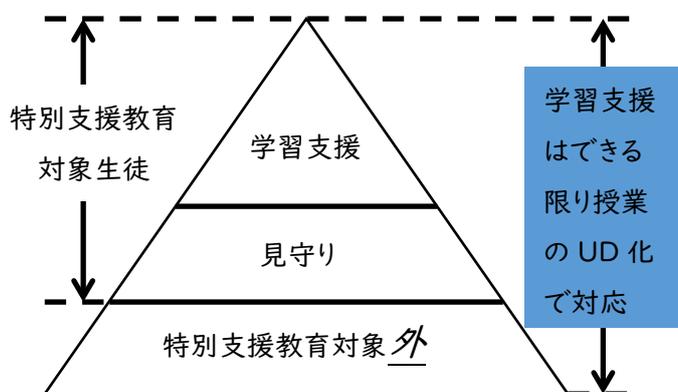
Ⅲ 大和中央高等学校における通級による指導の実施に向けた体制整備

1. 特別支援教育を推進する校内体制

大和中央高等学校では、きめ細かに生徒と関わるために担任、副担任制ではなくクラス人数を減らして担当するチューター制をとっています。また、特別支援教育体制については右図のような体制をとっています。

全生徒を対象に第1次支援としてユニバーサルデザインを取り入れた授業、授業中や休憩時間の廊下巡視等の機会に支援を行っています。また、受講時の様子等が気になる生徒、単位修得が厳しいと思われる生徒、登校状況に課題のある生徒等を対象に、チューターが学校での面談や家庭訪問を実施しています。加えて、個々の特性への支援が必要な生徒に関しては、特別支援教育対象生徒として教員間で共通理解し、丁寧な指導・支援を心掛けています。また、第2次支援として常に支援を要しないが授業中又は学校生活の中で見守りの必要がある「見守り」、第3次支援として授業内での支援を必要とする「学習支援」に分け、段階的に支援を行っています。

大和中央高等学校の特別支援教育のイメージ図



Q16：ユニバーサルデザインを取り入れた授業とはどのようなものですか。

A16：ユニバーサルデザインを

取り入れた授業とは、

「個別的な調整又は特別な設計を必要とすることなく、最大限可能な範囲で、すべての生徒がよく分かる授業」ととらえています。これまで大和中央高等学校の教員が生徒たちのために分かりやすい授業をしようと取り組んできた工夫を、ユニバーサルデザインを取り入れた授業として整理してみると右

ユニバーサルデザインを取り入れた授業の例

指示・教示の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・声掛けによるこまめなフィードバックを行う ・評価を見える化する ・エピソードを加えて、理解しやすくする ・生徒の知っている語句に置き換える ・取り組もうとしている姿勢を認める ・発問に対して答えやすい雰囲気をつくる
板書の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・行間を広く取る ・授業の流れが分かるよう縦線を入れて分割する ・重要箇所はチョークの色を変える ・ワークシートと対応させて板書する ・ページ数やプリントの番号を記しておく
環境の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中のルールが徹底されている ・板書が見やすいよう黒板周りが整理されている ・黒板が見えにくい生徒には事前に確認し座席位置を配慮する
授業の構成	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の区切りを付ける（書く、聞くなどの作業を分ける） ・活動をユニット化し見通しをもちやすくする ・ノートテイクの時間を多めにとる
教材の工夫・支援機器の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用いる ・ICT機器を活用する ・具体物や模型を用いる ・実験を取り入れ、体験的に学べるようにする

表のようなものが該当します。これらを教員間で共有することによって、各教科担当者が教科の特質を踏まえながらユニバーサルデザインを取り入れた授業を実践しています。

Q17:「見守り」とは何ですか。

A17:「学習支援」を必要としないが、安定して学校生活を送ることができるよう配慮を要し、授業内容によって理解の難しい生徒、人間関係のトラブルを起こしやすい生徒、自傷行為のある生徒など、学校生活の一部分で支援を必要とするため、特に気を配ることで。

Q18:「見守り」の生徒に対してはどのような支援をしていますか。

A18:生徒の実態把握票をチューターが作成し、それを全教員で情報共有しています。例えば、授業内容によって理解の難しい生徒については、教科担当者が該当生徒の様子を注意深く観察し、該当生徒が分かるように言葉を置き換えたり、机間巡視の際に特に気に掛けたりします。人間関係のトラブルを起こしやすい生徒や自傷行為のある生徒については、授業中の廊下巡視や休憩時間の巡視等で該当生徒がどのような言動をしているのかを注意深く見守り、必要に応じて声を掛けることもあります。

Q19:「学習支援」とは何ですか。

A19:ユニバーサルデザインを取り入れた授業をベースにしながら、さらに授業において特別な支援が必要な生徒に対して行う個別の支援のことです。この学習支援は、授業の中で行います。

Q20:「学習支援」の必要な生徒に対してはどのような支援をしていますか。

A20:単位修得に向けて学校生活全般と各教科・科目について、チューターや教科担当者が、生徒自身の目標とその目標を達成するために教員がどのような手立て(支援)をするのかを考えた個別の指導計画を作成し、全教員で情報共有します。例えば、低学力のために授業中すぐにやる気をなくす生徒に対しては、机間巡視の際に「やってみようよ。」と同じ目線に立って一緒に頑張ろうと伝えたり、個別に理解できる表現に言い換えたり、スモールステップで達成できていればすぐに褒めたりするなど、こまめにやる気の出るような声掛けすること、また、教科担当者が生徒の集中力を持続されるためにテンポよく授業を展開させることも手立てとします。また、整理整頓が苦手な提出物を出せない生徒に対しては、提出物を出すことを目標とし、何を、いつまでに提出するのかなど、個別に声を掛けると共に、必要事項を板書するなど視覚的にも伝えることを手立てとします。そして、個別の指導計画の目標に対してどの程度達成できたかを学期ごとに評価しています。(様式3、6参照)

Q21:個別の教育支援計画はどのような生徒に作成していますか。

A21:学習支援の必要な生徒に対して、チューターが実態把握票を参考にし作成しています。また、通級による指導を受講する生徒についてもチューターが作成します。(様式4参照)

Q22:個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成に当たり、留意すべきことは何ですか。

A22:個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成を通じて、本人や保護者と課題や目標を共有することが大切だと考えています。そのため、本人や保護者から願いを直接聞き取り、目標などを確認しながら作成しています。個別の教育支援計画については、関係機関の連携に活用することを踏まえ、必ず本人、保護者と合意形成を図っています。

また、個別の指導計画の目標は、個別の教育支援計画を参考にしながら作成しますが、到達可能な目標設定することに留意しています。

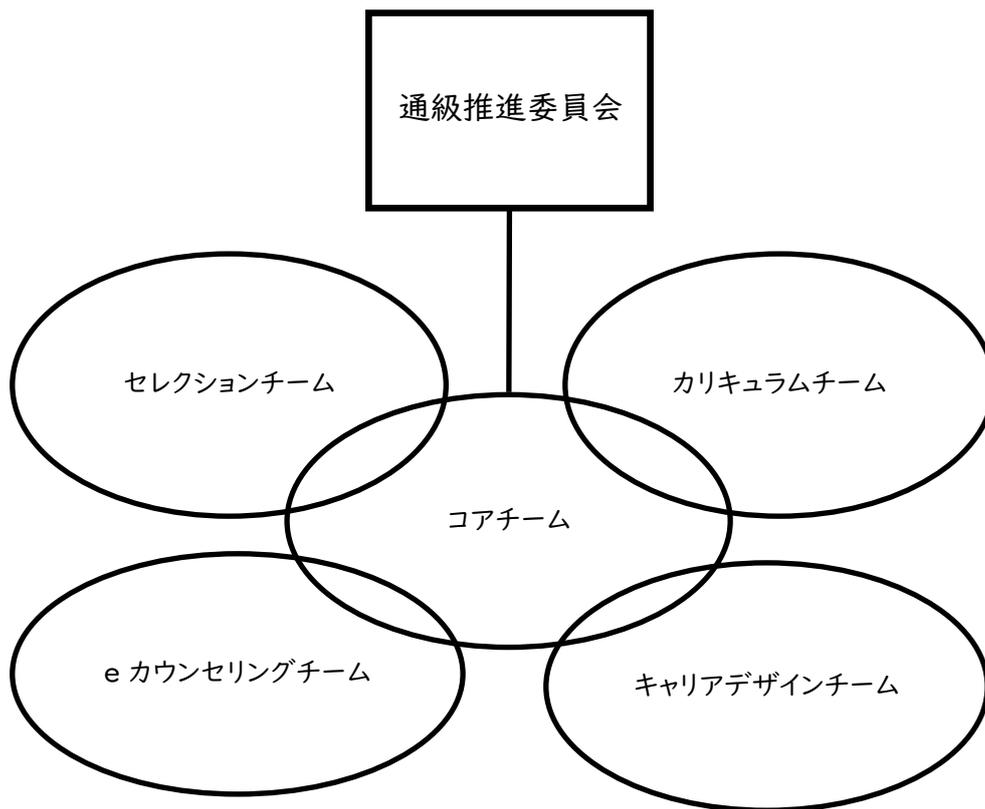
2. 通級による指導を推進する校内体制

校内体制の中心は、校長となり、指導の対象生徒の決定、指導の開始、終了及び中止の判断を行ことになります。しかし、通級による指導を効果的にするために、以下の点が大切です。

- ① 学校全体の取組となること
- ② 生徒の課題を踏まえた教育課程と受講しやすい時間割を編成すること
- ③ 生徒の受講する意欲を醸成すること
- ④ 卒業後の進路につなげること

これらをスムーズに進めるために大和中央高等学校では、通級推進委員会の下に 5 つのチームを作り、校内体制を構築しました。通級推進委員会のメンバーは約 20 名で構成されており、会議を開く日程調整だけでもかなりの時間がかかってしまいますし、会議の頻度も限られてきます。そこで、主な議題ごとに職員室の片隅でできる程度の小規模チームを作ることによって、設定した原則的な会議時期以外にも、フットワーク軽く、気軽に相談できる雰囲気での会議を行えるようにしました。

通級による指導の校内体制



各チーム等の構成メンバー、役割及び主な取扱内容

通級推進委員会（特別支援委員会を兼ねる）	
構成メンバー	<p>校長、教頭 2 名、特別支援教育コーディネーター 3 名、人権文化部長、教務部長、生徒指導部長、進路指導部長、部主任 3 名、養護教諭 2 名、スクールカウンセラー、通級担当者 3 名</p> <p>通級推進委員会は、特別支援教育を推進する校内の中心的な機関である特別支援委員会と兼ねています。</p>
役割	<p>4 月は個別の指導計画と年間指導計画の確認をします。自立活動に関する個別の指導計画は個別の教育支援計画に基づいて適切に作成されなければなりません。特に個別の指導計画の目標は単位認定に関わるので、適切な目標設定であるかを慎重に確認します。</p> <p>2 月は個別の指導計画の評価をします。単位認定は成績会議で行いますが、教科会議と同じように成績会議の原案を作成します。また、本人、保護者と合意形成ができ、次年度の時間割も組むことができた生徒については、次年度の通級による指導の対象生徒として決定します。</p>
主な取組内容	<p>対象生徒の決定</p> <p>個別の指導計画の確認と評価の妥当性</p>

コアチーム	
構成メンバー	通級担当者 3 名
役割	<p>コアチームの会議は毎週 1 回行います。会議の内容は、通級推進委員会を始めとする通級による指導に関するすべての会議の原案作成、運営委員会や職員会議で周知を図る内容の検討、通級による指導の授業内容の検討です。</p> <p>次年度の通級による指導の対象生徒の絞込や個別の指導計画の作成に関して、生徒の普段の様子を知るために、チューターとの情報共有を行っています。</p>
主な取組内容	通級に関わる全般的内容の検討

カリキュラムチーム	
構成メンバー	<p>通級担当者 3 名、教務部長、校務システム担当</p> <p>会議の内容が教務に関わることであるため、教務部長が加わっています。また、時間割についても検討が必要なため、時間割編成や指導要録などを担当している校務支援システムの主担当が加わっています。</p>
役割	<p>原則として年 1 回の 5～6 月に会議をします。教育課程の検討と次年度の時間割を検討します。6 月に開かれる教育課程検討委員会と 8 月に開かれる時間割作成会議に向けて、単位数の検討と、その単位数での時間割の検討も行います。</p>
主な取組内容	教育課程及び時間割の検討と作成

セレクションチーム	
構成メンバー	通級担当者 3 名、部主任 3 名、(生徒指導部長) 生徒の実態把握をできる限り詳細に行うため、生徒の情報を集約する部主任が入っています。また、生徒指導部長が加わることで、更に詳しい情報を集め、共有することができます。
役割	原則として年 1 回 10 月に行います。次年度の通級による指導の受講生との絞込を行います。また、生徒がどのような課題をもっているかによってグループ分けをし、受講登録状況や課題を考慮しながら一緒に学ぶ集団も検討します。
主な取組内容	対象生徒の判断

キャリアデザインチーム	
構成メンバー	通級担当者 3 名、進路指導部長、進路指導副部長 生徒の進路決定に向けての情報収集を図ることや進路先に個別の教育支援計画を引き継ぐため、進路部長と進路副部長が加わっています。
役割	原則として年 1 回 11 月に行います。その年度に通級による指導を受講している生徒について、進路に関する情報交換と進学先や就職先への個別の教育支援計画の引き継ぎ方法などを相談します。
主な取組内容	進路に関わる全般

e カウンセリングチーム	
構成メンバー	通級担当者 3 名、スクールカウンセラー、各チューター 単位修得に関わる個別の指導計画の作成に当たり、各種検査の結果等も参考にしながら個別の課題と目標を設定し、それらを基に年間指導計画を作成できるように、スクールカウンセラーが加わっています。
役割	原則として年 2 回 3 月と 9 月に行います。3 月は次年度に受講する生徒の個別の指導計画を作成します。9 月は前期の様子を鑑みて、実態把握、課題、目標の見直しを行います。
主な取組内容	個別の指導計画の作成

Q 2 3 : 通級による指導を開始するに当たって、どのような会議を行いましたか。

A 2 3 : 平成 30 年 10 月からの試行に向けて平成 30 年 4 月から上記の校内体制を整備し、資料 8 のように取り組みました。

Q 2 4 : 教育課程編成に関わるカリキュラムチームの具体的な開催時期や検討内容を教えてください。

A 2 4 : 原則として年 1 回、5 ~ 6 月に会議を開き、教育課程と次年度の時間割を検討します。6 月に開かれる教育課程検討委員会に向けて単位数の検討を行い、8 月に開かれる次年度の時間割作成会議に向けて時間割の検討を行います。

生徒の時間割決定までの流れ

時期	内容
5月下旬	教育課程検討委員会（1回目）
6月上旬	カリキュラムチームの会議
6月下旬	教育課程検討委員会（2回目）
7月中旬	県教育委員会へ次年度の教育課程表（案）を提出
8月下旬	次年度の時間割作成
11月上旬	次年度受講登録（1回目）
11月中旬	県教育委員会へ次年度の教育課程表を提出
1月下旬	次年度受講登録（2回目）

Q 2 5：個別の教育支援計画は必ず進路先に引き継がなければならないですか。

A 2 5：長期的な視点に立って学校卒業後までの一貫した支援を行うことが重要であることから、本人や保護者の同意を得た上で進路先に引き継ぐよう努めることが求められています。そのため、個別の教育支援計画を作成する際に、通級担当者又は特別支援教育コーディネーターから本人や保護者に対し、引き継ぐ趣旨や目的を十分に説明して理解を得るようにしています。また、第三者に引き継ぐ旨についても、あらかじめ引継先や内容などの範囲を明確にした上で、同意を得るようにしています。

Q 2 6：通級による指導を受講する生徒の個別の指導計画は、他の生徒の個別の指導計画とどこが異なりますか。

A 2 6：大和中央高等学校では、学習支援の必要な生徒への個別の指導計画は、単位修得と卒業するためにどのような支援が必要かという視点で作成しています。

また、通級による指導を受講する生徒の個別の指導計画は、高等学校卒業後、社会で生きていくためにその生徒にとって必要だと思われるスキルを身に付けさせるためにどのような支援が必要かという視点も加えて作成しています。

3. 通級による指導を受講する対象生徒

通級による指導の対象は、学校教育法施行規則等に示されています(Q4参照)。医学的な診断の有無にとられることのないよう総合的な見地により判断することとなっています。本校では、卒業後の生活をイメージし、コミュニケーション、自尊感情、自己管理等の視点から総合的に判断しています。対象となる生徒のうち、本人や保護者と通級による指導を受講することについて、合意形成できた場合、受講することができます。

Q 27：希望をすれば1年生(1年次)から受講できますか。

A 27：1年生(1年次)からの受講は認めていません。まずは大和中央高等学校での学校生活に慣れることが必要だと考えています。また、生徒の困っていることが経験不足によるものなのか、本人の特性によるものなのか等を見立てるためにも半年程度の期間は必要と考えています。よって、受講対象は2年生(2年次)以上としています。

Q 28：次年度の対象生徒決定までの流れはどのようになりますか。

A 28：資料1に示すとおりです。

Q 29：実態調査チェックシートとはどのようなものですか。

A 29：生徒に関する様々な情報をまとめておくことで、全教員で情報共有できるようになっています。また、特別支援教育対象生徒や通級による指導の対象生徒の判断していく資料にもなります。(様式1参照)

Q 30：通級による指導を受講する条件として本人や保護者との合意形成が必要なのはなぜですか。

A 30：障害による学習上又は生活上の困難を改善し、又は克服することを目的とする指導の必要性を理解し、自分の困難を改善・克服しようという意思をもって受講することで、学習効果を高めることができます。

また、大和中央高等学校では、指導要録や調査書に自立活動を修得していることが明記されます。自立活動は特別支援学校学習指導要領に示されている指導領域であることを本人、保護者ともに理解していただく必要があります。

Q 31：本人や保護者と合意形成を図ることは難しいですか。

A 31：難しいこともあります。特に本人が自分では困っていると感じていない場合や、通級による指導の単位を修得したことを進路先に伝えることを敬遠したいという場合などは合意形成が難しくなります。合意形成ができた場合は「通級による指導受講願」を提出することになっています。(様式2参照)

4. 通級による指導の教育課程

通級による指導を実施するため、特別の教育課程を編成しています。大和中央高等学校では、年間2単位を通級による指導により単位取得することができ、卒業に必要な74単位に合計6単位まで含めることができます。

Q 3 2 : 年間通年 2 単位としたのはなぜですか。

A 3 2 : 通級による指導が必要と考えられる生徒の実態や課題、指導内容を詳細に検討し、生徒が主体的に学び、障害による学習上又は生活上の困難の改善・克服という成果を得られるために必要な時間として、週 2 時間が必要だと判断しました。そのため、年間通年 2 単位としました。

5. 通級による指導の指導時間

大和中央高等学校の時間割に関するシステムが他校と大きく異なるので、以下に主なものを挙げます。

- ・ 全時間帯で本人の希望による授業選択が可能となっているため、1年生(1年次)を除いては毎年受講登録をしなければなりません。したがって、2年生(2年次)以上は全員の時間割が異なります。
- ・ 同じ科目を 45 分 2 限連続で行うことで授業の効率化を図っています。
- ・ 本校は三部制で、原則としてⅠ部は1~4限、Ⅱ部は3~6限、Ⅲ部は9~12限ですが、2年次以上では生徒自身の希望によって他部の時間帯でも受講することができます。

Q 3 3 : 時間割を編成する上で気を付けたことはありますか。

A 3 3 : 8 月には教務部が次年度の時間割案を作成しています。その際、できる限り生徒に空き時間が出ないように気を付けます。現在、通級による指導は通年2単位として位置付けています。したがって、空き時間ができるというデメリットを最小限にするために、通年2単位のみ開講されている時間帯(木 1・2時限、3・4時限、5・6時限)か、ほとんどの生徒が受講していない時間帯(7・8時限)に通級による指導を開講しています。

令和 2 年度 通級による指導の開講時間

	月	火	水	木	金
1・2 時限				○	
3・4 時限				○	
5・6 時限				○	
7・8 時限	○	○		○	○
9・10 時限					
11・12 時限					

6. 通級による指導の指導内容

授業名は、どのような内容を学ぶのが分かりやすいものにしたという考えのもと、「社会生活」や「ライフマネジメント」としました。「社会生活」や「ライフマネジメント」は、生徒が社会に出たときに必要な力を身に付けることをねらいとした授業です。自立活動に相当する内容として、コミュニケーションに関すること、自己理解に関すること、生活に関すること等を中心的に取り扱い、個々の特性を加味し、具体的な指導内容や支援方法を検討しています。

指導内容については、資料5、6で示しています。資料5「シラバス 取組一覧表」は、生徒が自ら課題に気付き、主体的に改善・克服につなげられるように、初回の授業で内容を確認・選択できるようにしています。資料6「シラバス 取組内容説明」では、それぞれの取組について、対象となる生徒、指導の目的、指導の概要等を示し、教員が指導に当たり参考になるようにしています。

Q 3 4：授業名は自立活動ですか。

A 3 4：大和中央高等学校は定時制課程ですので、原則として4年卒業（他部の時間帯に追加で受講することによって3年でも卒業できる）になります。したがって、授業名を以下のようにしています。

社会生活Ⅰ……通級による指導の受講が1年目で、卒業年次ではない生徒が対象（主に2年生（2年次））

社会生活Ⅱ……通級による指導の受講が2年目で、卒業年次ではない生徒が対象（主に3年生（3年次））

ライフマネジメント……通級による指導の受講年数に関係なく卒業年次の生徒が対象

Q 3 5：通級による指導を受講している生徒の情報共有はしていますか。

A 3 5：生徒が通級による指導で付けた力を他の場面でも生かせるようにすることが大切です。そのため、チューター、部主任、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー、人権・文化部長、管理職に授業の指導案や教材プリント、生徒の感想等を回覧し、その時間での学びを具体的に共有できるようにしています。各教科担当者にはチューターから課題や配慮等の情報を共有していません。

7. 通級による指導の単位認定

通級による指導は、指導目標や評価基準が一人一人異なるので、一人一人に対応した個別の指導計画を作成し、その目標が達成できたと判断できれば成績会議を経て単位を認定することになります。

通級による指導の単位認定に関わる流れ

時期	内容
前年度 11月～12月	通級担当者、特別支援教育コーディネーター、チューター同席のもと、本人、保護者との合意形成を図る。その際、個別の教育支援計画への記載内容を聞き取る
前年度 2月上旬	通級推進委員会で次年度の通級による指導の生徒を決定する
前年度 3月	チューターが個別の教育支援計画を作成する（様式4参照）
	通級担当者が個別の教育支援計画を参考にして個別の指導計画を作成する（様式5参照）
	個別の指導計画を参考にして、年間指導計画を作成する
	コアチームの会議で個別の教育支援計画、個別の指導計画、年間指導計画の検討を行う
	e カウンセリングチームの会議で個別の教育支援計画、個別の指導計画、年間指導計画の検討を行う
4月上旬	通級推進委員会にて個別の教育支援計画、個別の指導計画、年間指導計画の確認を行う
4月下旬	初回の授業で個別の指導計画、年間指導計画について本人に確認する
9月下旬	前期の授業を踏まえ、コアチームの会議で個別の指導計画、年間指導計画の確認・検討を行う
	前期の授業を踏まえ、e カウンセリングチームの会議で個別の指導計画、年間指導計画の確認・検討を行う
10月上旬	9月のe カウンセリングチームの会議で変更した個別の指導計画、年間指導計画を通級推進委員会のメンバーに確認する
2月上旬	通級担当者が個別の指導計画の評価を行う
	コアチームの会議で個別の指導計画の評価について確認・検討を行う
	e カウンセリングチームの会議で個別の指導計画の評価について確認・検討を行う
	通級推進委員会の会議で個別の指導計画の評価について確認を行う
2月中旬	成績会議で単位認定について諮る

Q 3 6 : 定期考査などはありますか。

A 3 6 : 定期考査はありません。通級による指導では、普段の授業の様子を観察し、評価します。評価は個別の指導計画に文章で記載します。

Q 3 7 : 一人一人ねらいが異なると思いますが、どのように評価するのですか。

A 3 7 : 個別の指導計画に基づいて、授業中の様子を観察することで通級担当者が評価をします。また、生徒自身が授業の最初と最後に「今の心の状況」を考えたり、授業の感想を書いたりすることで自己評価を行います。通級担当者と自己評価を総合して目標を達成できたかどうかを判断します。

Q 3 8 : 単位として認められないことはありますか。

A 3 8 : 個別の指導計画の目標に到達していないと判断された場合は、単位として認められません。また、授業時数の 3 分の 1 を超えて欠席した場合は未履修となり、単位として認められません。

Q 3 9 : 個別の指導計画の目標はどのように設定すればよいのでしょうか。

A 3 9 : 生徒の実態把握から行います。実態把握のためには、日頃の生徒の様子の観察や、「実態把握チェックリスト」(資料 4) を活用します。これらの実態把握より、指導が必要と思われる課題を整理し、優先度や将来の可能性等を見通しながら、1 年後に達成が可能と思われる目標を設定します。前期が終了する 9 月にはコアチームや e カウンセリングチームで、当初立てた目標が適切であったかどうかの検討を行います。

Q 4 0 : 通級による指導を単位として認められた場合、卒業に必要な 7 4 単位に含めることはできますか。

A 4 0 : 通級による指導を単位として認められた場合、卒業に必要な 7 4 単位に加える場合と替える場合があります。(P.5 の図参照) 大和中央高等学校では替える場合として位置付けています。つまり、通級による指導の最大 6 単位を卒業に必要な 7 4 単位に含めることができます。

8. 通級による指導の周知

①職員への周知

通級による指導の効果を高めるには、他の授業においても指導方法の工夫・改善が重要です。つまり、チューター及び教科担当者が通級による指導の意義や目的、実際の指導の工夫等について理解を深めることが大切になります。そのため、毎年6月頃に職員研修を行うとともに、生徒の実態に合わせて授業を公開し、授業参観する機会を設けています。

Q 4 1：職員研修の内容はどのようなものですか。

A 4 1：次の内容です。

通級による指導に関する Q&A (職員研修用)

○「通級による指導」って何ですか。

→「通級による指導」とは、集団生活や学校生活で困っていることや不安に感じていることを解消したり軽減したりする指導（授業）です。高校生活をよりスムーズに送ること、進路実現のサポートを行うことを目的とし、個々の教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援を行います。

○「通級による指導」は、どのような指導内容・指導形態ですか。

→個々の教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援を行います。生徒の実態により、個別の指導、グループ集団での指導を考えています。

○具体的にはどのような内容を行うのですか。

→特別支援学校の特別な領域である自立活動に相当する内容を取り扱います。コミュニケーションスキルの習得のために「話す・聞く」の学習、適切な人間関係の形成のため「ソーシャルスキルトレーニング（人とうまくかかわっていくために必要なスキル）」等に取り組む予定をしています。

具体的には、どのようなことが得意か苦手か、どのような力を付けたいかなど、本人と話し合いながら進めていきます。

○1年次から授業を受けられますか。

→対象は、2年次以上になります。

○いつ、授業があるのですか。

→令和3年度は木曜日の1・2時限目、3・4時限目、5・6時限目、及び月火木金の7・8限目に行う予定です。

- 単位認定されるのですか。
→通年2単位(週2時間)です。
- 中間・期末考査はあるのですか。
→中間・期末考査はありません。
- どのようにして単位認定されるのですか。
→「通級による指導」のために「個別の指導計画」を作成し、十分にその目標が達成できたと判断される場合に、単位の認定を行うこととなります。
- 単位認定された単位は卒業に必要な74単位に含めることができますか。
→はい、できます。選択科目の1つとして扱います。
- 授業を受けさせたいのですが、どのようにすればいいですか。
→コミュニケーションや人間関係等に、困難さ等をもっている生徒を対象としています。コミュニケーション・人間関係・心理面等において、実態把握を行います。セクションチームの会議を開き、個別な支援が必要と判断され、本人・保護者の合意を得て、受講となります。

②生徒や保護者への周知

生徒や保護者向けには、入学前の中学生の体験入学で説明しています。全体会で概要を説明した後、個別相談窓口を設けて詳しく説明しています。入学後は9月の三者懇談時に案内文書を配布して周知しています。その際、チューターから「本校では、高校生活をよりスムーズに送れるよう学習上や生活上の困難の改善・克服につなげ、自立や社会参加を目的として『通級による指導』をしています。」と説明を行います。質問等があれば通級担当者から直接説明を行います。(資料2参照)

Q 4 2 : 通級による指導の担当者が説明している内容はどのようなものですか。

A 4 2 : 次の内容を伝えています。

通級による指導に関する説明内容(通級担当者)

- 本人の特性から生じる学習上及び生活上の困難を改善・克服につなげ、自立や社会参加を支援することを目的としています。
- 人間関係の構築、コミュニケーション、感情のコントロール等で学習上及び生活上の困難を抱えている生徒を対象としています。
- 本校の特別支援教育の一環として、少人数、小集団で行う授業です。

○指導内容（令和2年度の取組）

原則として、卒業後の自立と社会参加に向けて、必要な力を身に付けることを目指します。

- ・コミュニケーションスキルの習得（話す、聞くの学習等）
- ・自分を知る・自己理解（長所を考える、これまでの自分を振り返る等）
- ・適切な人間関係の形成（ソーシャルスキルトレーニング）
- ・自己の管理（手帳づくり、考査に向けて計画を立てる等）

○教科学習の補習ではありません。

○具体的には、どのようなことが得意・苦手か、どのような力を付けたいか等、本人と話し合いながら進めていきます。

○授業内容は、特別支援学校の自立活動に相当する指導を行うこととなります。

○就職試験や大学受験で必要となる調査書には「自立活動」という言葉で載ります。

○指導は個別の指導計画に基づいて行われます。そのために保護者、本人と共に個別の教育支援計画を作成することとなります。本人・保護者のニーズ、卒業後を見据えた目標等を一緒に考え作成します。本人・保護者の同意を得て、就職・進学先との連携に活用します。

○受講登録の内容や一緒に授業を行う集団等を考慮して、次年度の授業の時間割を決定します。

○今すぐ受講決定ではなく、セレクションチームの会議や本人の様子を見ながら、後日声をかけさせてもらいます。希望には添えないこともあります。

〈様式2〉

奈良県立大和中央高等学校長 殿

「通級による指導」受講願

私は、自己の特性を生かしながら、将来の自立に向けて必要な力を身に付けたいので、下記の「通級による指導」の受講を希望します。

記

講座名：社会生活Ⅰ

単位数：2 単位

目 標：「自己理解を深め、他者との関わりを円滑に進める力」や「状況に応じた適切な判断力や行動力」を身に付け、自己の適性を理解した進路実現を目指す。

内 容：自己理解、他者との関わり、社会規範、就労について

なお、「通級による指導」に関わる単位（自立活動）については、指導要録・調査書に記載されることを了承します。

令和 年 月 日

クラス 生徒番号

生徒名

保護者名

〈様式3〉

個別の指導計画(実態把握票) 表面《特別支援教育・通級による指導共通》

個別の指導計画(実態把握票)							奈良県立大和中央高等学校		
作成日	2020年5月22日					記入者			
クラス	77がけ					生年月日	出身中学	性別	
19J	名前	〇〇 △△				2003/10/30	大和	男	
修得単位	1年次	2年次	3年次	S4年次	S5年次	5月24日までの	欠席	遅刻	早退
	19					出席状況	7	0	1
理由 診断名	自閉スペクトラム症								
障害者手帳 * 所有の場合は該当のものに○をつける。	*身体障害者手帳：障害名()・()級 *療育手帳 A1()・A2()・B1()・B2() 精神障害者保健福祉手帳 1級()・2級()・3級()								
本人・保護者の 願い	(本人)卒業後は1人暮らしがしたい。 (保護者)自分の好きな仕事に就いて欲しい。								
本人の良さ ・努力している こと	コツコツと頑張ることができる。								
困っていること ・解決したい こと	人間関係のトラブルを減らしたい。								
進路希望	就職								
本人の実態(発達障害)									
「他者が自分をどう見ているか」「どうしてそのような見方をするのか」など、他者の意図や感情の理解が十分でない。									
思ったことをそのまま口にして相手を不快にさせるような表現を繰り返したりする。									
本人の実態(その他)									
工夫や配慮をしていること その他 特記事項									
・友人とトラブルになったときには、その都度冷静になってからどのように対処すればよかったのかをロールプレイで考えさせている。 ・思ったことをすぐに言葉に出さず、一度「この言葉を使っていかがうか」を考えてから言葉にするように指導している。									

個別の指導計画(実態把握票)〈様式3〉の作成方法

2020年度 実態調査チェックシート

クラス	生徒番号	名前	発達障害の診断書	生徒の実態						配慮(記入式) 【左記以外で配慮が必要となる事項を記入】	合意形成
				手帳	人間関係等	心理面	行動面	自己管理	学習面		
□□□□□	○○○	△△△			○		○		○		
合計				0	0	1	1	0	1	0	0

人間関係・コミュニケーション
人間関係でトラブルがある。
話がかみ合わない。
場の雰囲気になじめない発言がある。
自分から意思を伝えられない。

行動面
一連の作業や学習において集中力が持続できない。
複数の課題を同時に行うと、優先順位や段取りをつけるのが苦手である。
興味を示すものが限定的である。

心理面
気分落ち込みが激しい。
すぐにカッとなるなど感情のコントロールが苦手である。
集団に参加することが困難な場合がある。

自己管理
整理整頓が苦手である。
忘れ物や失うものが多い。
急な変更に対応できない。

学習面
文字の読みに困難(読み飛ばし、二度読み、小学校中学年以上の漢字がほぼ読めない)がある。
書字に困難がある。
板書を写すことができない。または、写すのに時間がかかる。

〈様式1〉

〈様式3〉

- ① 下の項目に一つでも当てはまる場合に○を付ける。
- ② チェック1の欄に「○」を付ける。
- ③ チェック1で「○」を付けた項目のみ、チェック2に進み、該当する項目があれば「○」を付ける。
- ④ 「本人の実態(発達障害)」の欄に、「実態把握票 作成用」(資料2)のチェック2で「○」を付けた項目をコピーして貼り付ける。

個別の指導計画(実態把握票) 奈良県立大和中央高等学校

作成日	2020年5月22日	記入者	
クラス	7年1組	生年月日	2003/10/30
名前	○○△△	出身中学	大和
性別	男	学年	1
修得単位	19	5月24日までの出席状況	欠席 7 遅刻 0 早退 1
理由診断名	自閉スペクトラム症		
障害者手帳	*身体障害者手帳: 障害名()・()級 *療育手帳 A1()・A2()・B1()・B2() *精神障害者保健福祉手帳 1級()・2級()・3級()		
本人・保護者の願い	(本人)卒業後は1人暮らしがしたい。 (保護者)自分の好きな仕事に就いて欲しい。		
本人の良さ・努力していること	コツコツと頑張ることができる。		
困っていること・解決したいこと	人間関係のトラブルを減らしたい。		
進路希望	就職		
本人の実態(発達障害)			
「他者が自分をどう見ているか」「どうしてそのような見方をするのか」など、他者の意図や感情の理解が十分でない。 思ったことをそのまま口にして相手を不快にさせるような表現を繰り返したりする。			
本人の実態(その他)			
工夫や配慮をしていること その他 特記事項 ・友人とトラブルになったときには、その都度冷静になってからどのように対処すればよかったのかをロールプレイで考えさせている。 ・思ったことをすぐに言葉に出さず、一度「この言葉を使っていいかどうか」を考えてから言葉にするように指導している。			

実態把握票 作成用 (資料3)

チェック1	チェック1の項目	チェック2	チェック2の項目	指導・支援例
○	人間関係でトラブルがある	○	「他者が自分をどう見ているか」「どうしてそのような見方をするのか」など、他者の意図や感情の理解が十分でない。	・他者がどのような行動をしたか、自分はどのような言動をしたかを振り返ることで、他者の意図や感情について考える機会をもつ。 ・振り返りの中で相手の意図や思いについて考えたり、自分の考えを伝えることを促す。 ・話し言葉だけでなく、文字やイラストなどを活用し、状況を視覚的に捉えることができるようにする。
			対処方法を知らないため、適切に応じることができない。	・教師との個別的な場面や小集団の活動の中で、相手の話を受けてやりとりをする経験を重ね、適切な言葉を使用できるようにする。 ・生活上の様々な場面を想定し、他者と関わる際の具体的な方法を考えるよう促す。 ・相手の言葉や表情などから相手の立場や相手がかかっていることなどを推測する機会をもつ。
		○	思ったことをそのまま口にして相手を不快にさせるような表現を繰り返したりする。	・生活上の様々な場面を想定し、他者と関わる際の具体的な方法を考えるよう促す。 ・相手の言葉や表情などから相手の立場や相手がかかっていることなどを推測するよう指導を通して、他者と関わる際の具体的な方法を身に付ける。 ・気持ちをコントロールする力を高めることや人と会話するときのルールやマナーを明確にして理解する機会をもち、会話中に相手の表情を気にかけることなどを指導する。
			言葉を字義通りに受け止めてしまい、行動や表情に表れている相手の真意の読み取りを間違っていることがある。	・生活上の様々な場面を想定し、相手の言葉や表情などから相手の立場や相手がかかっていることなどを推測するよう指導を通して、他者と関わる際の具体的な方法を身に付ける。 ・聞いたことを字義通りに理解することを考慮し、速回して間接的な表現を避ける。
			言葉を字義通りに受け止めてしまい、行動や表情に表れている相手の真意の読み取りを間違っていることがある。	・生活上の様々な場面を想定し、相手の言葉や表情などから相手の立場や相手がかかっていることなどを推測するよう指導を通して、他者と関わる際の具体的な方法を身に付ける。 ・聞いたことを字義通りに理解することを考慮し、速回して間接的な表現を避ける。
	場の雰囲気にそぐわない発言がある		思ったことをそのまま口にして相手を不快にさせるような表現を繰り返したりする。	・教師との個別的な場面や小集団の活動の中で、相手の話を受けてやりとりをする経験を重ね、適切な言葉を使用できるようにする。 ・気持ちをコントロールする力を高めることや人と会話するときのルールやマナーを明確にして理解する機会をもち、会話中に相手の表情を気にかけることなどを指導するようにする。
			状況になじめない受け答えをする。	・自分の行動を客観的に理解できるように、状況をイラスト等を用いて視覚化し、行動を振り返るようにする。 ・実際の生活場面で、状況に応じたコミュニケーションを学ぶことができるような指導が必要で、相手の立場に合わせた言葉遣いや場に合った声の大きさなど、場面にふさわしい表現方法を身に付ける。

〈様式4〉

個別の教育支援計画

奈良県立大和中央高等学校

2020年4月		入学・編入	記入者	〇〇〇	年	月	追加記入者
ふりがな		性別	男	生年月日	〇〇	年	〇月〇日生
生徒名	〇〇〇〇	出身中学	〇〇	中学			
障害診断 (有・無)	診断名	自閉スペクトラム症		診断機関	〇〇病院		
	診断年月日(診断時年齢)	〇〇年〇月〇日(〇歳〇か月)					
・障害、病気の状況。 ・検査結果、成育歴等	WISC-IV知能検査(H〇年〇月〇日・〇〇相談センター) 全検査IQ:75 言語理解指標:68 知覚推理指標:81 WMI:82 処理速度指標:78						
手帳の有無	療育手帳	あり(A1・A2・B1・B2)	年	月	日	交付	
	身体障害者手帳	あり(種 級)	年	月	日	交付	
	精神障害者保健福祉手帳	あり(級)	年	月	日	交付	
本人の願い	現在			将来(進路)			
	・将来の自立に向けて、生きる力を身に付けたい。 ・他人の思いをくみ取るのが苦手で、気軽に他人と関わられるようになりたい。			就職 進学 その他	自動車関係		
保護者の願い	現在			将来(進路)			
	・学校には、この調子で休まずに登校して欲しい。 ・他人と関わりを持てるようになって欲しい。			就職 進学 その他	本人の好きな仕事に就いて欲しい。		
支援目標 (卒業後を見通して)	他者との関わりをもちながら、感情のコントロールができるようになる。						
支援内容 具体的な手立て	本人のしんどさを聞き取る。 場面に応じた対人スキルを示す。						
支援マップ	教育		本人	福祉			
	大和中央高等学校						
医療		その他(労働や地域生活など)		アルバイト(〇〇)			
〇〇診療所(1回/年)							
卒業後の進路	進路先・連絡先			進路先での支援目標			
評価(成果・改善すべき内容・引き継ぎ事項など)							
(評価の時期: 年 月 日)							

学校がこの計画に基づいて指導を行うこと、及び関係機関において情報を共有することを承諾します。

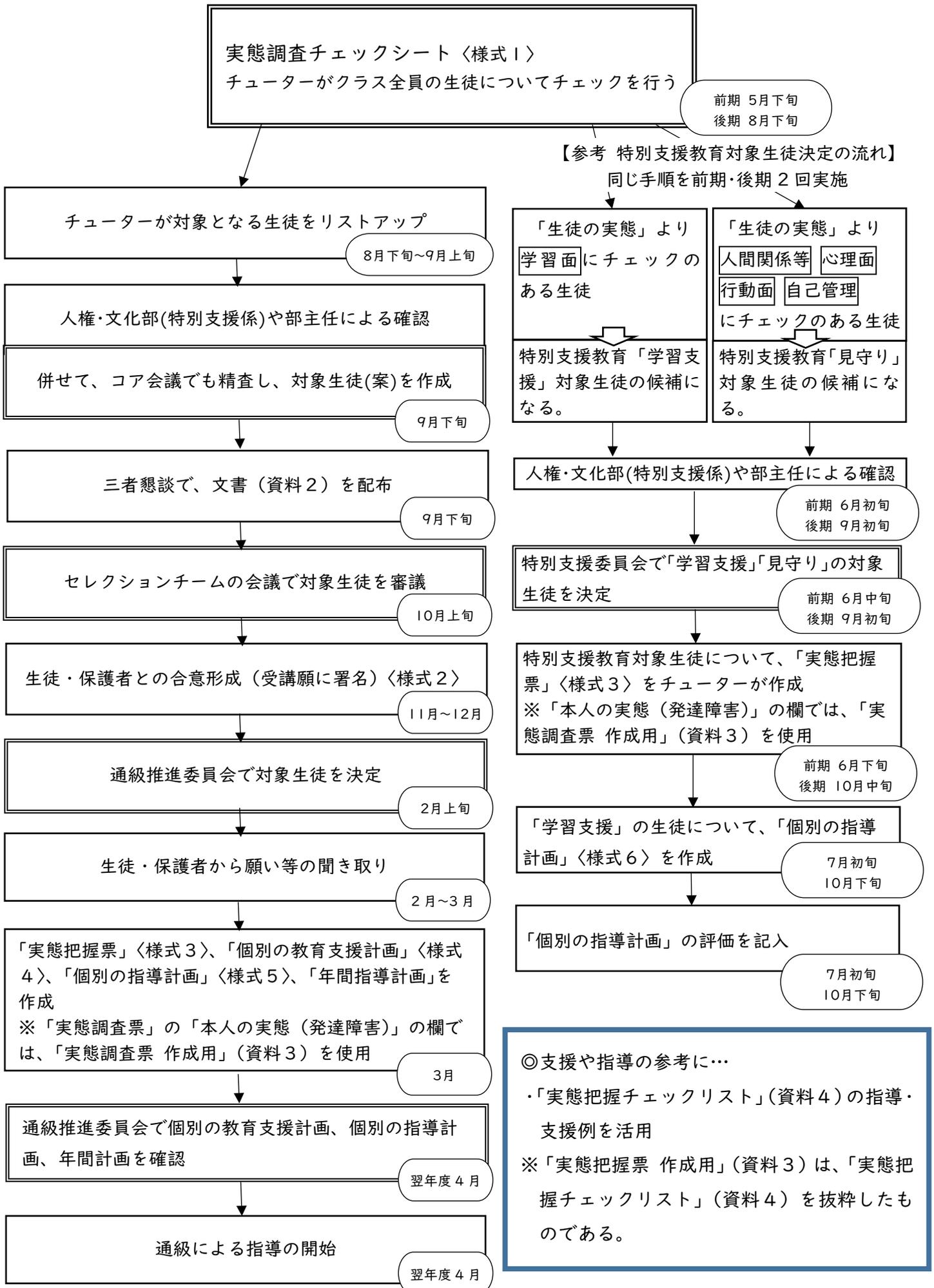
〇年 〇月 〇日
生徒名 〇〇 〇〇
保護者名 〇〇 〇〇

〈様式6〉 個別の指導計画 裏面《特別支援教育「学習支援」用》

個別の指導計画		生徒名()		
学 校 生 活	前期			
	実 態	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に集中力を欠くことが多く、課題に取り組むまでに時間がかかる。 ・些細なことで表情がこわばってしまい、その場から立ち去ってしまうことがある。 ・指示されたことをすぐに忘れることがある。 		
		目 標	手 立 て	評 価
		<ul style="list-style-type: none"> ・不安になったときに、しんどい気持ちを伝えることができる。 ・指示されたことを行動に移すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちが落ち着かない様子を見せたときには、本人から発信しやすいように、声をかけるようにする。 ・メモを使用し、習慣化するように確認する。 	△
科 目	前期			
現 代 文	実 態	<ul style="list-style-type: none"> ・前向きな発言もあるが、私語も多い。集中力が長続きしない。 ・ノートやプリントの提出物への取組は順調である。 		
		目 標	手 立 て	評 価
		<ul style="list-style-type: none"> ・私語などの不必要な発言をしないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を事前に示す。 ・授業内の活動をテンポよく進め、集中力が持続できるようにする。 	○

(資料1)

大和中央高等学校における通級による指導の受講までの流れ



(資料2)

令和2年9月25日

保護者の皆様へ

奈良県立大和中央高等学校
校長 大西敏彦

高等学校における「通級による指導」の実施について

平素より、本校教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。
ございます。

さて、本校では2年次以上を対象に、「通級による指導」に基づく授業を実施しています。高校生活をよりスムーズに送れるよう学習及び生活上の困難の改善・克服につなげ、自立や社会参加を支援することを目的としています。

つきましては、「通級による指導」について、ご質問またはご相談を希望される方は、教頭及び授業担当者(落合・澤井・菊川)までご連絡ください。

(資料3)

実態把握票 作成用

チェック1	チェック1の項目	チェック2	チェック2の項目	指導・支援例
		<p>○ 「他者が自分をどう見ているか」「どうしてそのような見方をしているのか」など、他者の意図や感情の理解が十分でない。</p>	<p>・ 他者がどのような行動をしたか、自分ほどのような言動をしたかを振り返ることで、他者の意図や感情について考える機会をもつ。 ・ 振り返りの中で相手の意図や思いについて考えたり、自分の考えを伝えることを促す。 ・ 話し言葉だけでなく、文字やイラストなどを活用し、状況を視覚的に捉えることができるようにする。</p>	
	<p>○ 人間関係でトラブルがある</p>	<p>○ 思ったことをそのまま口にして相手を不快にさせるような表現を繰り返したりする。</p>	<p>・ 教師との個別的な場面や小集団の活動の中で、相手の話を受けてやりとりをする経験を重ね、適切な言葉を使用できるようにする。 ・ 生活上の様々な場面で想定し、他者と関わる際の具体的な方法を考えるよう促す。 ・ 相手の言葉や表情などから相手の立場や相手がかかっていることなどを推測する機会をもつ。</p>	<p>・ 教師との個別的な場面や小集団の活動の中で、相手の話を受けてやりとりをする経験を重ね、適切な言葉を使用できるようにする。 ・ 生活上の様々な場面で想定し、他者と関わる際の具体的な方法を考えるよう促す。 ・ 相手の言葉や表情などから相手の立場や相手がかかっていることなどを推測する機会をもつ。 ・ 気持ちをコントロールする力を高めることや人と会話するときのルールやマナーを明確にして理解する機会をもち、会話中に相手の表情を気にかけることなどを指導する。</p>
人間関係 コミュニケーション		<p>○ 言葉や字義通りに受け止めてしまい、行動や表情に表れている相手の真意の読み取りを間違っている。</p>	<p>・ 生活上の様々な場面で想定し、相手の言葉や表情などから相手の立場や相手がかかっていることなどを推測するよう指導を通して、他者と関わる際の具体的な方法を身に付ける。 ・ 聞いたことを字義通りに理解することを考慮し、遠回して間接的な表現を避ける。</p>	<p>・ 生活上の様々な場面で想定し、他者と関わる際の具体的な方法を考えるよう促す。 ・ 相手の言葉や表情などから相手の立場や相手がかかっていることなどを推測する機会をもつ。 ・ 気持ちをコントロールする力を高めることや人と会話するときのルールやマナーを明確にして理解する機会をもち、会話中に相手の表情を気にかけることなどを指導する。</p>
	<p>場の雰囲気にくぐわれない発言がある</p>	<p>○ 思ったことをそのまま口にして相手を不快にさせるような表現を繰り返したりする。</p>	<p>・ 教師との個別的な場面や小集団の活動の中で、相手の話を受けてやりとりをする経験を重ね、適切な言葉を使用できるようにする。 ・ 気持ちをコントロールする力を高めることや人と会話するときのルールやマナーを明確にして理解する機会をもち、会話中に相手の表情を気にかけることなどを指導するよう促す。</p>	<p>・ 教師との個別的な場面や小集団の活動の中で、相手の話を受けてやりとりをする経験を重ね、適切な言葉を使用できるようにする。 ・ 生活上の様々な場面で想定し、他者と関わる際の具体的な方法を身に付ける。 ・ 聞いたことを字義通りに理解することを考慮し、遠回して間接的な表現を避ける。</p>
		<p>○ 状況にそぐわない受け答えをする。</p>	<p>・ 自分の行動を客観的に理解できるように、状況をイラスト等を用いて視覚化し、行動を振り返るよう促す。 ・ 実際の生活場面で、状況に応じたコミュニケーションを学ぶことができるよう指導が必要で、相手の立場に合わせた言葉遣いや場面に応じた声の大きさなど、場面にふさわしい表現方法を身に付ける。</p>	

(資料4)

大和中央高等学校における
実態把握チェックリスト

この実態把握チェックリストは、大和中央高等学校において特別な支援を必要とする生徒への指導・支援を考える視点として整理しています。

はじめに、課題の背景にあると思われるつまずきの要因を、大和中央高等学校Ver.として作成しています。

背景にあると思われるつまずきの要因		主な特徴	支援・配慮の例	
1	注 意	持続性注意	持続して、あるいは繰り返して行われる活動の間、一定時間集中して作業を継続させる力	<ul style="list-style-type: none"> 活動に必要な刺激や掲示物など、注意の持続を妨げるものは可能であれば取り除く 複数の手順を踏む作業や活動を行う際は、視覚的なりマインダーを用い、確認できるようにする 次の活動に移る間は机上を片付けるなどを徹底する 文具や用具は用途や時間に応じて色分けするなど、カテゴリー化する
		分配性注意	2つの作業を同時処理する力（例：ワープロ作業を中断せずに電話対応中も継続する）	
		選択性注意	複数の刺激や妨害因子（例：テレビ、周囲の騒音、他人の会話などノイズが溢れる環境）を無視して本来の作業のみに専念する力	
2	実行機能	計画性（プランニング）	所定の目標を達成するために、遂行方法を計画したり、複数の方法の中からより適切な方法を選択したりする力	<ul style="list-style-type: none"> 目標や手順を明示し、見通しをもたせ作業の時間を十分に確保する 手順を言葉で説明したり、生徒に言葉で言わせたりし、丁寧に確認する 着実に理解できるように、活動を体系化したり具体物を用いて体験できるようにする 自らルールや法則に気付くことを支援するため、気付きの観点を事前に明示したり例示と一緒にやってみたりする 作業を具体的に、全体像が分かるように示し、作業途中に現在の活動の位置が分かるように現状確認を取り入れる
		意思決定（情報の精選）	多くの情報の中から必要な情報を見付けだし選ぶこと	
		ワーキングメモリ（WMI）	ものごとを操作する際、情報を一時的に保持しておき、適切な過程でまた取り出して使う記憶のこと（作業記憶、作動記憶）	
		自己コントロール力（柔軟性・エラーの修正）	自己の意思で感情や思考・行動を抑制すること	
		推測力（行動／原因）	ある事柄をもとに推量すること（なぜそうしたのか、なぜそうなったのか等）	
		衝動性	衝動に駆られて即座に行動してしまうこと	
3	記 憶	長期記憶	短期記憶より保持時間が長い記憶	<ul style="list-style-type: none"> 口答による指示は短く、簡潔に、繰り返すなどの配慮を行う 指示を出す前には本人の注意を相手に向けさせるようにする 口頭のみによる説明や指示は板書やプリント、メモ等を活用し、後で確認できるようにする 作業や活動で、指示や手順を思いおこしやすい手掛かりを多く与える 読解や推論の際には、文の構図やアウトラインを明示する
		短期記憶	数十秒間程度の保持時間で再生される記憶	
		視覚記憶	人の顔、図柄、見取り図など視覚的な形で覚えられる記憶	
		聴覚記憶	人の話など聴覚で覚えられる記憶	
4	言 語	言語理解	抽象的な概念の把握や単語の理解、社会的な一般常識などの内容を言葉で認識すること	<ul style="list-style-type: none"> 説明や指示を始める前に重要な言葉や概念の意味を伝える（事前に説明する、板書する、単語リストを渡す等） 習得済みの言葉を使って新しい概念を説明する 新しい単元や学習内容に入る際には新たに登場する言葉や概念の意味を説明する
		抽象的な表現の理解	共通した要素を抜き出して一般化したり、具体性に欠けていて実態が明確ではなかったりする表現	
		言語表出	自分の言いたいことを相手に伝えたり説明したりする力	
		言語概念形成	言葉が意味する内容や性質を考える力	
		言語による推理力・思考力	言語を使って推論したり考えたりする力	
		語彙量	言語による習得知識	
5	社会的認知	心の理論	他者にも自分と同じように心が宿っていると見なすことができ、相手の心的状態を理解し、それに基づいて他者の行動を予測できる力	<ul style="list-style-type: none"> どの言葉に着目するとよいか等の手掛かりを与える モデルとなる発言を自分の言葉で言い換えるなど、自分のこととして置き換える機会を設ける 心情や場面の読み取りなど、苦手とする場面では例を出したり質問を変えたりする
		メタ認知	現在進行中の自分の思考や行動そのものを客観的に認識し、自分自身の認知行動を把握することができる力	
		対人スキル	人と向き合ってコミュニケーションをとったり社会的につきあったりする力	
		情動認知	自分自身や他者の気持ちや情動をモニターし、違いを識別し、その情報を用いて自分の思考や行為を導くことのできる力	
		場面や状況の把握（社会知覚）	言語/非言語的な手掛かりから、人との関係の中での文脈、相互の関係性、役割などを同じであると見極める力	

6	視覚認知	空間位置関係	自己と空間の相対的な位置関係を把握する力（対象と背景の区別、形や色の認識、ものどもの（あるいは自分どもの）位置関係の把握など）	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に提示する情報の数を絞り、分かりやすいデザインやレイアウトを工夫する ・視覚情報を言葉に置き換えて説明する ・各方向を丁寧に伝える（例：右から左、上から下へ、ノートに「開始」等の位置を表示する） ・板書を書く代わりにレジユメを配布する ・板書する際には時間を長めに確保する ・ワークシートは色を統一したり番号を付けたり段をそろえたりする ・マス目や罫線のある用紙を用いる ・プリント一枚当たりの視覚情報の量を調整する
		全体知覚／細部知覚	様々な要因を関連付けて理解する視知覚／細かく識別する視知覚	
		眼球運動	視線を見たいものに向ける力	
		視覚過敏	情報の刺激が一度に目に飛び込んでしまい、自分にとって必要な情報を取捨選択することが難しい等の状態	
		非言語による推理力・思考力	非言語（視覚情報）を基に推理したり、新しい情報に基づいて課題を処理したりする力	
7	聴覚認知	聞き間違い	相手の意図と違った聞き取り方をする、または話し手が言ったことを聞き手が内容をちがえて聞いてしまうこと	<ul style="list-style-type: none"> ・口答による指示は短く、簡潔に、繰り返すなどの配慮を行う ・指示を出す前には本人の注意を相手に向けさせるようにする ・口頭のみによる説明や指示は板書やプリント、メモ等を活用し、後で確認できるようにする ・直接的に苦手な音が入りにくくする、間接的に過敏を軽減する（見通しを立てて不安を軽減するなど） ・負荷のかかる状況や要因が少なくなるように、環境を調節する
		聞き漏らし	聞いておくべきところをうっかりして聞きのがしてしまうこと。	
		聴覚過敏	大抵の人が十分我慢できる音を、苦痛を伴う異常な音として感じる等の状態	
		雑音下での聴取	人混みや雑踏の中でも、自分に関係があったり興味があったりするキーワードを自然に聞きとることができる	
8	運動・動作	目と手の協応動作	視覚情報を運動機能（読み、書きなど）へ伝える力	<ul style="list-style-type: none"> ・使いやすい道具を見極めたり、作業スペースを確保したりするなどの工夫を行う ・具体物の操作を通して手や指の操作性を養う ・形や位置関係の理解を深める課題等を通し身辺の空間を把握する ・空中で腕を保持したり、一定の力加減を続けることが困難な場合はコントロールを必要としたり一定の力を出し続けるような課題を工夫する
		協調動作	ボディイメージをとらえたり手足をバランスよく動かしたりすること	
		巧緻性	手先の器用さ、巧みに指先を使う力	
		ボディイメージ	その場、そのとき、その状態に合わせて適切なからだの使い方、動かし方を頭の中でイメージする力	
		姿勢保持（体幹）	基礎感覚の調整（筋の張り具合や関節の角度の維持など）がうまくできにくく、姿勢を保つことができにくいこと。	
		バランス	自分自身を不安定な状態でも静止させ、ぐらつかないで安定している状態	
9	心的・環境要因	自尊感情の低下	自分自身を尊重する気持ち。大きな失敗をしたり、失敗が続いたりすると、失敗の経験が記憶に強く刻まれ自尊心が傷つくことがある	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい単元や応用的な学習活動に入る前は、既習知識や過去の経験と新しい活動や課題との関連をあらかじめ明示する ・負荷のかかる状況や要因が少なくなるように、環境を調節する ・時間的なプレッシャーなどがかかる場面での活動では、一度に実施する活動の量や時間配分を調整し、最後までやり遂げられるようにする ・一度に覚える量を工夫する、意味付けを行う ・既習事項との関連付けや意味付けを行い新しい知識や技能を学習する ・物事の考え方やとらえ方、解き方等の手順を丁寧に説明する
		学習への無力感	長期間にわたって回避できないストレスにさらされると、その状態から回避することすら諦めてしまう状態。「何をやっても上手くいかない。」「どうせ行動してもムダ」と考えてしまうことがある	
		動機付けの薄さ	人が目的や目標に向かって行動を起こし、達成までそれを持続させる心理的過程のこと。やりがいや目標がない、自分に自信がもてないなど、モチベーションが高まらないことがある	
		実体験の不足	自分の身体を通して実際に経験する活動のことであり、子どもたちがいわば身体全体で対象に働きかけ、かかわっていく活動のこと	
		既習事項の未定着	既に学習し習得した内容が定着しないこと	
		気持ちの不安定さ	心が安定せず感情の起伏が激しくなっている様子（落ち込んだり悲しい気持ちになる、イライラする、攻撃的になるなど）	

【参考資料】

「DSM-5精神疾患の診断統計マニュアル」 日本精神神経学会日本語版用語監修
「認知機能の見える化プロジェクト」 <http://cogniscale.jp/disease/>
「日本版WISC-IVによる発達障害のアセスメント」 上野ら 日本文化科学社
「通常学級でできる発達障害のある子の学習支援」 川上 ミネルヴァ書房 等

実態把握チェックリスト

人間関係・コミュニケーション

チェック 1の項目	チェック2の項目 背景にあると思われるつまづきの要因	指導・支援例	通級による指導での取組例
人間関係で トラブルがある	<p>◎「他者が自分をどう見ているか」「どうしてそのような見方をするのか」など、他者の意図や感情の理解が十分でない。</p> <p>◇推測力（行動／理由） ◇場面や状況の把握（社会知覚） ◇心の理論 ◇情動認知</p>	<p>・他者がどのような行動をしたか、自分はどのような言動をしたかを振り返ること、他者の意図や感情について考える機会をもつ。</p> <p>・振り返りの中で相手の意図や思いについて考えたり、自分の考えを伝えることを促す。</p> <p>・話し言葉だけでなく、文字やイラストなどを活用し、状況を視覚的に捉えることができるようにする。</p>	<p>〈他者理解〉 『お互いの違いを受け止める～気持ちを考える～』 『自分のための友達のいいところ探し!?』</p> <p>〈自己理解〉 『自分は何色?～自分の見え方と他人の見え方』 『My Strong Point～まんざらでもない自分』 『マインドマップを作って自己発見!』 『自分アピールはこれで安心!』</p>
	<p>◎対処方法を知らないので、適切に応じることができない。</p> <p>◇対人スキル ◇既習事項の未定着 ◇実体験の不足</p>	<p>・教師との個別的な場面や小集団の活動の中で、相手の話を受けてやりとりをする経験を重ね、適切な言葉を使用できるようにする。</p> <p>・生活上の様々な場面を想定し、他者と関わる際の具体的な方法を考えるよう促す。</p> <p>・相手の言葉や表情などから相手の立場や相手が考えていることなどを推測する機会をもつ。</p>	<p>〈コミュニケーション〉 『Let's play the game～ゲームでコミュニケーション力UP!～』 『社会に出てからも役立つ「SST」』 『人間関係を良好に保つ人との付き合い方』</p>
	<p>◎思ったことをそのまま口にして相手を不快にさせるような表現を繰り返したりする。</p> <p>◇衝動性 ◇メタ認知 ◇推測力（行動／理由） ◇心の理論 ◇場面や状況の把握（社会知覚）</p>	<p>・生活上の様々な場面を想定し、他者と関わる際の具体的な方法を考えるよう促す。</p> <p>・相手の言葉や表情などから相手の立場や相手が考えていることなどを推測する機会をもつ。</p> <p>・気持ちをコントロールする力を高めることや人と会話するときのルールやマナーを明確にして理解させ、会話中に相手の表情を気にかけることなどを指導する。</p>	<p>〈コミュニケーション〉 『「アサーション」でお互い傷つけない自己主張!』 『Let's play the game～ゲームでコミュニケーション力UP!～』 『社会に出てからも役立つ「SST」』 『人間関係を良好に保つ適切な距離感の取り方』</p> <p>〈他者理解〉 『お互いの違いに気付く～気持ちを考える～』 『自分のために友達の友達のいいところ探し!?』</p>
	<p>◎言葉を字義通りに受け止めてしまい、行動や表情に表れている相手の真意の読み取りを間違うことがある。</p> <p>◇言語理解 ◇情動認知 ◇場面や状況の把握（社会知覚） ◇心の理論 ◇言語による推理力・思考力</p>	<p>・生活上の様々な場面を想定し、相手の言葉や表情などから相手の立場や相手が考えていることなどを推測するような指導を通して、他者と関わる際の具体的な方法を身に付ける。</p> <p>・聞いたことを字義通りに理解することを考慮し、遠回して間接的な表現を避ける。</p>	<p>〈他者理解〉 『お互いの違いを受け止める～気持ちを考える～』 『自分のための友達のいいところ探し!?』 『社会に出てからも役立つ「SST」』 『人間関係を良好に保つ適切な距離感の取り方』</p>
話が かみ合わない	<p>◎「もう少し」「そのくらい」「大丈夫」など、意味内容に幅がある抽象的な表現を理解することに困難があるため、指示の内容を具体的に理解することが難しい。</p> <p>◇言語理解 ◇抽象表現の理解 ◇既習事項の未定着 ◇実体験の不足</p>	<p>・指示の内容や作業手順、時間の経過等を視覚的に把握できるように教材・教具等の工夫を行い、手順表などを活用しながら、順序や時間、量の概念等を理解できるようにする。</p> <p>・「もう少し」のような抽象的な話し方ではなく、回数等(「10回」「あと5分」など)を明確に伝えるようにする。</p>	<p>〈コミュニケーション〉 『Let's play the game～ゲームでコミュニケーション力UP!～』 『社会に出てからも役立つ「SST」』</p>
	<p>◎他者の意図を理解することが難しい。</p> <p>◇言語理解 ◇場面や状況の把握（社会知覚） ◇心の理論 ◇情動認知</p>	<p>・相手の言葉や表情などから、相手の意図を推測するような学習を通して、周囲の状況や他者の感情に配慮した伝え方ができるように指導する。</p> <p>・話す人の方向を見たり、話を聞く態度を形成したりするなど、人との関わり、コミュニケーションすることを促進する指導も重要である。</p> <p>・相手の意図を表す言葉やイラスト等を用いて視覚化し、理解を促すことも有効である。</p>	<p>〈他者理解〉 『お互いの違いを受け止める～気持ちを考える～』 『自分のための友達のいいところ探し!?』</p> <p>〈コミュニケーション〉 『Let's play the game～ゲームでコミュニケーション力UP!～』 『社会に出てからも役立つ「SST」』 『人間関係を良好に保つ適切な距離感の取り方』</p>
	<p>◎話の内容を記憶して前後関係を比較したり類推したりすることが困難である。</p> <p>◇聴覚記憶 ◇WMI ◇持続性注意 ◇言語概念形成 ◇場面や状況の把握（社会知覚）</p>	<p>・自分で内容をまとめながら聞く能力を高めるとともに、分からないときに聞き返す方法を身に付ける。</p> <p>・相手の表情に注目する態度も身に付け、そのときの状況に応じたコミュニケーションができるようにする。</p>	<p>〈コミュニケーション〉 『メモ力向上でうっかりミスをなくそう!』 『これであなたも聞き上手』 『“困った”を乗り切れ～対処法のあれこれ～』</p>
	<p>◎状況にそぐわない受け答えをする。</p> <p>◇心の理論 ◇場面や状況の把握（社会知覚） ◇情動認知 ◇言語による推理力・思考力</p>	<p>・自分の行動を客観的に理解できるように、状況をイラスト等を用いて視覚化し、行動を振り返るようにする。</p> <p>・実際の生活場面で、状況に応じたコミュニケーションを学ぶことができるよう指導が必要で、相手の立場に合わせた言葉遣いや場に応じた声の大きさなど、場面にふさわしい表現方法を身に付ける。</p>	<p>〈コミュニケーション〉 『社会に出てからも役立つ「SST」』 『人間関係を良好に保つ適切な距離感の取り方』</p>

実態把握チェックリスト

チェック 1の項目	チェック2の項目 背景にあると思われるつまづきの要因	指導・支援例	通級による指導での単元例
場の雰囲気 にそぐわ ない発言 がある	<p>●言葉を字義通りに受け止めてしまい、行動や表情に表れている相手の真意の読み取りを間違うことがある。</p> <p>◇言語理解 ◇情動認知 ◇場面や状況の把握（社会知覚） ◇心の理論 ◇言語による推理力・思考力</p>	<p>・生活上の様々な場面を想定し、相手の言葉や表情などから相手の立場や相手が考えていることなどを推測するような指導を通して、他者と関わる際の具体的な方法を身に付ける。</p> <p>・聞いたことを字義通りに理解することを考慮し、遠回りで間接的な表現を避ける。</p>	<p>〈他者理解〉 『お互いの違いを受け止める～気持ちを考える～』 『自分のための友達のいいところ探し!?』 『社会に出てからも役立つ「SST」』 『人間関係を良好に保つ適切な距離感の取り方』</p>
	<p>●思ったことをそのまま口にして相手を不快にさせるような表現を繰り返したりする。</p> <p>◇衝動性 ◇メタ認知 ◇推測力（行動／理由） ◇心の理論 ◇場面や状況の把握（社会知覚）</p>	<p>・生活上の様々な場面を想定し、他者と関わる際の具体的な方法を考えるよう促す。</p> <p>・相手の言葉や表情などから相手の立場や相手が考えていることなどを推測する機会をもつ。</p> <p>・気持ちをコントロールする力を高めることや人と会話するときのルールやマナーを明確にして理解させ、会話中に相手の表情を気にかけることなどを指導する。</p>	<p>〈コミュニケーション〉 『「アサーション」でお互い傷つけない自己主張!』 『Let's play the game～ゲームでコミュニケーション力UP!～』 『社会に出てからも役立つ「SST」』 『人間関係を良好に保つ適切な距離感の取り方』 〈他者理解〉 『お互いの違いを受け止める～気持ちを考える～』 『自分のための友達のいいところ探し!?』</p>
	<p>●状況にそぐわない受け答えをする。</p> <p>◇心の理論 ◇場面や状況の把握（社会知覚） ◇情動認知 ◇言語による推理力・思考力</p>	<p>・自分の行動を客観的に理解できるように、状況をイラスト等を用いて視覚化し、行動を振り返るようにする。</p> <p>・実際の生活場面で、状況に応じたコミュニケーションを学ぶことができるような指導が必要で、相手の立場に合わせた言葉遣いや場に応じた声の大きさなど、場面にふさわしい表現方法を身に付ける。</p>	<p>〈コミュニケーション〉 『社会に出てからも役立つ「SST」』 『人間関係を良好に保つ適切な距離感の取り方』</p>
自分から 意思を 伝えら れない	<p>●他者に自分の気持ちを適切な方法で伝えることが難しく、自傷行為や他者に対する不適切なかわり方をしてしまう。</p> <p>◇言語表出 ◇対人スキル ◇自尊感情の低下 ◇自己コントロール力（柔軟性・エラー修正）◇気持ちの不安定</p>	<p>・自分を落ち着かせることができる場所に移動するなど、興奮を静める方法を知るようにする。</p> <p>・自分の気持ちを伝える手段を身に付ける。必要に応じてタブレット端末等の機器を用いてもよい。</p>	<p>〈コミュニケーション〉 『「アンガーマネジメント」で怒りと上手に付き合おう!』 『「アサーション」でお互いを傷つけない自己主張!』 『フレームワークで自己紹介や面接も大丈夫!』 『もやもやストレスを吹っ飛ばせ!』</p>
	<p>●特定の場所や状況で会話できないことがある。</p> <p>◇自尊感情の低下 ◇気持ちの不安定さ ◇自己コントロール力（柔軟性・エラー修正）</p>	<p>・本人は話したくても話せない状態であることを理解し、本人が安心して参加できる集団構成や活動内容等の工夫をする。</p> <p>・対話的な学習を進める際には、選択肢の提示や筆談など様々な学習方法を認めるなどして、情緒の安定を図りながら、他者とのやりとりができる場面を増やしていくようにする。</p>	<p>〈コミュニケーション〉 『Let's play the game～ゲームでコミュニケーション力UP!～』</p>
	<p>●自分の考えを相手に伝えることが難しい。</p> <p>◇語彙量 ◇言語表出 ◇メタ認知</p>	<p>・話す前に自分が何を言いたいのかをまとめてから話すようにする。必要に応じて、メモ帳やスマートフォン等を活用して相手に伝えるなど、様々なコミュニケーション手段を用いる。</p> <p>・相手の言葉や表情などから相手の意図を推測するような学習を通して、周囲の状況や他者の感情に配慮した伝え方ができるようにする。</p> <p>・話しやすいようにゆっくりと待ったり、生徒が言いたいことを代弁するなどの配慮が必要である。</p>	<p>〈コミュニケーション〉 『フレームワークで自己紹介や面接も大丈夫!』 『Let's play the game～ゲームでコミュニケーション力UP!～』 『緊張をぶっとばせ! 上手な自己紹介の仕方』 『社会に出てからも役立つ「SST」』 『人間関係を良好に保つ適切な距離感の取り方』 『できる大人の報告の仕方!』 『相手を振り向かせるキーワードを見付けよう!』 『できる大人の報告の仕方!』 『やっててよかった報・連・相!』</p>
	<p>●言葉は知っているものの、その意味を十分に理解せずに活用したり、意味を十分に理解していないことから活用できず、思いや考えを正確に伝える語彙が少ない。</p> <p>◇既習事項の未定着 ◇実体験の不足 ◇言語理解 ◇言語表出 ◇言語概念形成</p>	<p>・実体験、写真や絵と言葉の意味を結び付けながら理解することや、ICT機器等を活用し、見る力や聞く力を活用しながら言語の概念を形成するように指導する。</p>	<p>〈コミュニケーション〉 『フレームワークで自己紹介や面接も大丈夫!』 『緊張をぶっとばせ! 上手な自己紹介の仕方』 『できる大人の報告の仕方!』 『やっててよかった報・連・相!』</p>
	<p>●言葉でのコミュニケーションが困難である。</p> <p>◇語彙量 ◇言語による推理力・思考力 ◇言語理解 ◇言語表出 ◇自尊感情の低下 ◇既習事項の未定着</p>	<p>・語彙力、表現力が乏しい場合には、話し言葉を補うためにタブレット端末等の機器を活用できるようにする。コミュニケーションをとる経験が少なく、相手に伝えることに自信を無くしている場合にも上記のように伝える経験をする。</p> <p>・順を追って説明することが苦手で、聞き手に分かりやすい表現をすることができない場合には、関連するキーワードを挙げ、そのキーワードについて説明するなどの方法を身に付ける。</p> <p>・話しやすい状況をつくり、相手に伝わった経験を重ね、自己肯定感を高めるようにする。</p>	<p>〈コミュニケーション〉 『Let's play the game～ゲームでコミュニケーション力UP!～』 『フレームワークで自己紹介や面接も大丈夫!』 『できる大人の報告の仕方!』 『相手を振り向かせるキーワードを見付けよう!』 『緊張をぶっとばせ! 上手な自己紹介の仕方』 『できる大人の報告の仕方!』 『やっててよかった報・連・相!』</p>
	<p>●援助を求めたり依頼したりすること、必要なことを伝えたり相談したりすることが難しい。</p> <p>◇対人スキルの未獲得 ◇場面や状況の把握（社会知覚） ◇メタ認知 ◇推測力（行動／理由） ◇言語表出 ◇計画性（プランニング）</p>	<p>・日常的に報告の場面をつくることや相手に伝えるための話し方を学習すること、ホワイトボードなどを使用して気持ちや考えを書きながら整理していく。</p> <p>・コミュニケーションの基礎的な指導を工夫するほか、安心して自分の気持ちを言葉で表現する経験を重ね、相談することのよさが実感できるように指導していく。</p>	<p>〈コミュニケーション〉 『“困った”を乗り切れ～対処法のあれこれ～』 『思わず手伝いたくなる…依頼の仕方』 『フレームワークで自己紹介や面接も大丈夫!』 『社会に出てからも役立つ「SST」』 『できる大人の報告の仕方!』 『人間関係を良好に保つ適切な距離感の取り方』 『相手を振り向かせるキーワードを見付けよう!』 『やっててよかった報・連・相!』</p>

実態把握チェックリスト

心理面

チェック 1の項目	チェック2の項目 背景にあると思われるつまずきの要因	指導・支援例	通級による指導での単元例
気分 の 落 ち 込 み が 激 し い （ 自 分 に 自 信 が も て な い た め	<p>◎自分の長所や短所、得意や不得意を客観的に認識することが難しい。</p> <p>◇メタ認知 ◇言語概念形成 ◇自尊感情の低下 ◇長期記憶</p>	<p>・対人関係に関する技能を習得する中で、自分の特性に気づき、自分を認め、生活する上で必要な支援を求められるようにする。 ・体験的な活動を通して自分の得意なことや不得意なことの理解を促したり、他者の意図や感情を考え、それへの対応方法を身に付けたりする指導を関連付けて行う。</p>	<p>〈自己理解〉『My Strong Point～まんざらでもない自分～』 『マインドマップを作って自己発見!』『コピーロボット作成～なりたい自分をインプット～』『ポジティブ思考でハッピーライフ!』『得意を伸ばして、自信UP!』『My dream job』『自分アピールはこれで安心!』 〈他者理解〉『お互いの違いを受け止める～気持ちを考える～』</p>
	<p>◎他者との違いから自分を否定的に捉えてしまうことがある。</p> <p>◇自尊感情の低下 ◇既習事項の未定着 ◇自己コントロール力（柔軟性・エラー修正） ◇メタ認知</p>	<p>・個別指導や小集団などの指導形態を工夫しながら、対人関係に関する技能を習得する中で、自分の特性に気づき、自分を認め、生活する上で必要な支援を求められるようにする。また、成功体験を積めるように配慮する。</p>	<p>〈自己理解〉 『My Strong Point～まんざらでもない自分～』『自分は何色?～自分の見え方と他人の見え方～』『ポジティブ思考でハッピーライフ!』『得意を伸ばして、自信UP!』『My dream job』 〈他者理解〉 『お互いの違いを受け止める～気持ちを考える～』</p>
	<p>◎過去の失敗経験等の積み重ねにより、自分に対する自信がもてず、行動することをためらいがちになる。</p> <p>◇自尊感情の低下 ◇気持ちの不安定さ ◇自己コントロール力（柔軟性・エラー修正） ◇メタ認知</p>	<p>・本人が容易にできる活動を設定し、成就感を味わうことができるようにする。徐々に自信を回復しながら、自己に肯定的な感情を高めていく。</p>	<p>〈自己理解〉 『My Strong Point～まんざらでもない自分～』 『ポジティブ思考でハッピーライフ!』 『得意を伸ばして、自信UP!』『My dream job』</p>
	<p>◎衝動の抑制が難しかったり、自己の状態の分析や理解が難しかったりするため、同じ失敗を繰り返したり、目的に沿って行動を調整することが苦手だったりする。</p> <p>◇衝動性 ◇自己コントロール力（柔軟性・エラー修正） ◇メタ認知 ◇WMI ◇場面や状況の把握（社会知覚）</p>	<p>・自分の行動とできごととの因果関係を図示して理解させたり、実現可能な目当ての立て方や点検表を活用した振り返りの仕方を学んだりして、自ら適切な行動を選択し調整する力を育てていく。</p>	<p>〈自己理解〉 『My Strong Point～まんざらでもない自分～』 『My history～新しい自分発見!～』 『マインドマップを作って自己発見!』 『ポジティブ思考でハッピーライフ!』 『得意を伸ばして、自信UP!』『My dream job』</p>
	<p>◎経験が少ないことや課題に取り組んでもできなかった経験などから、自己に肯定的な感情をもつことができない状態に陥っている。</p> <p>◇既習事項の未定着 ◇実体験の不足 ◇メタ認知 ◇自己コントロール力（柔軟性・エラー修正）</p>	<p>・活動が消極的になったり、活動から逃避したりする場合がありますので、成就感を味わうことができるような活動を設定するとともに、自己を肯定的に捉えられるような指導を行う。</p>	<p>〈自己理解〉 『My Strong Point～まんざらでもない自分～』 『マインドマップを作って自己発見!』 『ポジティブ思考でハッピーライフ!』 『得意を伸ばして、自信UP!』『My dream job』</p>
	<p>◎（数字の概念や規則性の理解や、計算することに時間がかかったり、文章題の理解や推論することが難しかったりすることで、）自分の思う結果が得られず、学習への意欲や関心が低い。</p> <p>◇既習事項の未定着 ◇学習への無力感 ◇自己コントロール力（柔軟性・エラー修正）</p>	<p>・自己の特性に応じた方法で学習に取り組み、周囲の励ましや期待、賞賛を受けながら、何が必要かを理解し、「できる」「できた」という成功体験を積み重ねていく。</p>	<p>〈自己理解〉 『My Strong Point～まんざらでもない自分～』 『得意を伸ばして、自信UP!』</p>
	<p>◎文章を読んで学習する時間が増えるにつれ、理解が難しくなり、学習に対する意欲を失い、やがては生活全体に対しても消極的になってしまう。</p> <p>◇既習事項の未定着 ◇学習への無力感 ◇自己コントロール力（柔軟性・エラー修正）</p>	<p>・読むことの困難さを改善・克服するためには、振り仮名を振る、拡大コピーをする、コンピュータによる読み上げや電子書籍を利用するなどの代替手段を使うなど、自分が読み易くなる方法や読み取りやすくなる方法を知る。 ・書くことの困難さを改善・克服するために、口述筆記のアプリケーションやワープロを使ったキーボード入力、タブレット型端末のフリック入力などが使用できることを知る。 ・自分に合った上記の方法を習熟するまで練習する。これらの使用により、学習上の困難を乗り越え、自分の力で学習するとともに、意欲的に活動することができるようにし、代替手段等を利用することが周囲に認められるように、周囲の人に依頼することができるようになる指導も必要である。 ・指導に当たっては、「できる」「できた」という成功体験ができるように学習の工夫を行う。</p>	<p>〈自己理解〉 『得意を伸ばして、自信UP!』 〈コミュニケーション〉 『思わず手伝いたくなる…依頼の仕方』</p>
が集 困団 難に な参 場加 合す がる あこ と	<p>◎集団に参加することが困難な場合がある。</p> <p>◇場面や状況の把握（社会知覚） ◇視覚過敏 ◇聴覚過敏 ◇対人スキルの未獲得 ◇推測力（行動/理由）</p>	<p>・見たり聞いたりして情報を得ることや、集団に参加するための手順やきまりを理解することなどが難しいことから、集団生活に適応できないことがある。集団参加のためのルールを十分に理解しない場合には、ルールを段階的に理解できるように指導する。</p>	<p>〈コミュニケーション〉 『Let's play the game～ゲームでコミュニケーション力UP!～』 『社会に出てからも役立つ「SST」』 『人間関係を良好に保つ適切な距離感の取り方』</p>
	<p>◎言葉の意味理解の不足や間違いなどから、友達との会話の背景や経過を類推することが難しく、そのため集団に積極的に参加できない。</p> <p>◇言語による推理力・思考力 ◇推測力（行動/理由） ◇WMI ◇場面や状況の把握（社会知覚） ◇聞き間違い・聞き漏らし</p>	<p>・少人数の集団の中で、日常的によく使われる友達同士の言い回しや、その意味することが分からないときの尋ね方などを指導するようにする。</p>	<p>〈コミュニケーション〉 『Let's play the game～ゲームでコミュニケーション力UP!～』 『これであなたも聞き上手』 『困ったを乗り越れ～対処法あれこれ～』</p>

実態把握チェックリスト

チェック1の項目	チェック2の項目 背景にあると思われるつまずきの要因	指導・支援例	通級による指導での単元例
が す 苦 ぐ 手 で カ ツ あ る と な る な ど 感 情 の コ ン ト ロ ー ル	<p>◎自分の行動を注意されたときに、反発して興奮を静められなくなる。</p> <p>◇衝動性 ◇自己コントロール力（柔軟性・エラー修正） ◇気持ちの不安定さ ◇メタ認知</p>	<p>・自分を落ち着かせることができる場所に移動してその興奮を静めることや、一旦その場を離れて深呼吸するなどの方法があることを教える。</p> <p>・注意や集中を持続し、安定して学習に取り組むことが難しいときには、刺激を統制した落ち着いた環境で、必要なことに意識を向ける経験を重ねながら、自分に合った集中の仕方や課題への取り組み方を身に付け、学習に落ち着いて参加する態度を育てていく。</p>	<p>〈情緒の安定〉 『「アンガーマネジメント」で怒りと上手に付き合おう！』 『もやもやストレスを吹っ飛ばせ！』</p>
	<p>◎自分の思う結果が得られず感情的になることがある。</p> <p>◇衝動性 ◇メタ認知 ◇気持ちの不安定さ ◇自尊感情の低下 ◇自己コントロール力（柔軟性・エラー修正）</p>	<p>・本人が得意なことを生かして課題をやり遂げるように指導し、成功したことを褒めることで自信をもたせたり、自分のよさに気付くことができるようにしたりすることが必要である。</p> <p>・障害があることや過去の失敗経験等により、自信をなくしたり、情緒が不安定になりやすかったりする場合には、機会を見つけて自分のよさに気付くようにしたり、自信がもてるように励ましたりして、活動への意欲を促すように指導する。</p>	<p>〈情緒の安定〉 『「アンガーマネジメント」で怒りと上手に付き合おう！』 『もやもやストレスを吹っ飛ばせ！』</p>
	<p>◎衝動の抑制が難しかったり、自己の状態の分析や理解が難しかったりするため、同じ失敗を繰り返したり、目的に沿って行動を調整することが苦手だったりする。</p> <p>◇衝動性 ◇WMI ◇場面や状況の把握（社会知覚） ◇自己コントロール力（柔軟性・エラー修正） ◇メタ認知</p>	<p>・自分の行動とできごととの因果関係を図示して理解させたり、実現可能な目当ての立て方や点検表を活用した振り返りの仕方を学んだりして、自ら適切な行動を選択し調整する力を育てていく。</p> <p>・活動が消極的になったり、活動から逃避したりする場合には、成就感を味わうことができるような活動を設定するとともに、自己を肯定的に捉えられるような指導を行う。</p>	<p>〈情緒の安定〉 『「アンガーマネジメント」で怒りと上手に付き合おう！』 『もやもやストレスを吹っ飛ばせ！』 『社会に出てからも役立つ「SST」』</p>

行動面

チェック1の項目	チェック2の項目 背景にあると思われるつまずきの要因	指導・支援例	通級による指導での単元例
的興 で味 ある を示 すも のが 限定	<p>◎興味のある事柄に注意する傾向があるため、結果的に活動等の全体像が把握できない。</p> <p>◇選択性注意 ◇メタ認知 ◇場面や状況の把握（社会知覚） ◇衝動性</p>	<p>・一部分だけでなく、全体を把握することが可能となるように、順序に従って全体を把握する方法を練習する。</p>	<p>〈自己理解〉 『得意を伸ばして、自信UP!』 『身体の主人公・苦手克服』</p>
	<p>◎興味のある一つの情報のみに注意が集中してしまうことから、活動に意識が向かない。</p> <p>◇メタ認知 ◇言語による推理力・思考力 ◇選択性注意 ◇自己コントロール力（柔軟性・エラー修正）</p>	<p>・一つの作業についていろいろな方法を体験させるなどして、作業のやり方へのこだわりを和らげる。</p> <p>・生徒と教師との良好な人間関係を形成し、生徒が主体的に活動しようとする気持ちを育てる。</p>	<p>〈自己理解〉 『得意を伸ばして、自信UP!』 『身体の主人公・苦手克服』</p>
が一 持連 続の で作 業な い学 習に おい て集 中力	<p>◎注意や集中を持続し、安定して学習に取り組むことが難しい。</p> <p>◇分配性注意 ◇持続性注意 ◇意思決定（情報の精選） ◇自己コントロール力（柔軟性・エラー修正） ◇選択性注意</p>	<p>・刺激を統制した落ち着いた環境で、必要なことに意識を向ける経験を重ねながら、自分に合った集中の仕方や課題への取り組み方を身に付け、学習に落ち着いて参加する態度を育てていく。</p>	<p>〈自己理解〉 『得意を伸ばして、自信UP!』 『身体の主人公・苦手克服』 『Let's play the game～ゲームでコミュニケーション力UP!～』</p>
	<p>◎注意喚起の特性により、注目すべき箇所が分からない、注意持続時間が短い、注目する対象が変動しやすいなどから、学習等に支障をきたす。</p> <p>◇選択性注意 ◇衝動性 ◇持続性注意 ◇自己コントロール力（柔軟性・エラー修正）</p>	<p>・注目すべき箇所を色分けするなど注目しやすくしながら、注意を持続させることができることを実感できるようにする。</p> <p>・自分に合った注意集中の方法を積極的に使用できるようにする。</p>	<p>〈自己理解〉 『得意を伸ばして、自信UP!』 『身体の主人公・苦手克服』</p>
	<p>◎身体を常に動かしている傾向があり、自分でも気付かない間に座位や立位が大きく崩れ、活動を継続できなくなってしまう。</p> <p>◇姿勢保持(体幹) ◇衝動性 ◇ボディイメージ ◇持続性注意</p>	<p>・身体を動かすことに関する指導だけでなく、姿勢を整えやすいような机やイスを使用することや、姿勢保持のチェックポイントを自分で確認できるような指導を行う。</p>	<p>〈自己理解〉 『得意を伸ばして、自信UP!』 『身体の主人公・苦手克服』</p>

実態把握チェックリスト

チェック1の項目	チェック2の項目 背景にあると思われるつまずきの要因	指導・支援例	通級による指導での単元例
や複数段取りの課題を題をつけて回るのが行苦手で、優先順位	<p>●周囲のことに気が散りやすく、一つ一つの行動に時間がかかる。</p> <p>◇選択性注意 ◇持続性注意 ◇計画性（プランニング） ◇自己コントロール力（柔軟性・エラー修正） ◇衝動性</p>	<p>・注意の持続に妨げになるものがある場合には、可能な限り取り除くようにする。</p> <p>・個々の生徒の困難の要因を明らかにした上で、無理のない程度の課題から取り組む。</p>	<p>〈自己理解〉 『得意を伸ばして、自信UP!』 『身体の主人公・苦手克服』</p> <p>〈自己管理〉 『実践スケジュール管理①～目指せ、得点アップ!』 『実践スケジュール管理②～できる高校生になる～』</p>
	<p>●特定の動作や行動に固執したり、同じ話を繰り返したりするなど、次の活動や場면을切り換えることが難しい。</p> <p>◇場面や状況の把握（社会知覚） ◇気持ちの不安定さ ◇WMI ◇メタ認知 ◇自己コントロール力（柔軟性・エラー修正）</p>	<p>・自分にとって快適な刺激を得ていたり、不安な気持ちを和らげるために自分を落ち着かせようと行動していたりしていることが考えられ、特定の動作や行動等を無理にやめさせるのではなく、本人が納得して次の活動に移ることができるように段階的に指導する。</p> <p>・特定の動作や行動を行ってもよい時間帯や回数をあらかじめ決めたり、自分で予定表を書いて確かめたりして、見通しをもって落ち着いて取り組めるように指導する。</p>	<p>〈自己理解〉 『得意を伸ばして、自信UP!』 『身体の主人公・苦手克服』</p>
	<p>●活動に過度に集中してしまい、終了時刻になっても活動を終わることができない。</p> <p>◇場面や状況の把握（社会知覚） ◇推測力（行動/理由） ◇メタ認知 ◇自己コントロール力（柔軟性・エラー修正）</p>	<p>・活動の流れや時間を視覚的に捉えられるようなスケジュールや時計などを示し、時間によって活動時間が区切られていることを理解できるようにする。</p> <p>・残り時間を確認しながら、活動の一覧表に優先順位をつけたりするなどして、適切に段取りを整えられるようにする。</p>	<p>〈自己理解〉 『得意を伸ばして、自信UP!』 『身体の主人公・苦手克服』</p>

自己管理

チェック1の項目	チェック2の項目 背景にあると思われるつまずきの要因	指導・支援例	通級による指導での単元例
手整理あ整頓が苦	<p>●整理・整頓などの習慣が身に付いていない。</p> <p>◇持続性注意 ◇空間位置関係 ◇計画性（プランニング） ◇場面や状況の把握（社会知覚） ◇推測力（行動/理由）</p>	<p>・個々の生徒の困難の要因を明らかにした上で、無理のない程度の課題から取り組むようにする。</p> <p>・生活のリズムや生活習慣の形成は、日課に即した日常生活の中で指導をすることによって養うことができる場合が多い。</p> <p>・物の置き場所を一定にする、使ったら戻すなど、自分に合った方法を身に付ける。必要に応じて、管理する物を減らすことも考えてみる。</p>	<p>〈自己理解〉 『得意を伸ばして、自信UP!』 『身体の主人公・苦手克服』</p> <p>〈自己管理〉 『実践スケジュール管理①～目指せ、得点アップ!』 『実践スケジュール管理②～できる高校生になる～』</p>
急な変更に対応できにくい	<p>●予定通りに物事が進まない、情緒が不安定になる。</p> <p>◇気持ちの不安定さ ◇自己コントロール力(柔軟性・エラー修正) ◇推測力（行動/理由）</p>	<p>・予定を説明してもらうことを他者に依頼するなど、自ら刺激の調整を行い、気持ちを落ち着かせることができる指導を行う。</p>	<p>〈自己理解〉 『得意を伸ばして、自信UP!』 『身体の主人公・苦手克服』 『もやもやストレスを吹っ飛ばせ!』 『「アンガーマネジメント」で怒りと上手につき合おう!』</p>
	<p>●日々の日課と異なる学校行事や、急な予定変更などに対応することができず、混乱したり不安になったりして、どのように行動したらよいか分からなくなる。</p> <p>◇気持ちの不安定さ ◇自己コントロール力(柔軟性・エラー修正) ◇推測力(行動/理由) ◇対人スキル ◇場面や状況の把握(社会知覚)</p>	<p>・予定されているスケジュールや予想される事態や状況等を伝えたり、事前に体験できる機会を設定したりするなど、状況を理解して適切に対応したり、行動の仕方を身に付けたりするための指導をする。</p> <p>・行動の仕方を短い文章にして読むようにしたり、適切な例を示したりしながら、場に応じた行動の仕方を身に付けさせていく。</p>	<p>〈自己理解〉 『得意を伸ばして、自信UP!』 『身体の主人公・苦手克服』</p>
	<p>●特定の動作や行動に固執したり、同じ話を繰り返したりするなど、次の活動や場면을切り換えることが難しい。</p> <p>◇場面や状況の把握（社会知覚） ◇気持ちの不安定さ ◇WMI ◇メタ認知 ◇自己コントロール力（柔軟性・エラー修正）</p>	<p>・自分にとって快適な刺激を得ていたり、不安な気持ちを和らげるために自分を落ち着かせようと行動していたりしていることが考えられ、特定の動作や行動等を無理にやめさせるのではなく、本人が納得して次の活動に移ることができるように段階的に指導する。</p> <p>・特定の動作や行動を行ってもよい時間帯や回数をあらかじめ決めたり、自分で予定表を書いて確かめたりして、見通しをもって落ち着いて取り組めるように指導する。</p>	<p>〈自己理解〉 『得意を伸ばして、自信UP!』 『身体の主人公・苦手克服』 『社会に出てからも役立つ「SST」』</p>
計画を立てることが難しい	<p>●計画を立てることが難しい・苦手である。</p> <p>◇計画性（プランニング） ◇意思決定（情報の精選） ◇衝動性 ◇長期記憶 ◇場面や状況の把握（社会知覚）</p>	<p>・余裕をもった時間の枠組みを決め、活動や仕事の中から優先順位を考え、時間が決まっているものがあるときは逆算して順番を決める。</p> <p>・スケジュール帳を活用し、自分にあったスケジュール帳で管理する。（例：月タイプ、1日タイプなど）</p>	<p>〈自己管理〉 『実践スケジュール管理①～目指せ、得点アップ!』 『実践スケジュール管理②～できる高校生になる～』 『いつまでもあると思うな、そのお金!』</p>
忘れ物が多い	<p>●忘れ物や失う物が多い。</p> <p>◇計画性（プランニング） ◇場面や状況の把握（社会知覚） ◇衝動性 ◇WMI</p>	<p>・持ち物を確認する時間を設けるなど、時間に余裕をもつようにする。持ち物表などのメモを使い確認する習慣を付ける、自分の行動パターンを予測し忘れ物をしないための仕組みを施す(自分が目にする所に置き持って行くようにする、必ず持って行くところにメモを付けておく等)など、自分に合った方法を身に付ける。</p>	<p>〈自己管理〉 『実践スケジュール管理①～目指せ、得点アップ!』 『実践スケジュール管理②～できる高校生になる～』 『メモ力向上でうっかりミスをなくそう!』</p>

実態把握チェックリスト

学習面

チェック1の項目	チェック2の項目 背景にあると思われるつまづきの要因	指導・支援例	通級による指導での単元例
読みに困難がある・書字に困難がある	<p>●書かれた文章を理解したり、文字を書いて表現したりすることが苦手である。</p> <p>◇目と手の協応動作 ◇言語理解 ◇空間位置関係 ◇視覚記憶 ◇言語概念形成 ◇眼球運動</p>	<p>・本人が理解しやすい学習方法を様々な場面にどのように用いればよいのかを学んで、積極的に取り入れていくように指導する。</p> <p>・見やすい書体や文字の大きさ、文字間や行間、文節を区切る、アンダーラインを引き強調するなど、生徒一人一人の認知の特性に応じた指導方法を工夫し、不得意なことを少しずつ改善できるよう指導するとともに、得意な方法を積極的に活用するよう指導する。</p>	<p>〈自己理解〉 『得意を伸ばして、自信UP!』 『身体的主人公・苦手克服』</p>
	<p>●視知覚のみによって文字を認識してから書こうとすると、目と手の協応動作が難しく、意図している文字がうまく書けない。</p> <p>◇協調動作 ◇巧緻性 ◇空間位置関係 ◇目と手の協応動作 ◇全体知覚 ◇視覚記憶</p>	<p>・腕を動かして文字の形をなぞるなど、様々な感覚を使って多面的に文字を認識し、自らの動きを具体的に想像してから文字を書くことができるような指導をする。</p> <p>・視覚、聴覚、触覚などの保有するいろいろな感覚やその補助及び代行手段を総合的に活用して、周囲の状況を的確に把握できるようにする。</p>	<p>〈自己理解〉 『得意を伸ばして、自信UP!』 『身体的主人公・苦手克服』</p>
	<p>●鉛筆の握り方がぎこちなく過度に力が入りすぎてしまうこと、筆圧が強すぎて行や枠からはみ出してしまうこと等、手や指先を用いる細かい動きのコントロールが苦手である。更に、上手く取り組めないことにより焦りや不安が生じて、余計に書字が乱れてしまうことがある。</p> <p>◇協調動作 ◇巧緻性 ◇目と手の協応動作 ◇空間位置関係 ◇姿勢保持（体幹）</p>	<p>・目と手等を協応させながら動かす運動が苦手なことが考えられるので、本人の使いやすい形や重さの筆記用具や滑り止め付き定規等を用いることにより、安心して取り組めるようにする。</p> <p>・自分の苦手な部分を申し出るスキルを身に付け、コンピュータによるキーボード入力等で記録することや黒板を写真に撮ること等、ICT機器を用いて書字の代替を行う事も大切である。</p>	<p>〈自己理解〉 『得意を伸ばして、自信UP!』 『身体的主人公・苦手克服』</p>
にて板書時間をかき写すか写すのが	<p>●板書を写すことができない。写すのに時間がかかる。</p> <p>◇視覚記憶 ◇眼球運動 ◇選択性注意 ◇空間位置関係 ◇目と手の協応動作</p>	<p>・板書を途中でできるだけ消さないようにする。どうしても消さなければならない場合は、黒板を半分に区切り、必ず半分は残すようにする。</p> <p>・ホワイトボードや小黒板を活用し、見るべき箇所を目立たたせ、定義やまとめを整理するのに有効に提示ができる。</p> <p>・チョークは、白と黄を主体に使う。他の色を使う場合はアンダーライン、囲みをつけるなどの工夫をする。</p> <p>・板書に対応したワークシートを作成し、必要な語句だけを書き写すようにして、板書を量を減らすようにする。</p>	<p>〈自己理解〉 『得意を伸ばして、自信UP!』 『身体的主人公・苦手克服』</p>

(資料5)

大和中央高等学校における
シラバス 取組一覧表

(資料6)

大和中央高等学校における
シラバス 取組内容説明

(資料5) シラバス 取組一覧表

自立活動『社会生活Ⅰ』『社会生活Ⅱ』『ライフマネジメント』

単 位	2	受講対象	○『社会生活Ⅰ』 初めて社会生活を受講するもの ○『社会生活Ⅱ』 『社会生活Ⅰ』を受講し、引き続き社会生活を受講するもの ○『ライフマネジメント』 卒業年次に受講するもの
指導目的	<p>社会には多様な価値観があり、お互いにその価値観を認め、尊重し合うことが大切です。そのためには人と社会と関わり生活する中で自分自身のもてる力や考えを發揮していくことが求められており、自己理解を深め、自分の考え方や価値観を確立していくことを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己理解を深め、自己を受け入れ、自己の力を伸ばしていきます。 ・他者理解を深め、他者と円滑に関わる力やコミュニケーションの力を身に付けていきます。 ・自己理解や他者理解を深めることを通して身に付けた力を基盤とし、状況に応じて自分で判断する力、実際に行動する力を身に付けていきます。 		

自己理解を深めるための学習	No.	取組名	指導の内容	指導後に期待できること
	1	My Strong Point ～まんざらでもない自分～	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の長所は？」と聞かれてすぐに答えられますか？ ・自分の長所を見付けます。友達から言われたことなど様々な方法を用いて自分の長所を考えます。 ・自分の「Strong Point(強み)」を知ることは、自分に合った環境の下で、最大限の力を發揮するための原動力になります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを見付け、何事にも負けない心と、ぶれない自信を身に付けることができます。まんざらでもない自分を発見できます。
	2	My history ～新しい自分発見!～	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの自分を振り返ったとき、どんなことを思い出しますか？ ・各年齢、各学年の満足度を数値化したグラフで表しながら、これまでの自分を振り返ります。 ・「My history(自分の歴史)」を振り返りながら、将来になりたい自分を見付けます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの自分を振り返りながら、未来の自分をイメージし、になりたい自分を見付けることができます。
	3	マインドマップを作って自己発見!	<ul style="list-style-type: none"> ・頭の中で考えていることを目で見えるようにしてみませんか？ ・好きなこと(得意)・嫌いなこと(苦手)・夢・趣味などについて、思いつくままに関連することを書き、自分のマップを作ります。 ・マインドマップは、「自分」からスタートし木の枝のように関連することをつなげていきます。考えていることを図式化することにより、自分をより知ることができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思っていること、考えていることが整理でき、今まで気付かなかった自分を発見することができます。
	4	自分は何色? ～自分の見え方と他人の見え方～	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分を色で表すと何色になるのか？」考えたことがありますか？ ・他の人は自分のことを何色と思っているのか？ 参加者それぞれで何色かを考え、発表し合います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分では気付きにくい他の人から見た自分の姿や長所に気付くことができ、自己の理解を深めることができます。
	5	コピーロボット作成 ～なりたい自分をインプット～	<ul style="list-style-type: none"> ・理想のコピーロボットを作るならどんなロボットにしますか？ ・日常生活場面や授業場面での自分の思いや将来の夢などをインプットして、理想のコピーロボットを考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の願いやなりたい自分を投影した理想のコピーロボットを目標にして、自分の行動を変えることができます。

6	ポジティブ思考でハッピーライフ!	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分は良いところがなく短所ばかり」と思いませんか? ・今までの見方や考え方とは違った見方をする「リフレーミング」について学びます。悪いことと思うことも見方を変えることで、違った方向に捉えることができます。 ・自分の短所と思われるものも見方を変えて、たくさんの長所を見付けます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リフレーミングの力を発揮してものごとをプラスに捉え、ポジティブ思考を身に付けることができます。
7	得意を伸ばして、自信 UP!	<ul style="list-style-type: none"> ・得意なことって何ですか? ・「覚える」「数える」「写す」「探す」「想像する」のプリントに取り組みます。 ・取り組む中で、思わない得意を見付けることができます。自分の得意を見付けて、どんどんと“得意”を伸ばしていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できるようになった達成感を感じられます。
8	もやもやストレスを吹っ飛ばせ!	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスを感じるのはどんなときですか? ストレスの原因を見付け、解消方法を一緒に考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合ったストレス解消法を見付けて、上手なストレスとの付き合い方が身に付きます。
9	身体の主人公・苦手克服	<ul style="list-style-type: none"> ・手先は器用ですか? 運動は得意ですか? ・様々な動きを繰り返し取り組み、コツをつかみます。 ・例えば、新聞棒を使って物をコントロールする力を養います。 ・苦手な動きも、繰り返し取り組むことで、「得意になった!」と感ずることもあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指先や全身運動など、身体を上手く使うコツを身に付けることができます。
10	My dream job	<ul style="list-style-type: none"> ・あなたは就きたい仕事はありますか? ・いろいろな業種から自分がやりたい仕事を探します。48種類の仕事カードを使用します。 ・自分のやりたい仕事をするようになるための計画を立てます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事に対するイメージが明確になり、やりたい職種・仕事を見付けることができます。
11	スキルを身に付けイケてる社会人に!	<ul style="list-style-type: none"> ・イケてる社会人に求められるスキルはどんなことだと思いますか? ・就職内定の後に、仕事をするのにどんな力が必要で身に付けなければならないかを考えます。いろいろな場面を想定して「これはできる」「苦手」などを考えて、「苦手」の解消方法を考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフスキル、ソフトスキルなど様々なスキルを身に付けることができます。
12	自分アピールはこれで安心!	<ul style="list-style-type: none"> ・履歴書って何を書いたらいいのだろうって迷いませんか? ・履歴書には、自分をアピールする「自己PR」や「特技」の記入欄があります。自分のアピールできるところを考え、書き表し方を考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良さをアピールすることができ、「履歴書を提出してください」と言われても大丈夫です。
13	面接における心構え① ～自立活動を語る～	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会生活」「ライフマネジメント」の授業では、どんな力が付きましたか? ・この授業は「自立活動」の内容に取り組んでいます。「自立活動」って何ですか? 面接のときにこんな質問されても、答えられるように、取り組んだ内容やできるようになったことを振り返ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これで面接時に質問されても大丈夫です。

	14	面接における心構え② ～緊張を取り除く～	<ul style="list-style-type: none"> ・面接は緊張しませんか？ ・呼ばれたらどのように入室するの？ 座り方は？ どのようなふうに応えたらいいの？ など、いろいろな不安から、緊張が起こります。面接の練習を通じて不安や緊張を取り除く方法を学びます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「これで面接は大丈夫！」と思えるようになります。
他者と円滑に関わるための学習	15	自分のための友達のいいところ探し！	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のいいところをたくさん言えますか？ ・相手の良い部分に注意を向け、観察をするとその部分が自分に取り込まれる可能性があります。相手のいいところをいち早く見つけるように心がけると、自分のいいところに気が付き、意識が向くようになります。友達のいいところを見付け、友達がうれしくなる言葉を考えて伝えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のいいところを見付ける視点が身に付き、自分のいいところも見付けられるようになります。
	16	お互いの違いを受け止める ～気持ちを考える～	<ul style="list-style-type: none"> ・友達がこの場で「なぜそんなことを言うのだろう」と思ったことはないですか？ ・様々な状況下で自分はどんな気持ちになるか？ 友達は？ 同じ状況でも自分と他人とがどんな風に思うのかを比べます。同じ状況でもそれぞれ違った気持ちになることを理解し、違いを大切にする方法を考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と相手との気持ちの違いに気が付き、相手の気持ちを考えられるようになります。
	17	「アサーション」でお互いを傷つけない自己主張！	<ul style="list-style-type: none"> ・「アサーション」って聞いたことがありますか？ ・良好な人間関係を築く「アサーション」について学びます。 ・「アサーション」は、相手を傷つけずに、しかも自分の主張をしっかりと行う会話方法です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分も相手も大切にしたい自己表現が身に付きます。これまでと違ったコミュニケーションを取ることができ、良好な人間関係を築くことができます。
	18	「アンガーマネジメント」で怒りと上手につき合おう！	<ul style="list-style-type: none"> ・「アンガーマネジメント」って聞いたことがありますか？ ・怒りを感じたときの対処法「アンガーマネジメント」について学びます。 ・「アンガーマネジメント」は、怒りを感じたときに自分の怒りをコントロールできる方法です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ついイラッとしたとき、怒りを静める方法が身に付きます。怒りのコントロール方法を身に付け、人間関係でのトラブルが回避できるようになります。
	19	フレームワークで自己紹介や面接も大丈夫！	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に分かりやすく伝えるって難しいですか？ ・伝えたいことのキーワードを挙げ、キーワードに関連することを考えて、要点を絞って伝える練習をします。要点を整理して伝えることで、自己紹介や面接のときも使えます。(フレームワーク=ポイントをパターンとして落とし込んで考えるための枠組み) 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に分かりやすく伝えられるように意見をまとめる方法が身に付き、自己紹介や面接のときでも、自信をもって答えられるようになります。
	20	メモ力向上でうっかりミスをなくそう！	<ul style="list-style-type: none"> ・普段、メモを取っていますか？ ・メモの取り方を理解し、聞いたことをメモする練習をします。 ・いろいろな状況を設定して、聞き取った内容をメモしていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メモを取る習慣が身に付き、うっかりミスなど無くなります。
	21	できる大人の報告の仕方！	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に出てすぐに必要なスキルって何だと思いませんか？ ・「分かりやすく説明する」「メモを取る」学習を生かして、いろいろな状況を想定して、相手にとって分かりやすい報告の方法を考えます。 ・報告のタイミングや内容などのコツを踏まえた練習をします。 ・「やってよかった報・連・相！」につながる学習です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告の仕方・注意点を知り、聞いた内容や自分が経験したことを、正しく報告できるようになります。 ・これまで学んできたものの発展系で、応用する力も身に付けることができます。

22	相手を振り向かせるキラーワードを見付けよう!	<ul style="list-style-type: none"> ・人に話しかけられずに大事な用事が果たせなかったことはないですか? そんなことがないように、言葉を出すタイミングや言い方を考えます。 ・相手を振り向かせ会話をスタートさせるため、自分の存在を気付かせるキラーワードを場面毎に見付けます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなケースにおいて、相手に話しかけるための言葉と自信を身に付けることができます。
23	“困った”を乗り切れ ～対処法のあれこれ～	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や就職先で困ったとき、どうすればいいのか? ・様々な困った状況下で、どのように対処すれば良いか考えます。 ・学校場面、卒業後の進学先や就職先での場面を想定して対処方法を考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・困ったときにどのような行動を取れば良いのかが分かり、具体的な対処方を身に付けることができます。
24	思わず手伝いたくなる… 依頼の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・人をお願いすることは緊張しませんか? ・相手の立場を思い、適切な依頼の仕方を考えます。 ・相手が「何とかしてあげたい」と思ってもらえるような言動を考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場に立ちながら、適切な依頼ができるようになります。
25	これであなたも聞き上手	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き上手という言葉を知っていますか? ・聞くことはコミュニケーションをとる上でとても大切なことです。話し相手に「聞いてますよ」という意思表示をする方法を考えます。考えた方法を試し、検証します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞くコツが身に付き、聞き上手、つまり会話のキャッチボール“受け手”が上手になります。
26	緊張をぶっとばせ! 上手な自己紹介の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・第一印象を良くしたいですね? ・初めて会った人に良い印象を与える自己紹介を考えます。 ・自己紹介するための自分のデータを集め、相手に良い印象を与える自己紹介の方法を考えます。いろいろな先生に自己紹介してもらい、自分のモデルを見付け、自分の“形”を作ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自己紹介をお願いします」といつ言われも、慌てることなく自己紹介することができます。
27	人間関係を良好に保つ 適切な距離感の取り方	<ul style="list-style-type: none"> ・「なれなれしい」「よそよそしい」と思われないようにするにはどうしたらいいのでしょうか? ・「初対面の人との会話の仕方」「苦手な人との付き合い方」「異性との付き合い方」「他人との距離」など、様々な場面や状況を想定して、人と付き合っていく上での大切な距離感を考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面で人との付き合い方を理解して、自分の注意点を知り、適切な人間関係が築けるようになります。
28	やっててよかった報・連・相!	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事ができる人が欠かさずに行っていることって何だと思いますか? ・これまで学習してきたことの集大成です。 ・仕事をする上で「報告・連絡・相談」(報・連・相)はとても大切なことです。様々な場面を設定して、報連相の仕方を学習します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事の中で、自信をもって「報連相」ができるようになり、信頼を得ることができるようになります。
29	Let's play the game ～ゲームでコミュニケーション力 UP!～	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなでゲームしませんか? ・手軽なカードゲーム、ボードゲームなどをします。 ・自分の得意なゲームのルールや魅力、必勝法などを紹介し合います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームを通してコミュニケーションを図る力が身に付きます。

	30	社会に出でからも役立つ「SST(ソーシャルスキルトレーニング)」	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の中で人とのやりとりが上手くいかないことはないですか? ・困っていること、相手を不快にさせていることなどを、ロールプレイングやプリント学習で考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面で、自分が困らないための振る舞いや考え方を身に付けることができます。
自己管理に関する学習	31	実践スケジュール管理① ～目指せ、得点アップ!～	<ul style="list-style-type: none"> ・考査で得点アップの方法を知りたくないですか? ・考査に向けて、いつ、何を、どれだけ勉強するのか計画を立てます。 ・立てた計画をどのくらい生かすことができたかを確認し、次の考査において計画の立て方やスケジュール管理の方法といった改善点等を見付けます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己管理の意識がもて、積極的に取り組もうとする姿が身に付きます。 ・自分に合った計画が立てられるようになります。
	32	実践スケジュール管理② ～できる高校生になる～	<ul style="list-style-type: none"> ・約束をすっぽかしたこと…ありませんか? ・スケジュール管理やメモするスキルの応用力を高めるために自分にとって使いやすい手帳を作ります。 ・手帳を使いながら自分で使いやすいようにカスタマイズしていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手帳を使う習慣ができ、スケジュール管理、メモや金銭管理等ができるようになります。
	33	いつまでもあると思うな、そのお金!	<ul style="list-style-type: none"> ・気が付くと財布の中が空っぽってことはないですか? ・小遣いの使い道を探り、自分自身のお金の使い方の特徴を把握し、お金にまつわる注意点も学習します。 ・収支を見える化して、お金の動きを見ます。将来の家計簿にもつなげていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無駄遣いがなくなり、計画的にお金を使う力が高まります。
培ってきた力を発揮する学習	34	MY TIME ～自分の一番はコレ!!～	<ul style="list-style-type: none"> ・いよいよ卒業! 学習の総まとめです!! ・計画立案、スケジュール管理、コミュニケーションなどの力を総動員する学習活動です。 ・何をするのか、どのように進めるのか、発表はどうするのかなど、すべて自分で計画して進めていきます。 〈発表例〉 ・自分の興味のあることについて発表(プレゼン)をする。 ・得意なことを活かし、人をおもてなしする(茶話会の企画、おいしいコーヒーを入れてもてなす) など 	<ul style="list-style-type: none"> ・終わったときに達成感を味わうことができます。 ・内容によっては、参加してくれた人から、感謝されたり、褒められたり、喜んでもらえたりすることがあります。

(資料6) シラバス 取組内容説明

No.	取組名
1	My Strong Point ～まんざらでもない自分～
2	My history ～新しい自分発見!～
3	マインドマップを作って自己発見!
4	自分は何色? ～自分の見え方と他人の見え方～
5	コピーロボット作成 ～なりたい自分をインプット～
6	ポジティブ思考でハッピーライフ!
7	得意を伸ばして、自信 UP!
8	もやもやストレスを吹っ飛ばせ!
9	身体的主人公・苦手克服
10	My dream job
11	スキルを身に付けイケてる社会人に!
12	自分アピールはこれで安心!
13	面接における心構え① ～自立活動を語る～
14	面接における心構え② ～緊張を取り除く～
15	自分のための友達のいいところ探し!?
16	お互いの違いを受け止める ～気持ちを考える～
17	「アサーション」でお互いを傷つけない自己主張!
18	「アンガーマネジメント」で怒りと上手に付き合おう!
19	フレームワークで自己紹介や面接も大丈夫!
20	メモ力向上でうっかりミスをなくそう!
21	できる大人の報告の仕方!
22	相手を振り向かせるキーワードを見付けよう!
23	“困った”を乗り切れ ～対処法のあれこれ～
24	思わず手伝いたくなる…依頼の仕方
25	これであなたも聞き上手
26	緊張をぶっとばせ! 上手な自己紹介の仕方
27	人間関係を良好に保つ適切な距離感の取り方
28	やっててよかった報・連・相!
29	Let's play the game ～ゲームでコミュニケーション力 UP!～
30	社会に出でからも役立つ「SST(ソーシャルスキルトレーニング)」
31	実践スケジュール管理① ～目指せ、得点アップ!～
32	実践スケジュール管理② ～できる高校生になる～
33	いつまでもあると思うな、そのお金!
34	MY TIME ～自分の一番はコレ!!～

【対象となる生徒】

ーチェックリストより抜粋ー

- ・「他者がどう見ているのか」「どうしてそのような見方をするのか」など、他者の意図や感情の理解が十分でない。
- ・自分の長所や短所、得意や不得意を客観的に認識することが難しい。
- ・他者との違いから自分を否定的に捉えてしまうことがある。
- ・過去の失敗経験等の積み重ねにより、自分に対する自信がもてず、行動することをためらいがちになる。
- ・衝動の抑制が難しかったり、自分がどのような状態にあるかを分析や理解することが難しかったりするため、同じ失敗を繰り返したり、目的に沿って行動を調整することが苦手だったりする。
- ・経験が少ないことや課題に取り組んでもできなかった経験などから、自己に肯定的な感情をもつことができない状態に陥っている。
- ・自分の思う結果が得られず、学習への意欲や関心が低い。

【指導の目的】

- ・自分の良いところを見付け、それを自分の長所につなげて、何事にも負けない心とぶれない自信を身に付ける。

【指導の概要】

- ・自分の良いところ（長所）を考える。
- ・「自分の良さに気づく言葉の一覧表」から、自分に当てはまる言葉がないか探す、友達から言われた嬉しい言葉を見付けるなど、様々な方法を用いて自分の良いところ見付ける。
- ・「自分の良さに気づく言葉の一覧表」から選ばれた項目について、具体的なエピソードを考え、自分の言葉で伝えられるようにする。

【使用する教材及び教具】

- ・自分の良さに気づく言葉の一覧表 等

【関連する主な自立活動の区分及び項目】

「人間関係の形成」 自己の理解と行動の調整に関すること

【生徒へのPR（例）】

- ・「自分の長所は？」と聞かれてすぐに答えられますか？ すぐに答えられない人もたくさんいます。いろいろな切り口で、自分の良いところを見付けていきましょう。
- ・自分の長所をたくさん見付け、それを自分の言葉で伝えられるようにします。これは就職試験での面接にも役立ちます。

～自分の良さに気づく言葉一覧表～

月 日 クラス 名前

◎友達や他人から言われた言葉にチェックを入れましょう。

<input type="checkbox"/> やさしい	<input type="checkbox"/> あかるい	<input type="checkbox"/> おもしろい	<input type="checkbox"/> 親切
<input type="checkbox"/> 勇気がある	<input type="checkbox"/> 頼りになる	<input type="checkbox"/> 勉強ができる	<input type="checkbox"/> ユニーク
<input type="checkbox"/> まじめ	<input type="checkbox"/> 正直	<input type="checkbox"/> 元気がある	<input type="checkbox"/> がんばりや
<input type="checkbox"/> 聞き上手	<input type="checkbox"/> はきはきしている	<input type="checkbox"/> がまん強い	<input type="checkbox"/> 笑顔がいい
<input type="checkbox"/> リーダー的	<input type="checkbox"/> すなお	<input type="checkbox"/> 思いやりがある	<input type="checkbox"/> おだやか
<input type="checkbox"/> 誠実	<input type="checkbox"/> 清潔	<input type="checkbox"/> 積極的	<input type="checkbox"/> 健康的
<input type="checkbox"/> 活発	<input type="checkbox"/> 社交的	<input type="checkbox"/> 情熱的	<input type="checkbox"/> 理解力がある
<input type="checkbox"/> 信用できる	<input type="checkbox"/> 心が広い	<input type="checkbox"/> 責任感が強い	<input type="checkbox"/> 決断力がある
<input type="checkbox"/> 礼儀正しい	<input type="checkbox"/> 几帳面	<input type="checkbox"/> たくましい	<input type="checkbox"/> 相談できる
<input type="checkbox"/> あきらめない	<input type="checkbox"/> センスがいい	<input type="checkbox"/> 運動が得意	<input type="checkbox"/> 手先が器用

【対象となる生徒】

－チェックリストより抜粋－

・衝動の抑制が難しかったり、自分がどのような状態にあるかを分析や理解することが難しかったりするため、同じ失敗を繰り返したり、目的に沿って行動を調整することが苦手だったりする。

【指導の目的】

・各年齢、各学年で自分の満足度を考えることで、過去の自分を振り返り、将来の自分のなりたい姿を見付ける。

【指導の概要】

・これまで自分が歩んできた道を満足度でグラフ化する。縦軸に満足度、横軸に各年齢・各学年にして表にする。それぞれ年齢・学年でどの数字に当てはまるのかチェックし、線でつなげると浮き沈みが見えてくる。高低がついた理由を考え、過去の自分を振り返り、将来のなりたい自分の姿を考える。
・書きたくない時期があるときは、書かなくても良い。

【使用する教材及び教具】

プリント（下図参照）

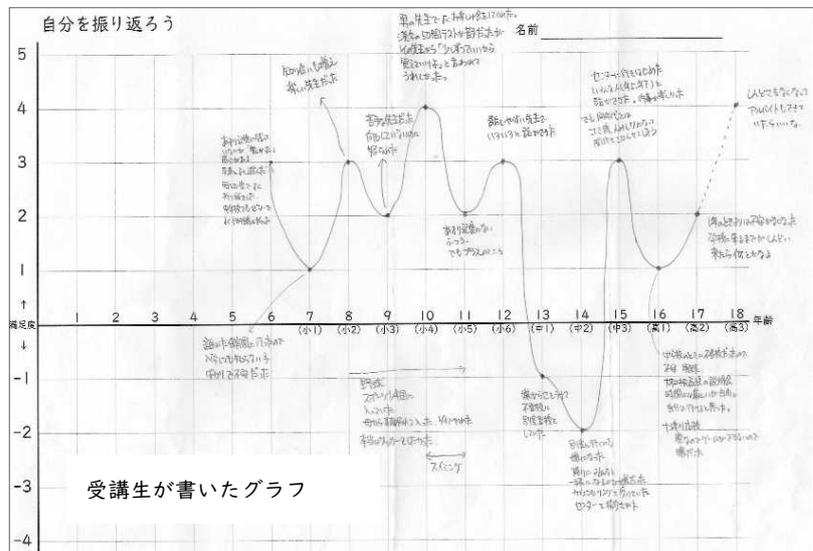
【関連する主な自立活動の区分及び項目】

「人間関係の形成」 自己の理解と行動の調整に関すること

【生徒へのPR（例）】

・これまでの歩んできた道をグラフ化します。プラスやマイナスにつけた理由を考えると、改めて、これまでの自分に気づくことができます。その気づきから、将来のなりたい自分を探します。

・グラフにしたくない時期があるときは、書かなくてもいいです。理由も言わなくていいです。書く、書かないは、自分で決めてくれても大丈夫です。



【対象となる生徒】

ーチェックリストより抜粋ー

- ・「他者がどう見ているのか」「どうしてそのような見方をするのか」など、他者の意図や感情の理解が十分でない。
- ・他者との違いから自分を否定的に捉えてしまうことがある。

【指導の目的】

- ・自分が考えた色と、他人から見た自分を色とを比べて、自己の理解を深めると共に、他者から見た自分について理解を深める。

【指導の概要】

- ・自分の色を何色か表すと共に、他人が自分ことを何色に選ぶのか、どうしてその色にしたのか理由を聞く。他人から見た自分の姿に気づき、自己の理解を深める。

【使用する教材及び教具】

プリント（下図参照）

【関連する主な自立活動の区分及び項目】

「人間関係の形成」 自己の理解と行動の調整に関すること

【生徒へのPR（例）】

- ・「私は自分のことを、緑・青・赤・黄の中で何色を選んだでしょう？」
「青だと思います。いつも冷静に判断している様子からそう思いました。」
「私も青だと思います。落ち着いたイメージからそう思いました。」
「私は赤だと思います。部活動に情熱を燃やしているからです。」
「私は自分で黄を選びました。元気なところが自分のいいところだと思っているので、明るい黄を選びました。」
「…なるほど。自分のことをそのように見ていたのか。自分の思っていたイメージと違うな。」
- ・他の人から見た自分に気付くことができます。

緑、青、赤、黄の中で何色を選びますか。
____月____日 名前

自分は 色。
理由

____は 色。
理由

____は 色。
理由

____は 色。
理由

5

コピーロボット作成 ～なりたい自分をインプット～

【対象となる生徒】

－チェックリストより抜粋－

- ・自分の長所や短所、得意や不得意を客観的に認識することが難しい。

【指導の目的】

- ・現在の自分を客観視しながら、自分の願いやなりたい自分を明らかにする。理想のコピーロボットを目標にし、自分自身の行動を変える。

【指導の概要】

- ・自分の良いところ、なりたい自分、理想の姿を考え、自分の理想のコピーロボットを描く。今の自分を知り、自分の願いやなりたい自分の姿を考える。
- ・理想のコピーロボットを目標にして、自己の行動を振り返る。

【使用する教材及び教具】

プリント（下図参照）

【関連する主な自立活動の区分及び項目】

「人間関係の形成」 自己の理解と行動の調整に関すること

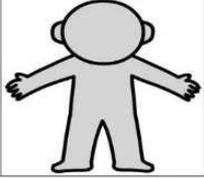
【生徒へのPR（例）】

- ・現在の自分から「なりたい自分」（＝変化・成長させたいこと、そのままにしておきたいこと）を明らかにします。日常生活や学校生活・各教科での思い、将来の夢などをインプットし、理想のコピーロボットを描きます。

- ・理想のコピーロボットを目標にして、自分の行動を変えましょう。

〈理想のコピーロボット〉

【 】	【 】
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____



6	ポジティブ思考でハッピーライフ！
<p>【対象となる生徒】</p> <p>ーチェックリストより抜粋ー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所、得意や不得意を客観的に認識することが難しい。 ・他者との違いから自分を否定的に捉えてしまうことがある。 ・過去の失敗経験等の積み重ねにより、自分に対する自信がもてず、行動することをためらいがちになる。 ・衝動の抑制が難しかったり、自分がどのような状態にあるかを分析や理解することが難しかったりするため、同じ失敗を繰り返したり、目的に沿って行動を調整することが苦手だったりする。 ・経験が少ないことや課題に取り組んでもできなかった経験などから、自己に肯定的な感情をもつことができない状態に陥っている。 	
<p>【指導の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイナスの言葉をプラスに置き換える「リフレーミング」について学び、考え方をプラスに捉えるポジティブ思考を身に付ける。 	
<p>【指導の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リフレーミングカードを使い、マイナスの言葉を、見方を変えてプラスに捉え、自分のいいところをたくさん見付けていく。 ・考え方をプラスに捉える方法について学ぶ。 	
<p>【使用する教材及び教具】</p> <p>リフレーミングカード等</p>	
<p>【関連する主な自立活動の区分及び項目】</p> <p>「人間関係の形成」 自己の理解と行動の調整に関すること</p>	
<p>【生徒へのPR（例）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の短所が「孤独」と思っている人。見方を変えるとそれは「自立している」という言葉にも置き換えられます。自分では「のろま」と感じている人も、それは「落ち着きがある」と言い換えられます。 ・自分の短所と感じているところを、違った見方をして、長所につなげます。「こんな見方ができるのか」「このように表現すると元気が出てくる」など、感じることができます。プラス言葉のシャワーをたくさん浴びましょう。 	

7	得意を伸ばして、自信UP！
<p>【対象となる生徒】</p> <p>ーチェックリストより抜粋ー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所、得意や不得意を客観的に認識することが難しい。 ・他者との違いから自分を否定的に捉えてしまうことがある。 ・過去の失敗経験等の積み重ねにより、自分に対する自信がもてず、行動することをためらいがちになる。 ・衝動の抑制が難しかったり、自分がどのような状態にあるかを分析や理解することが難しかったりするため、同じ失敗を繰り返したり、目的に沿って行動を調整することが苦手だったりする。 ・経験が少ないことや課題に取り組んでもできなかった経験などから、自己に肯定的な感情をもつことができない状態に陥っている。 ・自分の思う結果が得られず、学習への意欲や関心が低い。 ・興味のある事柄に注意する傾向があるため、結果的に活動等の全体像が把握できない。 ・興味のある一つの情報のみに注意が集中してしまうことから、活動に意識が向かない。 ・注意や集中を持続し、安定して学習に取り組むことが難しい。 ・注意喚起の特性により、注目すべき箇所が分からない、注意持続時間が短い、注目する対象が変動しやすいなどから、学習等に支障をきたす。 ・身体を常に動かしている傾向があり、自分でも気付かない間に座位や立位が大きく崩れ、活動を継続できなくなってしまう。 ・周囲のことに気が散りやすく、一つ一つの行動に時間がかかる。 ・特定の動作や行動に固執したり、同じ話を繰り返したりするなど、次の活動や場면을切り換えることが難しい。 ・活動に過度に集中してしまい、終了時刻になっても活動を終えることができない。 ・整理・整頓などの習慣が身に付いていない。 ・予定通りに物事が進まない、情緒が不安定になる。 ・日々の日課と異なる学校行事や、急な予定変更などに対応することができず、混乱したり不安になったりして、どのように行動したらよいか分からなくなる。 ・特定の動作や行動に固執したり、同じ話を繰り返したりするなど、次の活動や場면을切り換えることが難しい。 ・書かれた文章を理解したり、文字を書いて表現したりすることが苦手である。 ・視知覚のみによって文字を認識してから書こうとすると、目と手の協応動作が難しく、意図している文字がうまく書けない。 ・鉛筆の握り方がぎこちなく過度に力が入りすぎてしまうこと、筆圧が強すぎて行や枠からはみ出してしまうこと等、手や指先を用いる細かい動きのコントロールが苦手である。更に、上手く取り組めないことにより焦りや不安が生じて、余計に書字が乱れてしまうことがある。 ・板書を写すことができない。写すのに時間がかかる。 	
<p>【指導の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「覚える」「数える」「写す」「探す」「想像する」活動を通して、自分の得意な分野を見付ける。 	
<p>【指導の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「覚える」「数える」「写す」「探す」「想像する」力を使うプリントに取り組む。それぞれのプリントに取り組んだ後に、それぞれが得意か不得意か答える。得意な分野を見付けて取り組みを進めていく。苦手な分野も繰り返し取り組んでいるうちに、得意に変わってくることもある。 	
<p>【使用する教材及び教具】</p> <p>認知機能を高める教材</p>	
<p>【関連する主な自立活動の区分及び項目】</p> <p>「環境の把握」 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること</p>	
<p>【生徒へのPR（例）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「覚える」「数える」「写す」「探す」「想像する」のプリントに挑戦し、自分の得意なものを見つけていきます。 ・続けて取り組んでいるうちに、苦手と思っていたものが、「得意！」に変わるかもしれません。できるようになったときの達成感が、自信につながります。 	

【対象となる生徒】

ーチェックリストより抜粋ー

- ・他者に自分の気持ちを適切な方法で伝えることが難しく、自傷行為や他者に対しての不適切なかわり方をしてしまう。
- ・自分の行動を注意されたときに、反発して興奮を静められなくなる。
- ・自分の思う結果が得られず感情的になることがある。
- ・衝動の抑制が難しかったり、自己の状態の分析や理解が難しかったりするため、同じ失敗を繰り返し返したり、目的に沿って行動を調整することが苦手だったりする。
- ・予定通りに物事が進まない、情緒が不安定になる。

【指導の目的】

- ・ストレスの原因を考え、解消の方法を身に付ける。

【指導の概要】

- ・ストレスの原因を考え、解消方法を考える。
- ・「背骨ほぐし運動」「10秒呼吸法」「漸進性筋弛緩法」を紹介し、実際に取り組む。
- ・スクールカウンセラーとも連携を取り、必要に応じて授業に参加してもらうことも検討する。

【使用する教材及び教具】

プリント（下図参照）

【関連する主な自立活動の区分及び項目】

「心理的な安定」 状況の理解と変化への対応に関すること

【生徒へのPR（例）】

- ・ストレスを感じるのはどんなときですか？
- ・ストレスは長引かせないことが大切です。嫌なことがあっても、これをやったらスッキリするという、気持ちを切り替える方法を考えます。

社会生活 『ストレス解消法を考える』

—月—日 名前

(1) 自分が「疲れたなあ」「イライラするなあ」と思うときはどんなときですか？

(2) 困ったことや嫌なことがあったときに、普段、どのようにすることが多いですか。[] に○（よく当てはまる）、△（とちらともいえない）、×（当てはまらない）を記入してください。

- | | |
|--|-----|
| ①問題を自分で解決しようと取り掛かっている。 | [] |
| ②問題を解決するために誰かに相談する。 | [] |
| ③「気にしないことにしよう」「思い切ってチャレンジしよう」などと考え方を切り替える。 | [] |
| ④ゲームをする。 | [] |
| ⑤食べ物を食べる。 | [] |
| ⑥人にハグをもらったりする。 | [] |
| ⑦人のせいにする。 | [] |
| ⑧寝る。 | [] |
| ⑨友達とおしゃべりしたり、メールをしたりする。 | [] |
| ⑩がまんする。 | [] |
| ⑪自分を懲つけてしまう。 | [] |
| ⑫好きなこと（趣味）をやる。 | [] |
| ⑬その他 | [] |

(3) 周りの人はどんな方法でリラックスしたり、ストレス解消したりしているでしょうか、自分ができそうなものがあったら、試してみましょう。

9	身体の主人公・苦手克服
<p>【対象となる生徒】</p> <p>ーチェックリストより抜粋ー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味のある事柄に注意する傾向があるため、結果的に活動等の全体像が把握できない。 ・興味のある一つの情報のみに注意が集中してしまうことから、活動に意識が向かない。 ・注意や集中を持続し、安定して学習に取り組むことが難しい。 ・注意喚起の特性により、注目すべき箇所が分からない、注意持続時間が短い、注目する対象が変動しやすいなどから、学習等に支障をきたす。 ・身体を常に動かしている傾向があり、自分でも気付かない間に座位や立位が大きく崩れ、活動を継続できなくなってしまう。 ・周囲のことに気が散りやすく、一つ一つの行動に時間がかかる。 ・特定の動作や行動に固執したり、同じ話を繰り返したりするなど、次の活動や場面を切り換えることが難しい。 ・活動に過度に集中してしまい、終了時刻になっても活動を終えることができない。 ・整理・整頓などの習慣が身に付いていない。 ・予定通りに物事が進まない、情緒が不安定になる。 ・日々の日課と異なる学校行事や、急な予定変更などに対応することができず、混乱したり不安になったりして、どのように行動したらよいか分からなくなる。 ・特定の動作や行動に固執したり、同じ話を繰り返したりするなど、次の活動や場面を切り換えることが難しい。 ・書かれた文章を理解したり、文字を書いて表現したりすることが苦手である。 ・視知覚のみによって文字を認識してから書こうとすると、目と手の協応動作が難しく、意図している文字がうまく書けない。 ・鉛筆の握り方がぎこちなく過度に力が入りすぎてしまうこと、筆圧が強すぎて行や枠からはみ出してしまうこと等、手や指先を用いる細かい動きのコントロールが苦手である。更に、上手く取り組めないことにより焦りや不安が生じて、余計に書字が乱れてしまうことがある。 ・板書を写すことができない。写すのに時間がかかる。 	
<p>【指導の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道具を使ったり、人と力を合わせたりして、瞬発力や協調運動能力を高め、身体の使い方を知り、苦手な動きも繰り返し取り組むことで改善を目指す。 	
<p>【指導の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙を丸めた棒を使い、「1回転させて掴む」「ペアの相手にリズムよく棒を投げ、同時に投げられた棒を掴む」など、いろいろな運動に取り組む。物をコントロールする活動を通して、瞬発力や協調運動能力を高める。 ・その他、柔軟運動やバランス運動からボディイメージを高めたり、ペアで押し合う・力を合わせる運動から効果的な筋肉の力の入れ方を学んだりする。 ・繰り返し活動することで、身体の不器用さにアプローチする。 	
<p>【使用する教材及び教具】</p> <p>新聞紙の棒、爪楊枝、紙等</p>	
<p>【関連する主な自立活動の区分及び項目】</p> <p>「身体の動き」 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること</p>	
<p>【生徒へのPR（例）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手先は器用ですか？ 運動は得意ですか？ ・新聞紙の棒を使って物をコントロールする力を養います。 ・ペアで向かい合い押し合しあうことで、相手の力を感じ、力加減を知ります。 ・繰り返し活動することで、できることが増え、「できた！」「得意！」と感ずることが出来ます。 	

10	My dream job
<p>【対象となる生徒】</p> <p>ーチェックリストより抜粋ー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所、得意や不得意を客観的に認識することが難しい。 ・他者との違いから自分を否定的に捉えてしまうことがある。 ・過去の失敗経験等の積み重ねにより、自分に対する自信がもてず、行動することをためらいがちになる。 ・衝動の抑制が難しかったり、自分がどのような状態にあるかを分析や理解することが難しかったりするため、同じ失敗を繰り返したり、目的に沿って行動を調整することが苦手だったりする。 ・経験が少ないことや課題に取り組んでもできなかった経験などから、自己に肯定的な感情をもつことができない状態に陥っている。 	
<p>【指導の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な職業を知り、どのような職種に興味・関心があるのかを知り、今後の職業選択につなげる。 	
<p>【指導の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事カードを使って、「やりたい」「やりたくない」「どちらでもない」に分け、どんなところに興味を引くのか、どんなところが楽しそうなのか、どんなところが嫌なのかを考える。 ・「やりたい」カードの中から一番を選び、その理由も考える。 ・具体的な職業をイメージする中で将来の仕事について考える機会をもつ。 ・やりたい仕事ができるようになるための計画を考える。 	
<p>【使用する教材及び教具】</p> <p>職業カード</p>	
<p>【関連する主な自立活動の区分及び項目】</p> <p>「人間関係の形成」 自己の理解と行動の調整に関すること</p>	
<p>【生徒へのPR（例）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事には、様々な職業があります。自分はどのような職業に興味があるのかを考えます。 ・たくさんある仕事カードから、「やりたい」「やりたくない」「どちらでもない」を分別しながら理由も考えると、自分の思いが明確になってきます。 	

【対象となる生徒】

- ・就職先が決まった生徒
- ・卒業後に人間関係やコミュニケーションに不安がある生徒

【指導の目的】

- ・卒業後に必要な力に気付き、どんな力をつけたいかを考え、今後の授業に生かす。

【指導の概要】

・卒業後に必要な力「困ったときに人にたずねる」「人に依頼をする」「メモをとる」など、いろいろなスキルが自分でどれくらいできるかを自己分析し、つけたい力を考え、今後の取組の参考にする。

【使用する教材及び教具】

プリント（下図参照）

【関連する主な自立活動の区分及び項目】

「人間関係の形成」 自己の理解と行動の調整に関すること

【生徒へのPR（例）】

- ・就職、進学が決まった後に、これからどんな学習をしたいかを考えます。
- ・困ったことがあるときは、今はどうしていますか？ 卒業後、職場で分からないことあるときどうしますか？ いろいろな不安を取り除き、「これで大丈夫！」と思って卒業することを目指します。これからどんな学習をしたいのか一緒に考えましょう。

社会生活 『スキルを身に付けてイケてる社会人に！』
 月 日 名前

内定おめでとう!!

いよいよ卒業です！
 目指していたスタートダッシュが出来るように、残り期間、いろいろなことに挑戦し、
 いろいろな力を身につけましょう。



『後期の授業について』
 ◎の箇所
 考えよう「こんな力をつけたい!」

1. 内定が決まった会社のホームページを見てみよう。
2. 4月から必要となる項目です。それぞれの項目について、どれに当てはまるか考えてみましょう。

記入例
 ストレス解消 1 2 3 ④ 5

3. 社会生活の授業でやってみたい内容はどれですか

ストレス解消

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

他人に話しかける

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

わかりやすく説明する

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

困ったときに人にたずねる

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

お願いをする

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

読みを断る

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

人の話を聞く

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

メモをとる

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

1	2	3	4	5
できない	あまりできない	少しできる	かなりできる	できる!

ストレス解消

「嫌れたな」「イライラするな」と思う時のストレス解消の方法を考えます。



きっかけことばを身につけよう

他人に声をかけたい時に、どのタイミングでどのように声をかけたいのかを考えます。

わかりやすく説明しよう

相手にわかりやすく伝える方法を考えます。

困ったときどうする

困ったことがあったときにどうしたらいいかを考えます。



上手なお願いの仕方

お断りの仕方、依頼の仕方を考えます。

断り方を考えよう

断り方の方法を考えます。



人の話を聞くコツ

聞き上手の話を目標として、聞くコツを考えます。

実践 記録帳

授業・体験・記録って何？ どうすればいいの？ 記録をしたが、いろいろな方法を一緒に考えます。



メモをとってみよう

授業中に目録をつ、聞いたことをメモする方法を考えます。



13 面接における心構え① ～自立活動を語る～

【対象となる生徒】

- ・就職試験等で面接を控えている生徒

【指導の目的】

・「社会生活」「ライフマネジメント」は、特別支援学校の「自立活動」に相当する内容を行っている。就職試験先などに提出される調査書には「自立活動」と記載されており、面接時に「自立活動」に関する質問がされても、自分の言葉で説明できるようにする。

【指導の概要】

・「自立活動」で、どのような内容に取り組み、どのような力が付いたのかを、自分の言葉で説明できるようにする。

【使用する教材及び教具】

プリント（下図参照）

【関連する主な自立活動の区分及び項目】

「人間関係の形成」 自己の理解と行動の調整に関すること

【生徒へのPR（例）】

・「社会生活」「ライフマネジメント」の授業で、どんな力がつきましたか？

・自分の言葉でその成果を伝えられるようにしてください。それが「自立活動って何ですか？」の質問の答えになります。

面接における心構え～自立活動を語る～
____月____日 名____前

「社会生活」 = 調査書では「自立活動」って書かれています

面接で…
「自立活動って何ですか？」
「自立活動ではどんな学習をしましたか？」など、
質問されるかもしれません。

↓↓↓
「自立活動」のことを説明できるようになっておく必要があります！

④考えてみよう…
・自分の得意なこととはどんなことですか？

・どんな学習をしましたか？

・どんなことができるようになりましたか？

⑤まとめよう！

【対象となる生徒】

- ・就職試験等で面接を控えている生徒

【指導の目的】

- ・これまで培ってきた力を発揮し、面接本番で自信をもって答えられるようになる。

【指導の概要】

- ・面接に関して、これまで学習してきたことを総復習する。
- ・面接の練習を通じて、面接での不安や緊張を取り除く方法を考える。

【使用する教材及び教具】

プリント（下図参照）

【関連する主な自立活動の区分及び項目】

「人間関係の形成」 自己の理解と行動の調整に関すること

【生徒へのPR（例）】

・いよいよ就職試験。自信をもって就職試験にのぞめるように、総まとめします。

面接における心構え（「進路のしおり」より）

【面接】

面接は受験生の性格や態度などを見抜く力をもっています。「その場だけ精進しなくてはならない」という気持ちでは、採用内定を得られません。日ごろから自分の考えをまとめ、能力や適性を身につけましょう。また、面接で重視する点は、「基本的な生活習慣」「コミュニケーション能力」や「協調性」などです。

普段から敬語で話すなど、社会人としての会話能力の向上を目指しましょう。

●面接にあたって

【身だしなみ】

・本日は面接。服装が自由なので、就職試験に受けに行くときは自分で用意したスーツを準備しておきましょう。

【面接会場で】

【入室から挨拶までの手順】

※「進路のしおり」で確認してください。

【座っている時の姿勢】

・姿勢を伸ばして、深く息を吐き出さなければなりません。

・男子は、手の指を軽く握り、軽く手を握り手の上には、女子は両手を重ねて膝の上に。

【面接中の言動】

・面接者の質問には、相手の目をみてはっきり答える。

・言葉づかいに気をつける。（相手に対しては敬語、自分に対しては謙語）

・質問に対してはグラフや表を、簡潔明瞭に答える。

言葉づかい（特に注意）

口敬語（尊敬語・謙敬語）を適切に使う。

口若者言葉や略語（「マジ」「超」「やっぱ」「バイト」など）を使わない。

口語感を伸ばさない。

口自分を「わたし」「わたくし」といい、志望会社を「御社」という。

面接は緊張を覚えていると思います。相手に好意を持っては、緊張がやさしくなり、その気持ちが相手に伝わります。面接では、目を大きく開き話を聞かせるというふうなマニアル的な考えではなく、面接官に好感をもち、入社したい気持ちを素直に表すことを意識して、面接官に熱い想いを伝えることが大切です。

15	自分のための友達のいいところ探し!?
<p>【対象となる生徒】</p> <p>ーチェックリストよりー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「他者が自分をどう見ているか」「どうしてそのような見方をするのか」など、他者の意図や感情の理解が十分でない。 ・思ったことをそのまま口にして相手を不快にさせるような表現を繰り返したりする。 ・言葉を字義通りに受け止めてしまい、行動や表情に表れている相手の真意の読み取りを間違えることがある。 ・他者の意図を理解することが難しい。 	
<p>【指導の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達のいいところに気付き、友達に伝えると喜ぶ言葉を考える。また、友達のいいところ探しと同じようにして、自分のいいところを見付ける。 	
<p>【指導の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達のいいところをたくさん見付け、友達に言ってあげると喜ぶ言葉をたくさん考える。友達のいいところ見付けたようにして、自分のいいところも見付ける。 ・「性格肯定的な表現一覧表」など様々な方法を用いて友達や自分の良いところを見付ける。 	
<p>【使用する教材及び教具】</p> <p>性格肯定的な表現一覧表 等</p>	
<p>【関連する主な自立活動の区分及び項目】</p> <p>「人間関係の形成」 他者の意図や感情の理解に関すること 自己の理解と行動の調整に関すること</p>	
<p>【生徒へのPR（例）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達に親切にされて嬉しかったこと…友達に悩みを聞いてもらって解決したこと… <p>その気持ちを友達に伝えるなら、どんな言葉で伝えますか。友達のいいところを見付けて、喜ぶ言葉を考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達のいいところをたくさん見付けられたら、次は自分のいいところも見付けましょう。 	

【対象となる生徒】

－チェックリストより－

- ・「他者が自分をどう見ているか」「どうしてそのような見方をするのか」など、他者の意図や感情の理解が十分でない。
- ・思ったことをそのまま口にして相手を不快にさせるような表現を繰り返したりする。
- ・言葉を字義通りに受け止めてしまい、行動や表情に表れている相手の真意の読み取りを間違えることがある。
- ・他者の意図を理解することが難しい。
- ・自分の長所や短所、得意や不得意を客観的に認識することが難しい。
- ・他者との違いから自分を否定的に捉えてしまうことがある。

【指導の目的】

・様々な状況で、自分がどのような気持ちになっているかを考え、他人とも比べながら、他者と違いがあることに気付く。

【指導の概要】

・状況カードを選び、その状況からどんな気持ちになるのか、「嬉しい」「悲しい」「嫌だ」「驚いた」の中から選ぶ。2人以上ですることによって、それぞれどんな気持ちになったのかを見比べ、同じ状況なのに、それぞれ違った気持ちに気付くことを目指す。

【使用する教材及び教具】

状況カード、表情カード、プリント（下図参照）

【関連する主な自立活動の区分及び項目】

「人間関係の形成」 他者の意図や感情の理解に関すること
自己の理解と行動の調整に関すること

【生徒へのPR（例）】

・お母さんからお年玉をもらい、中を見ると1万円札が入っていました。どんな気持ちですか？
嬉しい、驚くなど、いろいろな感じ方がありますね。

同じ状況でも、自分と他人とは違った気持ちになる時があります。

・感じ方の違いに気付き、相手の気持ちを考えられるようになります。



先生から：
明日までに、理科のレポートを10枚提出しなさい。

お母さんから：
次の日曜日に好きなゲームのソフトを買ってあげる。

友達から：
金曜日の夜、うちで泊まって遊ぼう。

先生から：
この前のテストは100点だったよ。

お母さんから：
お年玉袋を開けると1万円札が入っていた。

【対象となる生徒】

ーチェックリストよりー

- ・思ったことをそのまま口にして相手を不快にさせるような表現を繰り返したりする。
- ・他者に自分の気持ちを適切な方法で伝えることが難しく、自傷行為や他者に対しての不適切なかわり方をしてしまう。

【指導の目的】

- ・良好な人間関係を築く自己表現が身に付けることを目指す。

【指導の概要】

- ・良好な人間関係を築く「アサーショントレーニング」について学ぶ。

【使用する教材及び教具】

プリント（下図参照）

【関連する主な自立活動の区分及び項目】

「コミュニケーション」 状況に応じたコミュニケーションに関すること

【生徒へのPR（例）】

- ・アサーショントレーニングって、知っていますか？
- ・自分も相手も大切にしたい自己表現を身に付けていくトレーニングです。自分の気持ちや考えを正直に率直に伝えられるように、その場にふさわしい表現ができることを目指します。

「アサーション」でお互いを傷つけない自己主張！

_____月_____日 名前_____

◎アサーションとは…

◎3つのタイプ

例) レストランで、自分が注文したメニューと違う料理が出てきました。

- ・攻撃的な自己表現

- ・非主張的な自己表現

- ・アサーティブな自己表現

◎考えてみよう 「あなたならどう言いますか？」

- ・友達と映画を観に行きました。しかし、何を観るかで友達と意見が割れました。友達はホラー映画を観たいと言いました。あなたはホラー映画が「一番観たくないジャンル」です。

【対象となる生徒】

ーチェックリストよりー

- ・他者に自分の気持ちを適切な方法で伝えることが難しく、自傷行為や他者に対しての不適切なかわり方をしてしまう。
- ・自分の行動を注意されたときに、反発して興奮を静められなくなる。
- ・自分の思う結果が得られず感情的になることがある。
- ・衝動の抑制が難しかったり、自己の状態の分析や理解が難しかったりするため、同じ失敗を繰り返したり、目的に沿って行動を調整することが苦手だったりする。
- ・予定通りに物事が進まない、情緒が不安定になる。

【指導の目的】

- ・怒りを感じたときに、自分の怒りをコントロールできる方法を身に付けることを目指す。

【指導の概要】

- ・怒りを感じたときの対処法「アンガーマネジメント」について学ぶ。

【使用する教材及び教具】

プリント（下図参照）

【関連する主な自立活動の区分及び項目】

「心理的な安定」 情緒の安定に関すること

【生徒へのPR（例）】

・「怒り」をコントロールする「アンガーマネジメント」。友達とのトラブルでついイラッとしてしまうことがあると思います。アンガーマネジメントについて学び、自分の怒りをコントロールする方法を身に付けましょう。友達とのトラブルも回避できます。

怒りと上手に付き合おう

____月____日 名前 _____ 

1. あなたは怒りを抑えきれずに激怒したことはありますか？ 

いつ？	
原因は？	
激怒したとき、どうなりましたか？	
落ち着いてからどんな気持ちにできたか？	

2. あなたは激怒した人を見たことがありますか？

いつ？	
原因は？	
それを見てどうもいいましたか？	
落ち着いてからどんな気持ちにできたか？	

3. (1で答えた人) 適切な怒りの表現方法は？ 

4. 激怒せずに、感情をコントロールするためにはどうすればいいでしょうか？

【対象となる生徒】

ーチェックリストよりー

- ・言葉でのコミュニケーションが困難である。
- ・自分の考えを相手に伝えることが難しい。
- ・他者に自分の気持ちを適切な方法で伝えることが難しく、自傷行為や他者に対しての不適切なかわり方をしてしまう。
- ・言葉は知っているものの、その意味を十分に理解せずに活用したり、意味を十分に理解していないことから活用できず、思いや考えを正確に伝える語彙が少ない。
- ・援助を求めたり依頼したりすること、必要なことを伝えたり相談したりすることが難しい。

【指導の目的】

- ・自分の意見や思いを、相手に分かりやすく伝えられるようになる。

【指導の概要】

- ・思っていることを分かりやすくまとめる学習する。伝えたいことのキーワードをあげ、キーワードに関連する内容を考えます。要点を絞って伝える練習をする。

(フレームワーク=ポイントをパターンとして落とし込んで考えるための枠組み)

【使用する教材及び教具】

プリント (下図参照)

【関連する主な自立活動の区分及び項目】

「コミュニケーション」 状況に応じたコミュニケーションに関すること

【生徒へのPR (例)】

・自分の意見をうまくまとめられない、何を伝えればいいのかよく分からないなど、相手に何かを伝えることは難しいものです。まずキーワードをあげ、キーワードに関することをまとめると、自分の意見や考えを整理することができます。繰り返し練習し、就職試験の面接の際には、自信をもって答えられるようになりましょう。

※キーワードを書く

※キーワードに関するエピソードを書く

_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____

20	メモ力向上でうっかりミスをなくそう！
<p>【対象となる生徒】 ーチェックリストよりー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話の内容を記憶して前後関係を比較したり類推したりすることが困難である。 ・忘れ物や失う物が多い。 	
<p>【指導の目的】 ・相手から伝えられたことを聞きながら、メモを取ることができるようになる。</p>	
<p>【指導の概要】 ・いろいろな状況を設定して、聞き取った内容をメモしていく。メモを取るコツや、自分に合ったメモの取り方を考える。</p>	
<p>【使用する教材及び教具】 プリント（メモ用紙）等</p>	
<p>【関連する主な自立活動の区分及び項目】 「コミュニケーション」 言語の受容と表出に関すること</p>	
<p>【生徒へのPR（例）】 ・普段メモを取っていますか。「提出はいつだったかな？」「何時に集合だった？」など、つい忘れてしまうことも、メモを取って確認することで安心できます。 ・メモを取ることを習慣化することで、解決できることが多くなります。それは卒業後にも役立ちます。</p>	

21 できる大人の報告の仕方！

【対象となる生徒】

ーチェックリストよりー

- ・自分の考えを相手に伝えることが難しい。
- ・言葉は知っているものの、その意味を十分に理解せずに活用したり、意味を十分に理解していないことから活用できず、思いや考えを正確に伝える語彙が少ない。
- ・言葉でのコミュニケーションが困難である。
- ・援助を求めたり依頼したりすること、必要なことを伝えたり相談したりすることが難しい。

【指導の目的】

- ・報告する注意点を知り、聞いた内容や自分が経験したことを、正しく報告できるようになる。

【指導の概要】

- ・「分かりやすく説明する」「メモを取る」学習を生かして、いろいろな状況から、相手に分かりやすい報告方法を考える。

【使用する教材及び教具】

プリント（メモ用紙）等

【関連する主な自立活動の区分及び項目】

「コミュニケーション」 言語の受容と表出に関すること

【生徒へのPR（例）】

- ・聞いたこと、見たことをそのまま伝えるのが報告ではありません。「報告するタイミングは？」「相手にどのようなことを報告するの？」など、ちょっとしたコツを身に付けましょう。
- ・仕事での「報連相」につながる学習です。

○報告の注意点

- ・タイミングよく報告
- ・いま話してよいかどうか、上司の都合を聞いてから話し出す。
- ・報告は簡潔、明瞭に。
- ・報告する必要な事柄、不必要な事柄を区別する。
- ・まず最初に結論を。結論→経過→理由→私見。前もって報告事項をまとめる習慣をつけよう。
- ・できなかった言い訳や苦言は基本的に不必要。
- ・ミスやトラブルはすぐに報告。
- ・ダメなときは付箋（メモ）で。相手が戻ってきたときには、言葉でも伝える。

【対象となる生徒】

ーチェックリストよりー

- ・自分の考えを相手に伝えることが難しい。
- ・言葉でのコミュニケーションが困難である。
- ・援助を求めたり依頼したりすること、必要なことを伝えたり相談したりすることが難しい。

【指導の目的】

- ・人に話しかけるきっかけの言葉を言えるようになる。

【指導の概要】

- ・人に話しかけるときの言い方や話しかけるタイミングを考える。

【使用する教材及び教具】

プリント（下図参照）

【関連する主な自立活動の区分及び項目】

「コミュニケーション」 状況に応じたコミュニケーションに関すること

【生徒へのPR（例）】

- ・人に話しかけられずに大事な用事が果たせなかったことはないですか？
- ・自分の存在に気付いてもらえるように言い方や声をかけるタイミングを考えます。
- ・いろいろなケースを考えるので、これできっと自分から話しかけられるようになるでしょう。

○きっかけの言葉を考える○

____月 ____日 名前 _____

ケース1

休み時間の廊下です。たくさんの生徒がいる中、チューダーの先生が前から歩いてきています。今日、用事があり早退しなければなりません。

☆このケース…あなたならどうしますか？

〈どのような行動をとりますか・どのように言いますか〉

ケース2

プリントの提出期限を少し遅れたので、休み時間に数学のプリントを提出しに職員室に行こうとしました。ちょうど廊下に数学の先生がいましたが、他の生徒と話をしているこちらには気づいていません。



☆このケース…あなたならどうしますか？

〈どのような行動をとりますか・どのように言いますか〉

【対象となる生徒】

－チェックリストより－

- ・話の内容を記憶して前後関係を比較したり類推したりすることが困難である。
- ・援助を求めたり依頼したりすること、必要なことを伝えたり相談したりすることが難しい。
- ・言葉の意味理解の不足や間違いなどから、友達との会話の背景や経過を類推することが難しく、そのため集団に積極的に参加できない。

【指導の目的】

- ・困った状況下で、どのように伝えたら良いか考え、具体的な対処方法を身に付ける。

【指導の概要】

- ・様々な困ったと思われる状況から、どのように対処すればいいかを考える。

【使用する教材及び教具】

プリント（下図参照）

【関連する主な自立活動の区分及び項目】

「コミュニケーション」 状況に応じたコミュニケーションに関すること

【生徒へのPR（例）】

- ・学校や就職先で困ったとき、具体的にどうすればいいのか？一緒に考えましょう。
- ・困ったときにどのような行動を取ればいいのか、対処方法が身に付きます。

○困ったときどうする○

_____月 _____日 _____名前

考えてみよう…学校編

ケース1

数学の時間。いつもの教室に行くけど、鍵が閉まっていて教室の前にも誰もいません。



☆このケース…あなたならどうしますか？
(どのような行動をとりますか)

ケース2

今日は数学のノートの提出日です。黒板の内容をノートに書こうとしましたが、筆箱を家に忘れてしまいました。



☆このケース…あなたならどうしますか？
(だれに・どのように言いますか)

ケース3

ノートの提出期限を少し遅れたので、休み時間にノートを提出しに職員室に行こうとしました。ちょうど廊下に数学の先生がいましたが、他の生徒と話をしていたこちらには気づいていません。



☆このケース…あなたならどうしますか？
(どのような行動をとりますか・どのように言いますか)

24 思わず手伝いたくなる…依頼の仕方

【対象となる生徒】

ーチェックリストよりー

- ・ 援助を求めたり依頼したりすること、必要なことを伝えたり相談したりすることが難しい。
- ・ 文章を読んで学習する時間が増えるにつれ、理解が難しくなり、学習に対する意欲を失い、やがては生活全体に対しても消極的になってしまう。

【指導の目的】

- ・ 相手の気持ちを考え、適切な依頼の仕方を身に付ける。

【指導の概要】

- ・ 相手の気持ちを考えながら、言葉遣いや態度に気を付けながら、適切な依頼の仕方を考える。

【使用する教材及び教具】

プリント

【関連する主な自立活動の区分及び項目】

「コミュニケーション」 状況に応じたコミュニケーションに関すること

【生徒へのPR（例）】

- ・ 他者に依頼するとき、快く引き受けてもらえるかは、自分自身の態度にかかっています。相手が「なんとかしてあげたい」と思ってもらえるような言動を一緒に考えましょう。
- ・ 相手の立場に立ながら、適切な依頼ができるようになります。

25	これであなたも聞き上手
<p>【対象となる生徒】 -チェックリストより-</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話の内容を記憶して前後関係を比較したり類推したりすることが困難である。 ・言葉の〇〇〇〇〇〇意味理解の不足や間違いなどから、友達との会話の背景や経過を類推することが難しく、そのため集団に積極的に参加できない。 	
<p>【指導の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の話の聞く方法を身に付ける。 	
<p>【指導の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の話を聞くコツや相手に聞いていることが分かってもらえる方法等を考える。 	
<p>【使用する教材及び教具】 プリント</p>	
<p>【関連する主な自立活動の区分及び項目】 「コミュニケーション」 状況に応じたコミュニケーションに関すること</p>	
<p>【生徒へのPR（例）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「きちんと聞いている？」と、話し手から注意を受けたことはありませんか？ ・人の話を聞くときに、内容を聞き取ることはもちろんですが、話し手に“聞いてますよ”という意思表示をすることが大切です。コミュニケーションで大事な一つ、聞くコツを身に付けましょう。 	

26	緊張をぶっとばせ！ 上手な自己紹介の仕方
<p>【対象となる生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを相手に伝えることが難しい ・言葉は知っているものの、その意味を十分に理解せずに活用したり、意味を十分に理解していないことから活用できず、思いや考えを正確に伝える語彙が少ない。 ・言葉でのコミュニケーションが困難である。 	
<p>【指導の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて会った人に良い印象を与える自己紹介の方法を身に付ける。 	
<p>【指導の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介するための自分のデータを集め、データを整理して、相手に良い印象を与える自己紹介を練習する。 	
<p>【使用する教材及び教具】</p> <p>プリント</p>	
<p>【関連する主な自立活動の区分及び項目】</p> <p>「人間関係の形成」 自己の理解と行動の調整に関すること</p>	
<p>【生徒へのPR（例）】</p> <p>・急に「自己紹介をお願いします」言われても、なかなか難しいものです。人前で話すとなると緊張するし、また自分のPRを短時間で考えなくてはいけない焦りから、頭が真っ白になるかもしれません。自分のことを知ってもらうために、まずは自分のことを振り返り、そして上手に伝えられる練習をします。初対面の人に良い印象をもってもらうことは大切です。好印象を与える自己紹介を考えましょう。</p>	

27	人間関係を良好に保つ適切な距離感の取り方
<p>【対象となる生徒】</p> <p>－チェックリストより－</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対処方法を知らないので、適切に応じることができない。 ・思ったことをそのまま口にして相手を不快にさせるような表現を繰り返したりする。 ・言葉を字義通りに受け止めてしまい、行動や表情に表れている相手の真意の読み取りを間違えることがある。 ・状況にそぐわない受け答えをする。 ・他者の意図を理解することが難しい。 ・自分の考えを相手に伝えることが難しい。 ・援助を求めたり依頼したりすること、必要なことを伝えたり相談したりすることが難しい。 ・集団に参加することが困難な場合がある。 	
<p>【指導の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面や状況で、よりよい人間関係の向上を目指す。 	
<p>【指導の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「初対面の人」「苦手な人との付き合い方」「異性との付き合い方」「他人との距離」など、人と付き合っていく上で、大切なスキルを考える。 	
<p>【使用する教材及び教具】</p> <p>プリント</p>	
<p>【関連する主な自立活動の区分及び項目】</p> <p>「コミュニケーション」 状況に応じたコミュニケーションに関すること</p>	
<p>【生徒へのPR（例）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「初対面の人と話すのは嫌だな」「苦手な人に対しては、できるだけ関わらないようにしよう」など、これまで人と付き合い中でいろいろな経験をしていると思います。様々な状況から、どのように付き合っていけば良いのか、人間関係を良くする方法を一緒に考えます。 	

【対象となる生徒】

- ・自分の考えを相手に伝えることが難しい。
- ・言葉は知っているものの、その意味を十分に理解せずに活用したり、意味を十分に理解していないことから活用できず、思いや考えを正確に伝える語彙が少ない。
- ・言葉でのコミュニケーションが困難である。
- ・援助を求めたり依頼したりすること、必要なことを伝えたり相談したりすることが難しい。

【指導の目的】

- ・これまで培ってきたコミュニケーション力を生かし、就職してから大事な要素である「報告・連絡・相談」のスキルを身に付ける。

【指導の概要】

- ・いろいろな場面を設定して、報告・連絡・相談の仕方を一緒に考える。

【使用する教材及び教具】

プリント

【関連する主な自立活動の区分及び項目】

「コミュニケーション」 状況に応じたコミュニケーションに関すること

【生徒へのPR（例）】

- ・仕事をする上で「報連相」はとても大切です。いろいろな場面を設定して、報連相を経験してみましょう。
- ・これまでの学習の集大成。卒業後も自信をもって「報連相」ができるでしょう。

【対象となる生徒】

ーチェックリストよりー

- ・対処方法を知らないなので、適切に応じることができない。
- ・思ったことをそのまま口にして相手を不快にさせるような表現を繰り返したりする。
- ・「もう少し」「そのくらい」「大丈夫」など、意味内容に幅がある抽象的な表現を理解することに困難があるため、指示の内容を具体的に理解することが難しい。
- ・特定の場所や状況で会話できないことがある。
- ・言葉の意味理解の不足や間違いなどから、友達との会話の背景や経過を類推することが難しく、そのため集団に積極的に参加できない。
- ・言葉でのコミュニケーションが困難である。
- ・他者の意図を理解することが難しい。
- ・自分の考えを相手に伝えることが難しい。
- ・集団に参加することが困難な場合がある。
- ・注意や集中を持続し、安定して学習に取り組むことが難しい。

【指導の目的】

- ・複数の人数で取り組むことで、仲間意識を育みながら必要なコミュニケーション力を身に付ける。

【指導の概要】

- ・やりたいゲームを選ぶ。安心して取り組める雰囲気の中でゲームに取り組む。必要に応じて、ルールの説明をしたり、ゲームの中でやりとりしたりできるように促す。ゲーム上で不適切な発言等があった場合には、その都度、適切な方法を考えるようにする。

【使用する教材及び教具】

トランプ、ボードゲーム等

【関連する主な自立活動の区分及び項目】

「コミュニケーション」 状況に応じたコミュニケーションに関すること

【生徒へのPR（例）】

- ・みんなでゲームをやってみませんか？ 知っているゲームがあれば、ルールやゲームの魅力、必勝法などを教えてください。ゲームを通してコミュニケーション力 UP!を目指します。
- ・是非やってみたいゲームも紹介してください。

【対象となる生徒】

ーチェックリストよりー

- ・対処方法を知らないので、適切に応じることができない。
- ・思ったことをそのまま口にして相手を不快にさせるような表現を繰り返したりする。
- ・言葉を字義通りに受け止めてしまい、行動や表情に表れている相手の真意の読み取りを間違えることがある。
- ・「もう少し」「そのくらい」「大丈夫」など、意味内容に幅がある抽象的な表現を理解することに困難があるため、指示の内容を具体的に理解することが難しい。
- ・状況にそぐわない受け答えをする。
- ・他者の意図を理解することが難しい。
- ・自分の考えを相手に伝えることが難しい。
- ・援助を求めたり依頼したりすること、必要なことを伝えたり相談したりすることが難しい。
- ・集団に参加することが困難な場合がある。
- ・衝動の抑制が難しかったり、自己の状態の分析や理解が難しかったりするため、同じ失敗を繰り返したり、目的に沿って行動を調整することが苦手だったりする。
- ・特定の動作や行動に固執したり、同じ話を繰り返したりするなど、次の活動や場面を切り換えることが難しい。

【指導の目的】

- ・対人関係や集団行動を営んでいく上で、苦手なことや困難なことについて、スキルを身に付ける。

【指導の概要】

- ・生徒にとって、苦手なことや困難なこと等、個々に実態に応じて、取組を進める。ただ、苦手なことや困難なことなどばかりを取り上げるのではなく、生徒の得意なことやうまくいった体験などにも焦点を当て、取組の中に入れていく。

【使用する教材及び教具】

プリント等

【関連する主な自立活動の区分及び項目】

人間関係の形成 集団への参加の基礎に関すること

【生徒へのPR(例)】

- ・集団の中で人とのやりとりが上手いいかないことはないですか。何か困ったことがあったら相談してください。
- ・「こんな力を付けたいので、〇〇をやってみたい！」など、やりたいことを教えてください。内容を一緒に考えていきましょう。

31 実践スケジュール管理① ～目指せ、得点アップ!～

【対象となる生徒】

ーチェックリストよりー

- ・周囲のことに気が散りやすく、一つ一つの行動に時間がかかる。
- ・整理・整頓などの習慣が身に付いていない。
- ・計画を立てることが難しい・苦手である。
- ・忘れ物や失うものが多い。

【指導の目的】

- ・考査に向けて、計画を立てることで自己管理の意識をもち、主体的に取り組もうとする姿を育てる。
- ・考査に向けて立てた計画が、どのくらい活用し取り組むことができたか振り返り、改善点等を見つけて、次の考査に生かす。

【指導の概要】

- ・考査日を確認し、その日までに、「何を」「いつ」「どのくらい」勉強をするのかを具体的に考え、それをスケジュール帳などに書き込んでいく。
- ・考査終了後には、実際に計画どおりに進めることができたか、できなかったのはどんなところかを考え、次の考査に向けての改善点を探る。

【使用する教材及び教具】

プリント（下図参照）、考査時間割表

【関連する主な自立活動の区分及び項目】

「環境の把握」 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること

【生徒へのPR（例）】

- ・定期考査前に、得点アップを目指して、テスト勉強の計画を立てます。考査日をゴールとして、それに向かって計画を立てることというのは、仕事をする上でもとても重要な力になります。計画を立てるスキルが身に付きます。
- ・是非、この学習を通して、計画を立てる経験をし、得点アップにつなげましょう。

後期 期末考査に向けて

	2月1日(金)	2月7日(土)	2月9日(日)	2月9日(日) 実習日	2月10日(月) 中期考査①	2月16日(木) 中期考査②	2月17日(木) 中期考査③	2月18日(金) 中期考査④	2月23日(土)	2月24日(日)	2月25日(月)	2月25日(月) 中期考査⑤
1時限					数学	世界史	実用国語	地理基礎				地理
2時限					体育		消費生活					
3時限												
4時限												
5時限												
6時限												
7時限												
8時限												
9時限												
10時限												
11時限												
12時限												
13時限												
14時限												
15時限												
16時限												
17時限												
18時限												
19時限												
20時限												
21時限												
22時限												
23時限												
24時限												
25時限												
26時限												
27時限												
28時限												
29時限												
30時限												
31時限												
32時限												
33時限												
34時限												
35時限												
36時限												
37時限												
38時限												
39時限												
40時限												
41時限												
42時限												
43時限												
44時限												
45時限												
46時限												
47時限												
48時限												
49時限												
50時限												
51時限												
52時限												
53時限												
54時限												
55時限												
56時限												
57時限												
58時限												
59時限												
60時限												

テストに向けて取り組む内容

テストの時間割

33	いつまでもあると思うな、そのお金！
<p>【対象となる生徒】</p> <p>－チェックリストより－</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画を立てることが難しい・苦手である。 	
<p>【指導の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小遣いの使い道を確認し、小遣い帳を記入することを通して、金銭感覚を養い、金銭管理の重要性を学ぶ。 	
<p>【指導の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金銭の使い道を振り返り、自分に合った小遣い帳を考える。 ・友達との金銭の貸し借り等、お金にまつわる注意点についても学習する。 	
<p>【使用する教材及び教具】</p> <p>プリント</p>	
<p>【関連する主な自立活動の区分及び項目】</p> <p>「環境の把握」 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること</p>	
<p>【生徒へのPR（例）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小遣い帳をつけていますか？ 小遣い帳をつけておくと、何を買ったかがあとで分かり、無駄遣いを減らすことができます。できるだけ長く続けられるように、自分にあった小遣い帳の付け方を考えましょう。将来、家計簿も付けられるようになります。 ・お金にまつわる様々なトラブルについても一緒に学びます。 	

34 MY TIME ~自分の一番はコレ!!~

【対象となる生徒】

- ・ 卒年次

【指導の目的】

- ・ 「社会生活」「ライフマネジメント」で培った力を生かし、自分の得意なことや好きなことを発表するために、自ら企画・計画を行う。発表後の達成感を味わい、卒業後の自信につなげる。

【指導の概要】

- ・ 自分の得意なことを生かし、発表できるものは何かを考える。
- ・ 企画を考え、発表までの計画を立てる。
- ・ 当日は発表の準備を行い、発表する。必要があれば、周りの人に協力を依頼する。
- ・ 発表例 「自分の興味のあることについて発表（プレゼン）をする」
「お世話になった人を呼んで、おもてなしする」等

【使用する教材及び教具】

企画書（下図参照） 等

【関連する主な自立活動の区分及び項目】

人間関係の形成 等

生徒の実態によって、区分及び項目を決定する。

【生徒へのPR（例）】

- ・ どんなことが得意ですか？ 友達に自慢できることはありますか？
自分の得意なことを、人前で発表しませんか？
「これは人には負けない！」そんなことを披露しませんか？
- ・ 企画に始まり、準備をし、最後は発表まですべて自分で考えます。これまで培ってきた力を全部出し切って、卒業後、自信をもって過ごせることを目指し取り組みます。
- ・ 参加者からは、感謝されたり、褒められたり、喜んでもらえたりすることもあります。

『MY TIME』企画書 名前 _____

○タイトル
ゴジラに関して一紹介とクイズ思考・作成

○内容（自分の得意なこと・やってみたいこと・伝えたいことなど）
ゴジラの紹介（名の由来、誕生年月日、大きさ）
歴代ゴジラ、必殺技、他のかいじゅう等の紹介・解説 } 説明
ゴジラ映画の歴史 クイズ紹介 } クイズ

○準備物
パソコン・スクリーン のり、認定証、
資料に使うざんや本など 色紙、マシナリ
①-③の答えふだ(オリジナルデザイン)画用紙、わりばし

○その他（宣伝方法など）
案内チラシの配布

○当日までの予定

11月21日	12月5日	12月12日	1月7日	1月16日	1月23日
	企画書 完成!	発表 内容 を考える	パワー ポイント の作成	ふだ等の 作成 パワー ポイントの 作成、 発表の練習	発表当日

生徒が書いた企画書



「ゴジラに関しての発表」
好きなことを生かして!
「バスケットボール
シュート・パスの種類を紹介」

得意を生かして!
「髪ゴムを使ったア
イテムづくり」

(資料 7) 自立活動の内容

区分と観点	項目
<p>1 健康の保持</p> <p>生命を維持し、日常生活を行うために必要な健康状態の維持・改善を身体的な側面を中心として図る観点から内容を示している。</p>	<p>(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する事 (2)病気の状態の理解と生活管理に関する事 (3)身体各部の状態の理解と養護に関する事。 (4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事 (5)健康状態の維持・改善に関する事</p>
<p>2 心理的な安定</p> <p>自分の気持ちや情緒をコントロールして変化する状況に適切に対応するとともに、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服する意欲の向上を図り、自己のよさに気付く観点から内容を示している。</p>	<p>(1)情緒の安定に関する事 (2)状況の理解と変化への対応に関する事 (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事</p>
<p>3 人間関係の形成</p> <p>自他の理解を深め、対人関係を円滑にし、集団参加の基盤を培う観点から内容を示している。</p>	<p>(1)他者とのかかわりの基礎に関する事 (2)他者の意図や感情の理解に関する事 (3)自己の理解と行動の調整に関する事 (4)集団への参加の基礎に関する事</p>
<p>4 環境の把握</p> <p>感覚を有効に活用し、空間や時間などの概念を手掛かりとして、周囲の状況を把握したり、環境と自己との関係を理解したりして、的確に判断し、行動できるようにする観点から内容を示している。</p>	<p>(1)保有する感覚の活用に関する事 (2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事 (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関する事 (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事 (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事</p>
<p>5 身体の動き</p> <p>日常生活や作業に必要な基本動作を習得し、生活の中で適切な身体の動きができるようにする観点から内容を示している。</p>	<p>(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事 (2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事 (3)日常生活に必要な基本動作に関する事 (4)身体の移動能力に関する事 (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事</p>
<p>6 コミュニケーション</p> <p>場や相手に応じて、コミュニケーションを円滑に行うことができるようにする観点から内容を示している。</p>	<p>(1)コミュニケーションの基礎的能力に関する事 (2)言語の受容と表出に関する事 (3)言語の形成と活用に関する事 (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関する事 (5)状況に応じたコミュニケーションに関する事</p>

(資料8)

平成30年4月～10月の取組

月	コアチーム会議	各チーム会議
4月	<ul style="list-style-type: none">・ 検討が必要な内容の整理<ul style="list-style-type: none">校内組織の編成指導内容の検討授業名及び指導時間の検討通級による指導の個別の指導計画様式の検討・ ロードマップ作成	
5月	<ul style="list-style-type: none">・ 校内研修会について検討	<ul style="list-style-type: none">セレクションチーム<ul style="list-style-type: none">・ 対象生徒の絞込カリキュラムチーム<ul style="list-style-type: none">・ 試行及び来年度の単位認定について検討e カウンセリングチーム<ul style="list-style-type: none">・ 対象生徒のアセスメント
6月	<ul style="list-style-type: none">・ 県外視察の情報共有 (高等学校における通級による指導)・ 県内視察の情報共有 (小・中学校の通級による指導)	
7月	<ul style="list-style-type: none">・ 対象生徒の決定・ 校内研修会について提案・ 来年度の対象生徒の絞込の流れと時期の検討	
8月	<ul style="list-style-type: none">・ 指導内容の検討・ 在校生徒及び保護者への周知方法について検討・ 入学希望者への周知方法の検討	<ul style="list-style-type: none">e カウンセリングチーム<ul style="list-style-type: none">・ 対象生徒の個別の指導計画の検討
9月	<ul style="list-style-type: none">・ 対象生徒の個別の指導計画の提案・ 購入図書についての検討	<ul style="list-style-type: none">キャリアデザインチーム<ul style="list-style-type: none">・ 求職登録の時期の検討・ インターンシップについて検討・ 指導内容の検討
10月	通級による指導「社会生活」の開始	

V 高等学校における通級による指導の実施に関する参考資料

(資料9)

プロジェクト研究Ⅳ

多様な生徒の自立と社会参加に向けた 高等学校における特別支援教育 —生徒の主体的な取組を促す支援体制づくり—

奈良県立大和中央高等学校教諭 澤井 勇

Sawai Isamu

奈良県立二階堂養護学校教諭 菊川 勉

Kikugawa Tsutomu

指導主事 北井 美智代

Kitai Michiyo

指導主事 増田 薫

Masuda Kaoru

要 旨

高等学校における通級による指導を試行した。その結果、管理職のリーダーシップの下、中核的役割を果たすチームと役割を明確にした小規模のチームを編成することで組織的かつ迅速な検討を進めることができた。また、通級による指導においては、生徒が自己理解を進め社会生活に必要な力を身に付けられるよう個々の教育的ニーズに応じた指導内容の検討が欠かせず、また、他の授業でも分かりやすい授業を行うには、通級指導担当教員からの情報発信が有効であることが分かった。

キーワード： 高等学校における通級による指導、自立活動、自己理解、支援体制の構築、校内の特別支援教育の充実

1 研究背景

(1) 国の高等学校における特別支援教育の推進

中央教育審議会特別支援教育部会「特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議 高等学校ワーキング・グループ」は、発達障害のある生徒に対する配慮や支援に重点を置き、高等学校における特別支援教育の充実方策について「高等学校における特別支援教育の推進について～高等学校ワーキング・グループ報告～」(平成21年8月27日)をまとめた。その中で、高等学校に進学する発達障害等困難のある生徒の高等学校進学者全体に対する割合は約2%程度であったことから、発達障害のある生徒の自立と社会参加に向け、高等学校段階でも適切な指導と必要な支援は喫緊の課題であるとし、議論が繰り返された。そして、「高等学校における特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議」において「高等学校における通級による指導の制度化及び充実方策について(報告)」(平成28年3月)がまとめられ、平成28年12月には学校教育法施行規則を一部改正する省令等の交付により平成30年度より高等学校における通級による指導が導入されることとなった。

(2) 高等学校における通級による指導の必要性

中学校において通級による指導を受けている生徒数は全国的に増加傾向にあり、奈良県の中学校においても同様である(図1)。平成30年度は6校7教室が設置されており、今後も奈良県教

育委員会（以下「県教委」という。）の方針として通級指導教室の設置が進められることから、更に通級による指導を受ける生徒数の増加が見込まれる。また、中学校で特別支援学級に在籍していた生徒の高等学校進学率をみると、高等学校等への進学者は平成26年度79名（35.9%）、平成27年度94名（37.5%）、平成28年度101名（40.1%）、平成29年度139名（53.1%）と年々増加している（表1）。中学校で特別支援教育を受けてきた生徒が高等学校に進学している現状を考えると、高等学校における特別支援教育の充実が必要になってきていることが分かる。

一方、図2は、大学等において発達障害の診断書がある、もしくは診断書はないが発達障害があると推察され支援を受けている学生数の推移である。診断の有無に関わらず支援を必要とする学生が在籍し、大学等では、配慮依頼文書の配布や履修支援、学習指導、出席及び講義に関する配慮、授業内容の代替、提出期限延長等、様々な支援が行われている。しかし、自分の特性に関する自己理解ができておらず必要な支援を自ら申し出ることができずにいる学生の存在が危惧されている。そこで、高等学校における通級による指導においては、発達障害のある生徒が自立と社会参加に向けて自己の抱える困難について理解を深め、対処できる方法を身に付けることが期待されることである。

（3）奈良県の高等学校における通級による指導の開始に向けて

奈良県においては来年度以降の制度化の運用に向け、まずは研究校での試行を行うこととした。

高等学校における通級による指導の制度設計には、教育課程上の位置付け、通級による指導の対象、指導内容、実施形態、通級による指導の対象となる生徒の判断手続き等が必要である。「高等学校における通級による指導の制度化及び充実方策について（報告）」（平成28年3月）では

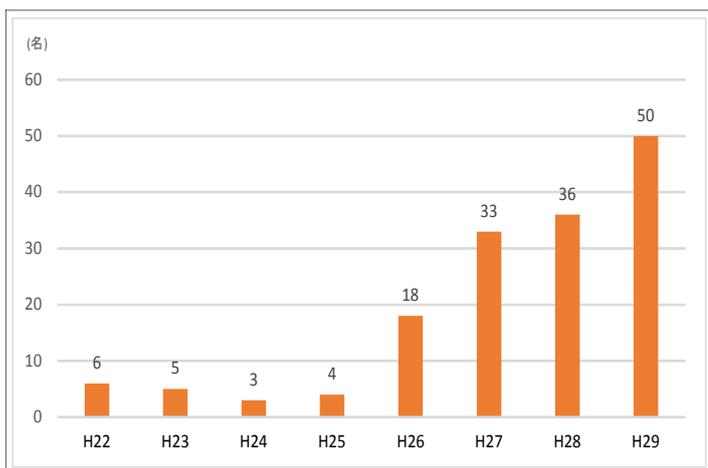


図1 中学校で通級による指導を受けている生徒数の推移（奈良県 公立中学校）

※文部科学省「通級による指導実施状況調査結果について」

表1 中学校特別支援学級卒業後、進学した生徒の数

※文部科学省「学校基本調査」

※高校等は高等学校及び中等教育学校後期課程の本課及び別科、高等専門学校を含む。その他は専修学校、公共職業能力開発施設、就職者、それ以外の者、負傷者、死亡の者を含む。

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
220名	251名	252名	262名
(高校等 79)	(高校等 94)	(高校等 101)	(高校等 139)
(高等部 123)	(高等部 133)	(高等部 141)	(高等部 109)
(その他 18)	(その他 24)	(その他 10)	(その他 14)

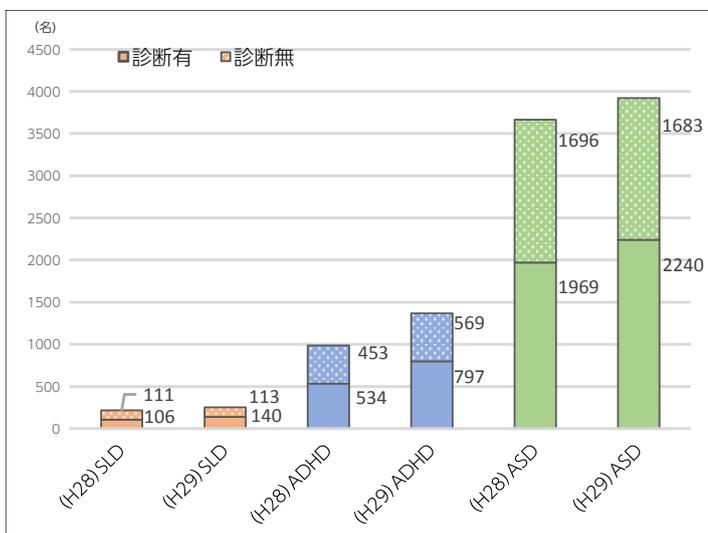


図2 発達障害の診断書がある、もしくは発達障害があると推察され支援を受けている学生数の推移

※日本学生支援機構 H30.7月「大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査結果報告」

「文部科学省の研究・開発事業では、全日制、定時制、通信制の課程のいずれの高等学校においても実践研究を行っている。現在までの取組を踏まえれば、教育課程上の位置付け、対象となる障害種、通級による指導の時間等の基本的な制度設計について、課程区分ごとの違いを設ける必要性は確認されていない。このため、制度設計の違いは設けず、各学校において、生徒や学校・地域の実態を踏まえ、運用での創意工夫を行うことが適当である」としている。今回の試行においては、研究校の実情を踏まえながら制度設計していくことができるよう、まずは指導開始に向けた必要事項を検討する組織を編成することが必要である。そして、その組織を運用し、準備の流れや実施に向けた確認事項を整理し、検討を進めることにした。

また、同報告は、「障害のある生徒の学びの充実のためには、他の全ての授業においても指導方法の工夫・改善が重要となる」とし、教員は指導力の向上に努めることが必要と考えられる。

この実現に向けては、障害のある生徒にとって分かりやすい授業は、障害のない生徒にとっても分かりやすい授業であることを認識することが重要となる。本研究においても、通級による指導だけでなく他の授業の工夫について教員で共有し、それぞれの工夫を生かし合うことによりさらなる授業づくりへの意識の醸成を目指すこととした。

一方、通級による指導の具体的内容については、同報告では「中学校から引き続き通級による指導を必要とする生徒や、小・中学校等で通級による指導及び通常の学級における支援を受けなかったことにより、困難を抱え続けていたり、自尊感情の低下等の二次的な課題が生じていたりする生徒に対しては、高等学校において、速やかに適切な指導及び必要な支援が行われなくてはならない。」とされている。高等学校は、生徒が社会で生きていくために必要な力を身に付け、自立に向けた準備を行う最後の教育機関で

表2 自立活動

1.健康の保持
(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する事 (2)病気の状態の理解と生活管理に関する事 (3)身体各部の状態の理解と養護に関する事 (4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事 (5)健康状態の維持・改善に関する事
2.心理的な安定
(1)情緒の安定に関する事 (2)状況の理解と変化への対応に関する事 (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事
3.人間関係の形成
(1)他者とのかかわりの基礎に関する事 (2)他者の意図や感情の理解に関する事 (3)自己の理解と行動の調整に関する事 (4)集団への参加の基礎に関する事
4.環境の把握
(1)保有する感覚の活用に関する事 (2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事 (3)感覚の補助及び代手段の活用に関する事 (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事 (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事
5.身体の動き
(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事 (2)姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する事 (3)日常生活に必要な基本動作に関する事 (4)身体の移動能力に関する事 (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事
6.コミュニケーション
(1)コミュニケーションの基礎的能力に関する事 (2)言語の受容と表出に関する事 (3)言語の形成と活用に関する事 (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関する事 (5)状況に応じたコミュニケーションに関する事

ある。そのため、指導内容は障害のある生徒が自立と社会参加を目指し障害による学習上または生活上の困難の改善・克服を目的とし、特別支援学校における自立活動に相当する内容を取り扱うこととなる。自立活動の指導に当たっては、特別支援学校学習指導要領の内容（表2）を全て取り扱うのではなく、個々の教育的ニーズに応じた自立活動の内容を取り扱うことが重要となる。同報告においても「生徒自身が主体的に取り組む契機を作るためには、生徒との対話を重視し、生徒が自分の課題、つまり、具体化された学習課題を認識し、自覚できるようにすることが重要である。」と述べているように、特に高等学校における通級による指導では、自分に合う学習方法を知り獲得すること、対人関係やコミュニケーション力の向上など社会性に関すること、状況把握や課題解決力に関することなど、学習面や生活面にとどまらず、卒業後を見据えた内容を取り上げていきたい。

今回、県教委は、特別支援教育に関する知識と自立活動の専門性を有する特別支援学校教員が高等学校を兼務し、通級による指導の対象生徒の教育的ニーズの把握や目標設定、指導内容・方法を検討できるよう、人事配置を行った。研究校においては、特別支援学校教員と高等学校特別支援教育コーディネーター1名が通級による指導を担当し、他の特別支援教育コーディネーターとも連携を図り、生徒の主体的な取組を促す通級による指導を開始することとした。

2 研究目的

来年度からの制度運用に向け、通級指導担当教員と特別支援教育コーディネーターが中心となって通級による指導に係わる校内の支援体制づくりについて検討する。また、分かりやすい授業づくりに取り組む教員の意識の醸成を図るとともに、生徒が自身の課題を主体的に改善しようとする意欲を高めることを目指した通級による指導の在り方について検討する。

3 研究方法

(1) 支援体制づくり

対象生徒の絞込み及び通級による指導の内容等を検討するための組織を編成し、実施に向けた体制づくりを行う。

(2) 校内の特別支援教育の充実に向けた研修会の実施

生徒にとって分かりやすい授業づくりを行うため、既に行われている工夫を全教員で共有し合う研修会を実施する。

(3) 通級による指導の開始

自立活動に相当する指導内容を検討し、対象生徒の課題に応じた通級による指導を実施する。

4 研究内容

(1) はじめに

ア 大和中央高等学校について

本校は奈良盆地の中央にあり「学びたいときに学べる学校」として創立された。定時制課程と通信制課程が併設されており、今年で11年目を迎える。生徒の年齢は15歳から70歳と幅広く、定時制課程にはⅠ部220名、Ⅱ部150名、Ⅲ部20名の計390名、通信制課程には285名（平成30年11月末現在）が在籍している。本校に入学した理由も多岐にわたり、小・中学校時代不登校の生徒や改めて高等学校卒業資格取得を目指す生徒もいることから、学習内容は基礎的な内容を取り扱っ

たり1年次の英語科や数学科では少人数指導を行ったりすることによって、きめ細かな授業を行っている。

校長は定時制課程と通信制課程を兼ねており、教員数は定時制課程46名（教頭2名を含む）、通信制課程で10名（教頭1名を含む）である。定時制課程は、1～4限で授業を受けるⅠ部、3～6限で授業を受けるⅡ部、9～12限で授業を受けるⅢ部からなる三部制をとっている。また、学年制ではなく単位制であるため、毎年受講登録を行い、74単位以上の修得を目指す。2年次以上は全員の時間割が異なるため毎日のショートホームルームがない。クラスごとに同じ授業を受けるのは週1時間のホームルームのみである。したがって、きめ細かに生徒と関わるために担任、副担任制をとらずにクラスを半分にして担当するチューター制をとっている。また、授業は二期制で、半期科目や通年科目がある。通信制課程は、入学後に選択する平日コースと日曜コースがあり、入学時にそれぞれの生活スタイルに合わせて選ぶことができる。平日コースは毎週火、水曜日に、日曜コースは毎週日曜日にスクーリングを行う。どちらのコースもレポート、スクーリング、考査の全てをクリアし、単位を修得する。

今回の研究においては、研究員2名が勤務する定時制課程で行うこととなった。

Ⅰ 大和中央高等学校の特別支援教育について

本校では、受講時の様子等が気になる生徒、単位修得が厳しいと思われる生徒、登校状況が良くない生徒等を対象に、チューターが学校での面談や家庭訪問を実施している。加えて、特に個々の特性の理解や支援が必要な生徒に関しては、特別支援教育対象生徒として教職員間で共通理解し、丁寧な指導・支援を心掛けている。

特別支援教育対象生徒の絞込みを主に行う組織として「特別支援委員会」が設けられている。構成員は、校長、教頭2名、教務部長、生徒指導部長、進路指導部長、人権・文化部長、健康・環境部長、総務部長、人権・文化副部長、養護教諭2名、部主任3名、特別支援教育コーディネーター3名（部主任と特別支援コーディネーターはⅠ部～Ⅲ部の各1名）である。特別支援教育

対象生徒への対応としては、図3で示すように、授業内での支援を必要とする「学習支援」、精神的に不安定なため動向に注意の必要がある「精神的な支援」、常に支援を要しないが授業中または学校生活の中で見守りの必要がある「見守り」に分けられる。単位を修得し卒業することを目指して「学習支援」「精神的な支援」対象の生徒には個別の指導計画を作成し、配慮事項等に関する情報を全教職員で共有している。特別支援教育の対象生徒の決定

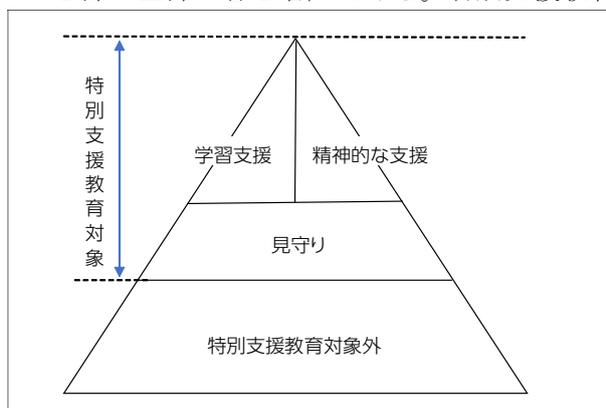


図3 特別支援教育対象生徒への対応

や支援の流れを表3に示す。まず、4月の三者面談で生徒や保護者から悩みや不安、または生徒の生活面や学習面の状況を聞き取り、それらを全教職員で共通理解するための生徒理解研修を授業開始までに行っている。そして、授業開始から2週間ほどで各生徒の状況を見立て、本校における特別支援教育の対象生徒であるかどうかを判断する。その後、「特別支援委員会」や職員会議を経て前期の特別支援教育対象生徒を決定し、個別の指導計画を作成していく。個別の指導計画にはその生徒の実態を記すとともに、教科・科目ごとに単位修得のための目標と手立てを明記し、その達成度に応じて3段階で評価をする。そして、後期に入る前に再び特別支援教育対象生徒の

見直しを行う。また、卒業を目指して個々の目標を設定し、指導・支援によって生徒に変容がみられたら「学習支援」や「精神的な支援」から「見守り」対象になり、そして特別支援教育対象外生徒へと移行していく。

(2) 高等学校における通級による指導の試行

表3 特別支援教育の対象生徒の決定や支援の流れ

月	チューター	全教職員	特別支援委員会	
前期の特別支援教育	4	・三者面談		
	5		・面談時の情報共有(生徒理解研修)	
	6	・特別支援教育対象生徒の個別の指導計画作成	・特別支援教育対象生徒の情報共有(職員会議)	・前期の特別支援教育対象生徒の絞込み
	7		・個別の指導計画の情報共有(回覧)	
	8	・個別の指導計画の前期評価		
後期の特別支援教育	9	・三者面談		
	10		・特別支援教育対象生徒の情報共有(職員会議)	・後期の特別支援教育対象生徒の絞込み
	11	・特別支援教育対象生徒の個別の指導計画作成	・個別の指導計画の情報共有(回覧)	
	12			
	1 2 3	・個別の指導計画の後期評価		

研究での具体的な取組は3点である。まず、支援体制づくりである。従来の取組を生かしながら、通級による指導を学校全体の取組とすることが重要であると考え、通級による指導を一部の教員のための新たな試みにならないよう組織的に検討を進められる支援体制づくりを行うこととした。次に、生徒が分かりやすい授業づくりの実施である。通級による指導によって付けた力は、他の場面で発揮できてこそ生徒が卒業後も使える力となる。そのためには、生徒の頑張りだけでなく我々教員も分かりやすい授業づくりを行うことが大切であると考え、全教員で取り組む特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりに取り組むことにした。最後に、本校での通級による指

導の試行開始である。試行ではあるが、生徒が自身の課題を主体的に改善しようという意欲を高めることを目指した指導が始められるよう、対象生徒の決定、課題や指導内容の検討等は前期に行い、実際の指導は後期から行うこととした。なお、本研究において、特別支援学校教員（兼務により週3日本校勤務）と特別支援教育コーディネーター1名が通級による指導を担当するため、通級指導担当教員と呼ぶこととする。

ア 支援体制づくり

(7) 迅速に対応できるチームの編成

通級による指導に関する情報を掌握し運営する組織となる「通級推進委員会」は、校内の中心的な機関である「特別支援委員会」と兼ねることとした。しかし、委員会は前述のとおり大人数で編成されているため、全員が集まりにくく大規模な会議を何度も開くことができない。加えて、三部制であるため会議の時間帯も共有しにくい。そこで、必要なときにすぐに集まり短時間で検討できる方法はないかと考え、迅速な動きが可能な小規模のチームを5つ作ることにした。

5つのチームには、通級による指導に関する検討や情報交換が速やかに行えるよう通級指導担当教員2名が加わることにした。以下、5つのチームの役割と構成メンバーについて述べる。

まず、中心となるコアチームは、今後の進め方や通級による指導に関する全般的な内容を検討する役割をもつ。コアチームで検討した案件の中で、他の教員の意見や確認が必要な内容に関しては随時各チーム会議を招集することとした。また、後期の指導が始まってからは指導内容や生徒の様子の変化等の情報共有を行い、今後の指導内容や方法に関して話し合うこととした。コアチームで検討した内容は年2回程度開催される「通級推進委員会」で報告し、確認する。メンバーは通級指導担当教員2名と特別支援教育コーディネーター2名、スクールカウンセラーの5名とし、毎週定期的に会議を行うこととした。

カリキュラムチームは、主に教育課程と時間割編成について検討する役割をもつ。来年度の時間割については前年度中に決定されることを踏まえ、通級による指導の実施時限や講座数の案も早い段階からコアチームで作成し、カリキュラムチームで実現可能かどうかを判断していくこととした。また、複雑な時間割編成や教室配置及び成績処理への対応も考慮し、通級指導担当教員2名に教務部長や校務システム担当を加えた4名で編成することとした。

セレクションチームは、対象と考えられる生徒の絞り込みを行う役割をもつ。対象生徒の絞り込みは、まず各チューターがクラスの対象生徒を挙げ、その上で、各部主任と各部特別支援教育コーディネーターが他に対象となる生徒がいないかどうかを確認する。生徒の情報を多方面から集約するため、通級指導担当教員2名に各部主任3名、そして必要に応じて生徒指導部長も加わることにした。

キャリアデザインチームは、就職先や進学先との連携を図り情報収集や情報共有する役割をもつ。卒業後の社会自立への移行には、早い段階からの情報提供や障害者手帳取得及び障害者雇用も視野に入れておく必要がある。そのため、ハローワーク担当との連携をスムーズに進められるよう、通級指導担当教員2名に進路指導部長1名、進路指導副部長1名を加えた4名で編成することとした。

e カウンセリングチーム（eは「educational-counseling」の頭文字である。）は、個別の指導計画の作成や指導内容の検討等の役割をもつ。専門的な見地からの所見を参考にし、さらに効果的な指導が行えるよう、通級指導担当教員2名にスクールカウンセラーと対象生徒のチューターが加わり、チームを編成することとした。

(イ) 各チーム会議の内容とその流れ

まずは、今年度の取組の方向性を示すため、コアチームが中心となり、指導開始に向けて検討が必要な内容の整理や検討時期をロードマップに示す作業を行った。その後、各チームに検討内容を提案し、それぞれで会議を行った後、その内容を再度コアチームで整理した。検討した内容は、その都度管理職に報告や相談し、組織的に段階を追って検討を繰り返すようにした（図4）。

指導開始に向けた会議の流れは表4のとおりである。9月には職員会議で確認を行い、教員で共通理解した上での指導開始とした。なお、10月以降も来年度の実施に向けて各チーム会議は継続している。

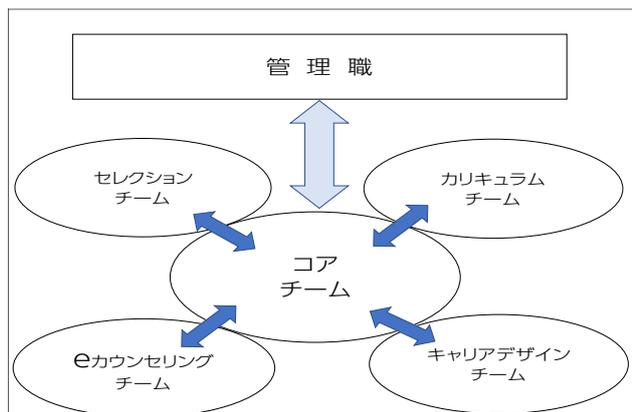


図4 コアチームを中心としたチームの編成

表4 指導開始に向けた会議の流れ

月	コアチーム会議	各チーム会議
4	<ul style="list-style-type: none"> ・検討が必要な内容の整理 ┌ 校内組織の編成 ├ 通級による指導の対象生徒絞込みの条件の検討 ├ 指導内容の検討 ├ 授業名及び指導時間の検討 └ 通級による指導の個別の指導計画様式の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ロードマップ作成 	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会について検討 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> セレクションチーム ・対象生徒の絞込み </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> カリキュラムチーム ・試行及び来年度の単位認定について検討 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> eカウンセリングチーム ・対象生徒のアセスメント </div>
6	<ul style="list-style-type: none"> ・県外視察の情報共有(高等学校における通級による指導) ・県内視察の情報共有(小・中学校の通級による指導) 	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・対象生徒の決定 ・校内研修会について提案 ・来年度の対象生徒の絞込みの流れと時期の検討 	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・指導内容の検討 ・在校生徒及び保護者への周知方法について検討 ・入学希望者への周知方法の検討 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> eカウンセリングチーム ・対象生徒の個別の指導計画の検討 </div>
9	<ul style="list-style-type: none"> ・対象生徒の個別の指導計画の提案 ・購入図書についての検討 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> キャリアデザインチーム ・求職登録の時期の検討 ・インターンシップについて検討 ・指導内容の検討 </div>
10	通級による指導「社会生活」の開始	

(ウ) 通級による指導を開始するための検討事項

a 通級による指導の対象となる生徒

先述したとおり、本校では個々の特性の理解や支援が必要な「学習支援」「精神的な支援」「見守り」といった特別支援教育対象の生徒には個別の指導計画を作成し丁寧な指導・支援を心掛けており、特に1年次は生徒の特性を見極め、個々に応じた支援を教職員間で共有することにより高校生活のスタートをサポートしている。

一方で、高等学校においては、学習面や生活面、対人関係において個々の特性を要因としたつまずきだけでなく、今までの失敗経験や苦手意識の積み重ねによる自尊心の低下や意欲の乏しさ等が見られる生徒も少なくない。本校においても同様であると考えられる。例えば、他者の意図や感情の理解が十分でないことから適切に応じることができないというコミュニケーションや対人関係面に課題のある生徒、複数の課題を同時に行ったり優先順位や段取りをつけたりするのが苦手であるという自己管理能力に課題のある生徒、衝動の抑制が難しかったり自己の状態の分析や理解が難しかったりするため同じ失敗を繰り返してしまうという行動面に課題のある生徒等である。生徒が自立と社会参加を目指すためには、自己の課題を理解し、自らも改善・克服しようという意欲をもつことが欠かせない。生徒自身が主体的に取り組むことが前提となることから、対象生徒は、卒業が見込まれる「見守り」対象生徒や、入学当初は特別支援教育対象であったが今では特別支援教育対象外に移行した生徒で、2年次以上を対象とすることとした。さらに、セレクションチームが生徒の絞込みを行った後、通級指導担当教員、チューター、保護者、生徒の四者面談での合意形成ができた生徒を対象とし「通級推進委員会」にて検討を行い決定することとした。

b 通級による指導に関する個別の指導計画の作成と活用

通級による指導では、自立活動に特化した個別の指導計画を作成し、それに基づいた指導を行い目標が達成されたかで評価を行う。通級による指導で作成する個別の指導計画は本校で元々作成している個別の指導計画とは別の様式を用いることにした。対象生徒の実態や特性、アセスメントの記録はもちろんのこと、自立活動の区分、目標と指導上の配慮及び評価を記載する。作成に当たっては、本人及び保護者から十分な聞き取りを行い、通級指導担当教員とチューターが協力することにした。また、必要に応じてアセスメントを行うが、今年度は、入学時に検査結果を引き継がれていた生徒もおり、その数値や所見も参考にした。

個別の指導計画を活用していくには、チューターとの情報共有が重要である。PDCAサイクルで指導を見直す際に、最近の対象生徒の様子を指導に生かせるよう、チューターも指導案作成の段階から内容を共有することとした。また、指導の様子を把握しておくことで、保護者や各教科担当教員と話す中で普段の家庭生活や学校生活にどれだけ般化されているのかを掴むことができるようにした。

c 授業名と指導内容及び実施時間

授業名は、どのような内容を学ぶのかが分かりやすいものにしたという考えの基、「社会生活」とした。「社会生活」は、生徒が社会に出たときに必要な力を身に付けておくことをねらいとした授業である。自立活動に相当する内容として、コミュニケーションに関すること、生徒の自己理解に関すること、自身の生活に関すること等を中心的に取り扱い、個々の特性を加味し、具体的な指導内容や支援方法を検討することとした。また、通級による指導の実施時限は、生徒の負担にならないように配慮し、かつ、チューターが授業の参観に来やすい時間枠でもあること

から7限目とした。

イ 全校で取り組む特別支援教育の充実

(7) 授業における工夫を見出すための参観

通級による指導の効果を高めるには、他の授業においても指導方法の工夫・改善が重要である。本校では、様々な実態の生徒が在籍していることから、これまでも生徒が分かりやすい授業の工夫を行っている教員は少なくない。そこで、教員が既に行っている工夫を拾い出し共有することによって、さらに分かりやすい授業づくりがなされるようにしたいと考えた。

まずは、通級指導担当教員が各授業を参観したところ、様々な授業の工夫があった。中でも、指示・教示や板書の工夫が数多くあり、環境や授業の構成の工夫等もみられた(表5)。これらは個々の教員が取り入れているものであったが、共通しているものには、机

間指導をして生徒の取組状況をこまめに確認したり、個別に声をかけて理解度を確かめたりするなどがあった。また、生徒の学習意欲が高まるような肯定的な声かけも多くの教員から発せられており、本校では生徒との丁寧な関わりを重視していることが分かった。一方で、見やすさ、聞きやすさ、理解のしやすさにつながる具体的な方法については、個々の教員によって取り入れ方にばらつきがみられた。

(イ) 校内研修会の実施

分かりやすい授業の必要性と、各教員が行っていた授業の工夫を全教員で共有するため、校内研修会を9月に実施した。

研修会後のアンケートでは、教員41名から回答を得た(回収率95%)。「授業の工夫を聞いて、自身の授業に取り入れようと思ったか」を4件法で尋ねたところ、「とても思う」「思う」と答えた教員は37人(91%)であった(図5)。なお、「あまり思わない」と答えた3名も既に多くの工夫を行っていると答えていることから、本校では全教員が分かりやすい授業づくりを大切に考えていることが分かった。

次に、取り入れてみようと思う項目を5つまで複数回答可で尋ねたところ、「明確な指示・発問」(10人)、「見やすい板書」(10人)、「分かりやすい板書」(9人)が多かった(図6)。また、

表5 授業の工夫(一部抜粋)

指示・教示の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 声かけによるこまめなフィードバックを行う 評価を見える化する エピソードを加えて、理解しやすくする 生徒の知っている語句に置き換える 取り組もうとしている姿勢を認める 発問に対して答えやすい雰囲気をつくる
板書の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 行間を広く取る 授業の流れが分かるよう縦線を入れて分割する 重要箇所はチョークの色を変える ワークシートと対応させて板書する ページ数やプリントの番号を記しておく
環境の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 授業中のルールが徹底されている 板書が見やすいよう黒板周りが整理されている 黒板が見えにくい生徒には事前に確認し座席位置を配慮する
授業の構成	<ul style="list-style-type: none"> 活動の区切りを付ける(書く、聞く、などの作業を分ける) 活動をユニット化し見通しをもちやすくする ノートテイクの時間を多めにとる
教材の工夫・支援機器の活用	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを用いる ICT機器を活用する 具体物や模型を用いる 実験を取り入れ、体験的に学べるようにする

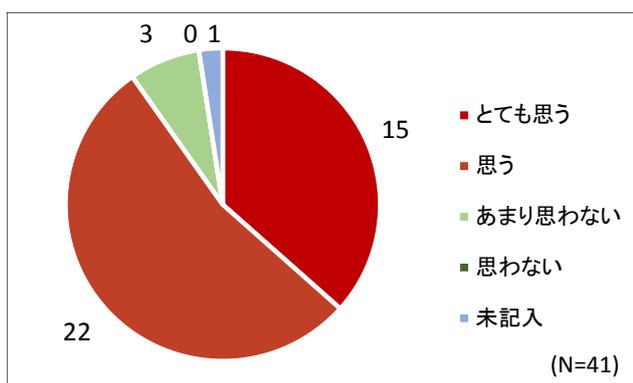


図5 「授業の工夫を聞いて、自身の授業に取り入れようと思ったか」の集計結果

自由記述欄には「今日の授業内容を一目で分かるようにする工夫をやってみたい」、「見やすい板書を心掛けて、より生徒が理解を深められるようにしたい」、「導入、展開、まとめをさらに意識した授業構成を考えたい」といった具体的な改善点が挙げられた。研修で紹介した各教員の工夫を参考にし、自分の授業で取り入れたいことを想定する機会になったと思われる。

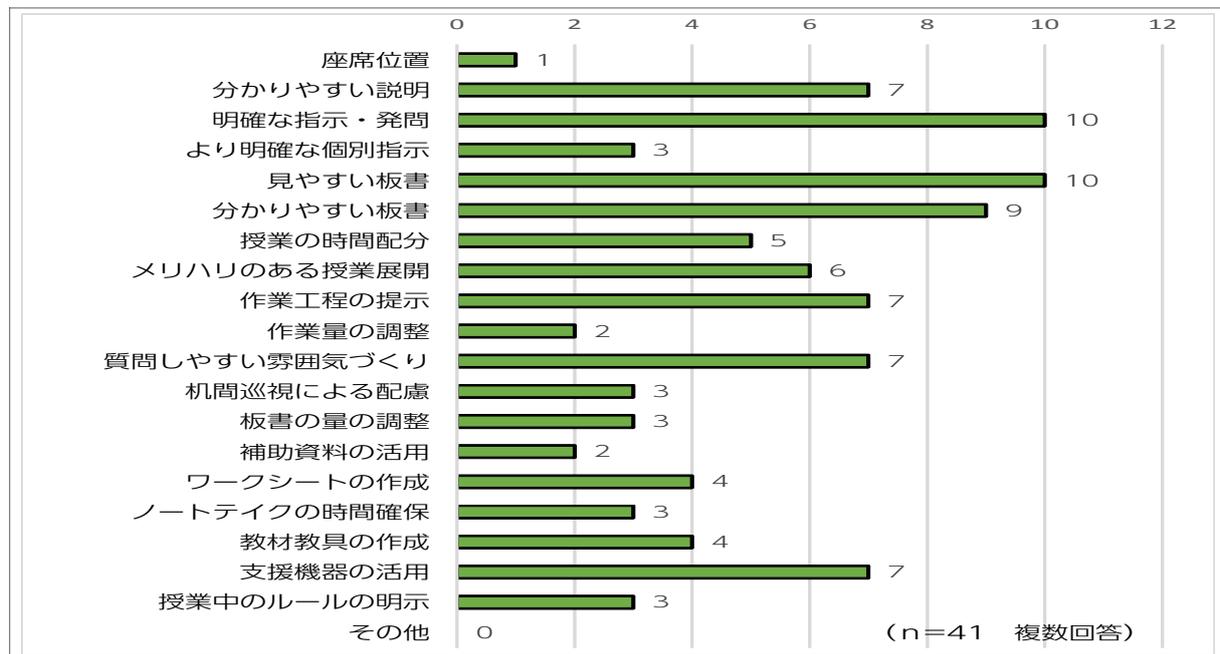


図6 「授業の工夫を聞いて取り入れようと思ったこと」の集計結果

ウ 通級による指導の実際

指導を開始するに当たっては、何に困っていてどうしたいと思っているのかを本人と確認する必要がある。そこで、まずは本人との面談を行うことにした。加えて、多方面からの情報も基に課題を検討するため、保護者やチューターからの聞き取りも行った。

今回の対象生徒はいずれもコミュニケーション面での悩みや課題があり、長期目標にはコミュニケーションに関する目標を立てた。指導の内容は、自立活動に相当する内容から、コミュニケーションに加え自己理解及び自身の生活に関することも取り上げ、具体的な内容や指導時期及び回数等については個々の課題に即して検討することにした。また、特性や背景要因の違いから指導や支援の方法はそれぞれ異なるため、曜日を変えて個別に指導を行うこととした。

(7) 言葉の意味を理解し、自分の気持ちや考えを表現することを目指した指導・支援

a 指導開始に向けた面談と目標の設定

生徒Aの保護者やチューターからは、「人に話をするのに言葉が足りず、うまく自分の意思が伝えられないことが多い」という悩みを聞き取った。本人との面談では、これまでの友達とのトラブルについて、そのときの様子を振り返り、「嫌だった」「怒りそうになった」と自分の気持ちを答えることができていたが、自分のことや日常生活の身近な質問に対しては「分からない」「難しい」「別に」という答えがほとんどであった。また、他者に自分から話しかけることはあまりなく、友達に話しかけられても「よく分からなくなる」ことや、集団での全体指示も「遠くの方で話しているように感じる。何を言われているのかわからない」と言い、会話の内容を理解できずにいたことが分かった。このような状況で過ごしてきた生徒Aは、他者とのやりとりが苦手になり、自分に自信がもてなくなっていたのではないかと推測された。

生徒Aから、「社会生活」の授業で「面接の練習をしたい」との申し出があった。生徒Aも、

自分の意見や思いを話せるようになることが今後必要になると自覚し始めていた。しかし、単に面接の応答技法を練習するだけでは社会に出たときに使える力になりにくい。卒業後を見据えるからこそ、生徒Aには面接時に自分を表現できる語彙力を身に付けるとともに、自尊感情を高めたいと考え、自分のことを振り返り言葉で表す指導内容を全4回で計画し指導を開始することにした。

b 「社会生活」の指導開始

生徒Aは文字や絵などの視覚情報の理解を得意とする一方、聴覚情報だけでは状況や質問の意図を理解しにくい。そこで、指示や説明にはイラストを示したり文字で書いたりする等といった理解を促す支援を取り入れながら指導を進めることにした。加えて、語彙数の少なさから、言語理解にも課題があると考えられるため、生徒Aが知っている単語に置き換えたり、具体的な場面を想定しイメージしやすくする等の支援も取り入れることにした。

まず、第1～2次『自分のことを知る』学習では、長所を考えることをきっかけに自己理解につなげたいと考えた。しかし、生徒Aは自分の長所を全く挙げるができなかった。そこで、友達から言われたことを尋ねたところ、否定的な言葉ばかりを挙げた。そこで、他者から言われた肯定的な内容を思い出し、自分の良さを認識できるようにした。語彙数が少ない生徒Aも答えやすいよう、選択形式に変え、性格を表す肯定的な言葉を一覧表にすることで、友達から言われたことがある言葉を想起しやすくした。その結果、生徒Aは6つの言葉に印を付けるだけでなく、エピソードも話すことができた(図7)。また、言われたときの気持ちを表情と言葉(図8)を

提示して尋ねてみると、表情のイラストから「普通」を選択し、「ちょっと困った」と答えることができた。しかし、授業後の振り返りでは、「友達に言われたことが自分の良いところなのか悪いところなのか理解できない」と答え、肯定的な言葉やエピソードを想起することはできたが、自分の良さにつなげることができなかった。

そこで、第3～4次の学習では『友達の長所を見付ける』こととし、長所を伝えられた友達の気持ちを考えることにした。始めは「思い付かない」と言っていた生徒Aであったが、『友達の長所』を「その人が言われたら嬉しいと思うこと」と分かりやすく言い換えて尋ねると、「本人の前で言ったことがある」と思い出し、言葉で表すことができた。さらに、別の友達のいいところを「活発」と表現することもできた。それを聞いた友達の気持ちを考える際は、イラストと吹き出しを用いてその状況をイメージしや

せいけつ 清潔な	たくましい	せっきよくてき 積極的な	エネルギーな
けんこう 健康な	かっぱつ 活発な	おおらかな	やさしい
おも 思いやりのある	しゃこうてき 社交的な	あか 明るい	すなお 素直な
あっさりした	きじょうず 聞き上手な	まじめな	かんだい 寛大な
せいじつ 誠実な	じょうなつてき 情熱的な	ちゅうじつ 忠実な	りかいはりよく 理解力のある
しんよう 信用できる	たよ 頼りになる	こころひろ 心の広い	せきにんかん 責任感が強い
けつだんりよく 決断力がある	れいきただ 礼儀正しい	きんべん 勤勉である	げんき 元気な

図7 生徒Aが選択した肯定的な言葉

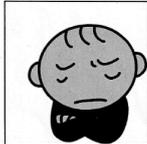
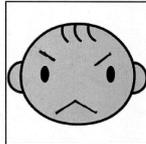
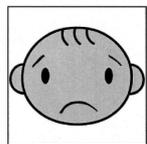
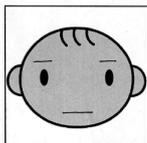
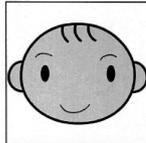
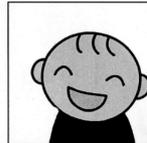
		
		
こま 困った	おこ 怒った	
かな 悲しい	いや 嫌だ	
たの 楽しい	うれしい	

図8 気持ちを表す表情と言葉

すいようにした（図9）。さらに図7を用いることで、友達の気持ちを考え、「嬉しい」と答えることができた。さらに、生徒Aも嬉しいと感じることはあるかと尋ねると、「あるけど、言いたくない」と答えた。具体的な答えはなくても、イラスト等を用いることで生徒Aが気持ちを考えることができた場面だった。

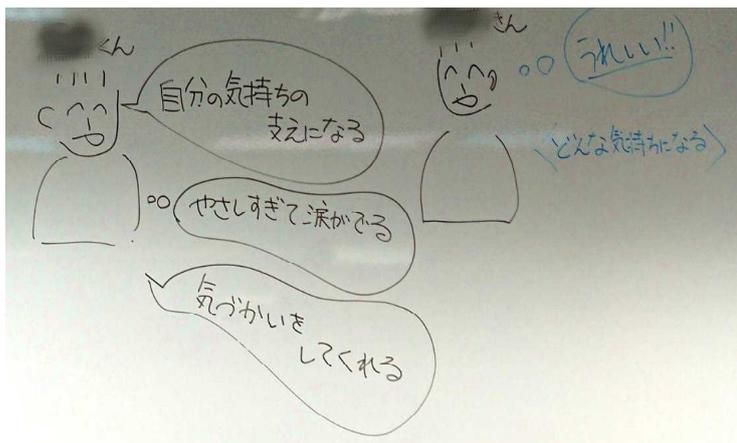


図9 相手の気持ちを考える際の板書

生徒Aは、イラストと文字を併用した説明、具体的な言葉への置き換

えや実際の場面を想起させることで質問を理解し答えることができるようになってきた。また、生徒Aの変化は発言時の声の大きさや姿勢にも表れてきている。当初はとても声が小さいため聞き取れなかったり、下を向きがちで通級指導担当教員とも目が合いにくかったが、前を向いて答えたり少し笑ってやりとりしたりできるようになってきている。また、生徒Aの授業を担当している教員から、「質問に対してスムーズに返事が返ってこないことはまだ多いが、授業はかなり頑張っていて、しっかりついてきていると思います」という前向きな変化も聞くことができた。生徒Aは、自分に自信がもてず気持ちや考えを表現できない面がある一方で、友達の良さを言葉に表す力や思いやる優しさがある。今後、生徒Aが自信を付け、コミュニケーション力を高められるためにも、通級による指導では具体的な活動を取り入れ、自分の課題に迫れる内容を取り入れたい。そのためには、取り組んでいる内容が本人にとってどのような意味や目的があるのか、さらにはできるようになりたいことを本人と共有しながら指導を進めたいと考える。

(イ) 要点の整理や正確な聞き取りができるようになることを目指した指導・支援

a 指導開始に向けた面談と目標の設定

生徒Bの保護者やチューターからは、流暢に会話できるが場の様子が読みとれないことがあったり、友達の言葉を字義通りに受け止めてしまったりして、トラブルになることがあることを聞き取った。生徒Bは、よく勘違いをすることや作業面で他者に比べゆっくりであること等を苦手として挙げ、「自分の意見を言うのが苦手で、小学校のときから手を挙げたことがなかった。自分から進んで言えない。それは自信がないから。」と課題も述べた。面談の様子や学校生活においても要点をまとめられず話が長くなり、うまく説明できたり答えられたりしているかが分からず、徐々に自信がなくなり声が小さくなってしまっていた。「自分の意見を言えるようになりたい」という希望を自身で挙げており、会話時の工夫を知りそれを使えるようになることを目指し、指導を開始することにした。

b 「社会生活」の指導開始

生徒Bは、言語表現での苦手さを感じている一方で、言語理解力が高く難しい言葉もよく知っている。また、几帳面で丁寧に作業に取り組む良さがある。しかし決められた時間の中でやりきれず不安に陥ったり、周囲に合わせて活動できなかつたりしていた。このことは、会話時も同じで、重要なことの整理や順序立てた説明が苦手として現れている。そこで、生徒Bには、学習の目的や対処方法に加え優先すべきことやその理由を説明することで、本人もすべきことを理解し順序立てて取り組めるようになることを目指した。加えて、コミュニケーションに関する学習を

振り返ることで自覚を促し、学んだことを使える力にしたいと考えた。

コミュニケーションに関する内容として、「自分の意見をまとめる」「聞き取る」「報告する」を全3回の指導で取り上げ、まずは自己評価を5段階（5：できる、4：ほとんどできる、3：少しできる、2：あまりできない、1：できない）でしてもらった。そして、授業後には、何を学び、できるようになったのかを振り返るようにした。

第1次『自分の意見をまとめる』学習では、自己評価は「2」で、「何が言いたいのか分からないと言われることがある」としていたため、本時の目標は「自分の意見や思いをまとめ、相手に分かりやすく伝えるようになる」ことをめあてとした。そして、自分の伝え方を客観的に確認することができるよう、タブレットPCで動画撮影することにした。学習活動は、自分の好きなどころと嫌いなどころを他者に説明することにし、まずは、いつも通りに説明してもらったところ、的を射ず長くなってしまった。そこで、「始めにキーワードを挙げ、それに関するエピソードを加える」ことを意見をまとめる際の工夫点として確認してから再度説明してもらったところ、簡潔に説明することができた。生徒Bもうまくできたという実感があつたようで、授業後は自己評価を「3」とした（図10）。伝えたいことをあらかじめまとめるには、キーワードを挙げることで要点を絞りやすくなることに気付けたようである。

第2次『聞き取りをする』学習では、聞いたことを忘れてしまうことがあるため自己評価は「3」で、「聞き取ったことをメモできるようになる」ことをめあてとした。そこで、様々な場面を設定して、要点だけをメモする練習を行った。始めは、丁寧に書こうとして時間をかけてしまい、後半の内容を聞き漏らしてしまう様子がみられたが、大切なのは聞いたことの要点をメモすることであり、文字は

授業内容	自分の意見をまとめてみよう
1 ② 3 4 5	
理由 ⇒ 直接的に伝えようとせず、つい難しい言葉を使ってしまうクセがあって、何が言いたいのか分からないと言われることがある。	
↓	
○自己評価○	
1 2 ③ 4 5	
理由 ⇒ 先生の分かりやすい説明のおかげで、変えないといけない点に気付くことができたからです。	
今日の感想 自身の動画を見るのがはずかしかったです。	

図10 生徒Bの自己評価（指導前と後）

授業内容	聞き取りをしてみよう
1 2 ③ 4 5	
理由 ⇒ 伝えることは出来るんですが、ふとした時に忘れる、思い出さってということがある。	
↓	
○自己評価○	
1 2 3 ④ 5	
理由 ⇒ キーワードをしっかりと聞きとり、メモをするだけで自分自身にも分かりやすくまとめることができたからです。	
今日の感想 今回学んだ事は、自分にとってとてもうれしい体験になりました。今後もメモを生かしたいです。	

図11 生徒Bの自己評価（指導前と後）

自分が読める程度のものでよいことを確認すると、要領よく聞き取りメモすることができるようになってきた。次に、メモの内容が正しいかを確認すると聞き間違っている箇所があったため、聞き取った内容が合っているかを相手に確認をすることも必要であると伝えた。生徒Bはこの活動でもメモをすることでうまくまとめられたことを実感しており、今後に生かしたいとの感想を記している(図11)。

第3次『報告をする』学習では、これまで学んできた「意見をまとめる」「聞いたことをメモをする」工夫を使いながら、「聞いた内容や自分が経験したことを、簡潔に報告できるようになる」ことをめあてに授業を行った。指導前の自己評価は「2」であった。学習活動を通して、要点を絞って相手に報告することができたため、授業後の自己評価は「3」とし、

「自分でも、ここまで分かりやすく伝えることができ、簡潔に言えた感覚があった」と振り返った(図12)。苦手な活動であっても通級による指導で取り組んだ学習内容を活用してやりきれたことは生徒Bの達成感につながっており、今後、日常生活に生かす意欲につながると期待したい。

エ 通級による指導「社会生活」の校内での理解に向けた情報発信

9月の校内研修会後のアンケート(41名、回収率95%)において、通級による指導について4件法で尋ねたところ、22名(53.6%)の教員が「あまり知らない」と答えた。その理由の多くは、「概要は分かるが実際の指導を見たことがない」「どのような指導をするのかを知らない」というものであった。そこで、通級指導担当教員に希望することとして「通級による指導での様子の情報共有」(31名)の回答が最も多かったことから(図13)、以下の取組を行うことにした。

(7) 授業の見学をしやすくする環境づくり

指導の様子は毎時間見学可能にし、教室には指導略案を置き、その時間の目標や指導内容が見学者にも分かるようにした。12月に行った教員へのアンケート(34名、回収率79%)によると、通級による指導を開始した10月から12月末まで、18名の教員が見学した(図14)。見学した教員の感想には、「生徒の様子を見てどういうことに困っているかが分かった」「個人に合わせた指

授業内容	報告をしてみよう
1	② 3 4 5
理由	⇒ 伝える内容の一部を忘れてしまうことがあり、それが重容なものだと申し訳なさがある。
↓	
○自己評価○	
1	2 ③ 4 5
理由	⇒ 自分でも、ここまで分かりやすく伝えることができ、簡潔に言えた感覚があったからです。
今日の感想	この授業のおかげで、1つずつ成長しているように思えます、スキルが身に付くよううれしさがありました。

図12 生徒Bの自己評価(指導前と後)

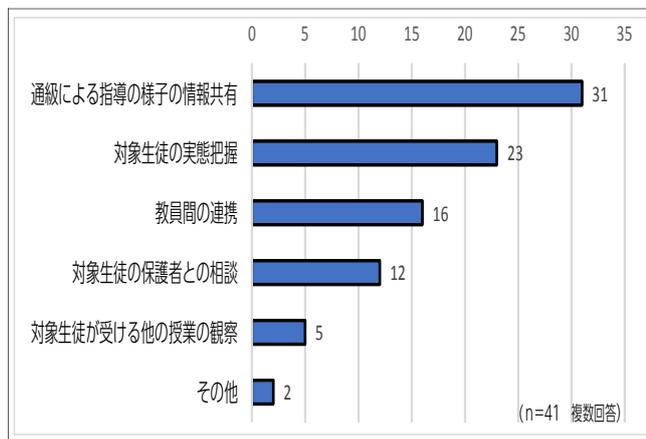


図13 「通級指導担当教員に希望すること」の集計結果

導が展開されており、実践的で身になる内容だった」「生徒にとって精神的な意味での距離の近さを感じた。雰囲気はとても良いものだった」等が挙げられた。可能な限り実際の様子を見てもらうことで、通級による指導の理解が校内で進むようにしたい。

(イ) 授業の様子を共有するために行う記録用紙等の回覧

関係する教員間で指導の様子をタイムリーに共有し、通級による指導を他の場面でも生かせるようにしたいと考え、毎回授業終了後に、指導の様子（写真を含む）や生徒が記入したプリント及び指導略案等を、管理職・部主任・チューター・特別支援教育コーディネーター・スクールカウンセラーに回覧することにした。教員から、指導内容をさらに詳しく知りたいとの質問があり、通級による指導の様子や他の授業での対象生徒の様子を共有することが今後も必要であると考え。来年度以降は、情報を共有する教員の対象、情報交換できる様式等、さらに有効に情報を共有できる工夫を検討したい。

(ウ) 通信「社会生活だより」の発行

指導を見学したかったが、指導時間に授業や部活指導があるとの理由で見学できなかったという声が複数あった。見学できなくても指導内容や様子を知ってもらい、通級による指導への理解を進めるため、月1～2回「社会生活だより」を発行することにした。内容は、授業の様子だけでなく、全国の高等学校における通級による指導の取組の様子や自立活動について等も紹介した。12月に行った教員へのアンケート（34名、回収率79%）によると、回答者の94%に当たる32名が通信を読んでおり（図15）、「見学に行けていないが指導の様子がよく分かりありがたい」「通級についての理解が深まるとともに、日々の生徒の指導のヒントに役立つ」「授業では分からない生徒の本音や考え方を知ることができた」「授業の様子だけでなく、関連図書の紹介や自立活動の説明、他県の通級の様子等の情報提供があり、工夫されていると感じた」という肯定的な意見が多くあった。通信を発行し情報提供することは、多忙な業務の中であっても、通級による指導を知る方法として有効であると考えられる。

オ 成果と課題

今回の研究で成果として挙げられることは次の3点である。

まず1点目は、迅速に対応できる支援体制づくりができ、連携がスムーズに図れたことである。コアチームを中心にし、分掌部長等が加わった小規模のチームを作ることで、必要に応じてすぐに集まり、検討を行うことができた。分掌との連携に関しては、来年度はさらに総務部との取組

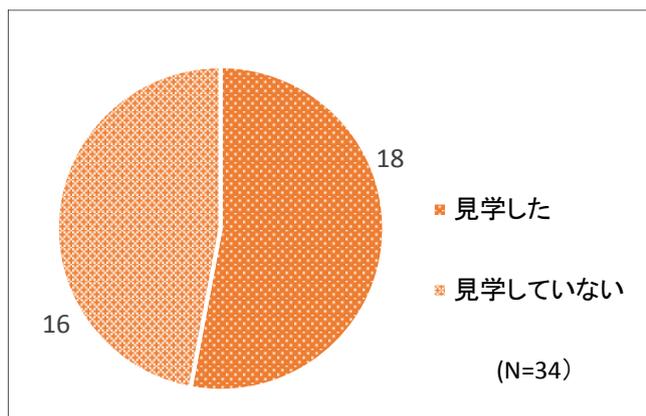


図14 「通級による指導を見学されたか」の集計結果

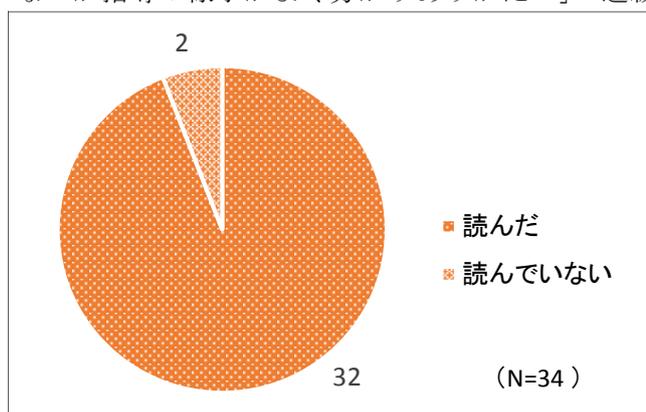


図15 「社会生活だよりを読まれたか」の集計結果

を検討しているところである。来年度から実施となる「総合的な探求の時間」を総務部が担当することが決まっており、通級による指導の内容を参考にした学習内容を検討中である。各校務分掌との連携をさらに充実させ、通級による指導が学校全体の取組となるよう全校体制で引き続き取り組んでいきたい。

2点目は、通級による指導に関心を寄せる生徒や保護者が増えたことである。卒業後のことを心配する在校生の保護者からの相談や問い合わせがあり、来年度に向け、セレクションチームでの通級指導対象生徒の絞り込みや本人及び保護者との合意形成を進めた結果、既に複数名の生徒が新たに通級による指導を受講することになっている。

3点目は、授業の工夫を拾い出し共有したことで、他の授業への活用が広がったことである。12月に再度アンケートを行い、34名から回答を得た（回収率79%）。校内の工夫を共有し合うことについて、役に立ったかを4件法で尋ねたところ、「役に立った」「少し役に立った」と答えた教員は32名（94%）であった（図16）。さらに、後期の授業で実際に取り組んだことを複数回答で尋ねたところ、「分かりやすい説明」

「明確な指示・発問」「見やすい板書」「作業工程の提示」「ノートテイクの時間確保」の回答が多かった（図17）。これは、9月の研修後、取り入れたいと答えた工夫とほぼ一致している。それぞれが新たな工夫を取り入れ、授業を行っていることが分かった。これらは、分かりやすい授業づくりを目指した教員の意識の醸成につながると期待できる。



図16 「校内の工夫を共有し合うこと」の集計結果

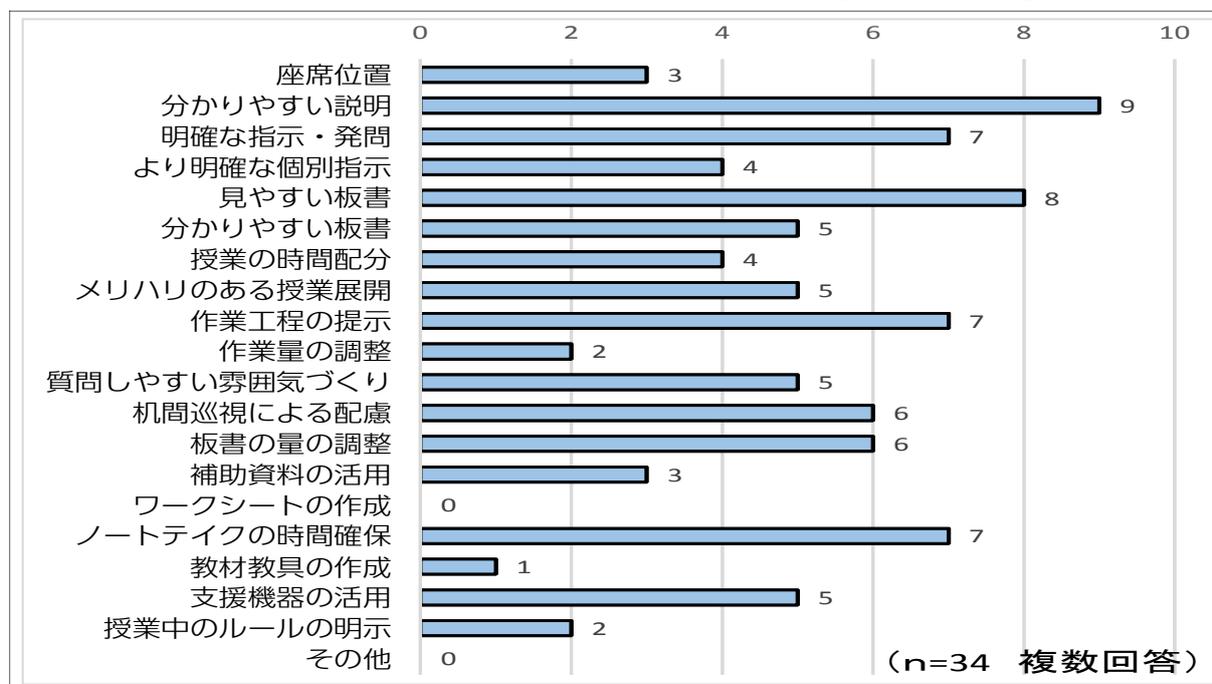


図17 「後期の授業で取り入れたこと」の集計結果

次に、今後の課題を3点挙げる。

1点目は、通級による指導の実施時間帯や時間割編成及び指導体制の検討の必要性である。来

年度に向けて通級による指導の合意形成を図った際、4限目までで授業が終わる場合に7限目まで待てないことや部活動を優先したいなどの理由で、合意形成に至らない生徒がいた。今後は7限目以外の時間枠での指導も検討の必要がある。また、対象生徒が増えた場合の指導体制も検討課題として挙げられる。カリキュラムチームでの検討や確認が必須であるため、教務部との連携を引き続き図っていききたい。

2点目は、チューターによって対象生徒の絞込み条件についての理解のばらつきである。本校では、中学校で特別な支援が必要であった生徒も含め、「学習支援」「精神的な支援」「見守り」といった特別支援教育対象生徒かどうかを見極め、必要に応じて指導・支援を行っている。2年次以降、どの生徒が通級による指導を必要としているのかを見極めていくことが必要となる。その際、教員間で共通する指標として活用を考えられるのがチェックシートである。生徒の困り等に気づき、その背景要因を考えることができるよう、自立活動の項目や指導の具体例を参考にし、作成を進めていきたいと考える。県内の生徒や保護者及び各校の関心が高まることが予想されることから、本校での通級による指導は、どのような生徒を対象とし指導するのかをより明確に整理し、教員間で共通理解していく必要があると考える。

3点目は、来年度から始まる通年での指導に向けた年間の計画の検討である。通級による指導は、個々の生徒の教育的ニーズに対応し、目標を達成していくための指導であるため、対象生徒の選定やアセスメントも同時に進めていくことになる。セレクションチームやeカウンセリングチームと早い段階から連携を図り、年間の計画を検討していきたい。

まだ課題も多く、本当の意味での成果も先になる取組である。しかし、対象生徒と関わりのある教員からは、「表情が明るくなった」「A君は何のために面接練習をしているのかを自らの言葉で話してくれた」「B君はじっくり考えて発言できるようになっている。授業も積極的に受けている」といった生徒の変化への気づきの声があった。通級による指導で付けた力が、指導の場面以外でどのくらい発揮されるかが大事である。生徒たちが日常生活の中でもてる力を発揮し自信につながるよう、指導内容や支援方法の検討を行っていききたい。今回の研究において通級による指導は、今後、本校にとってかけがえのないものになることは間違いないと考える。

5 研究成果

今回、「多様な生徒の自立と社会参加に向けた高等学校における特別支援教育」を研究のテーマに挙げ、高等学校における通級による指導開始に向けた支援体制づくりや、その組織を運用した準備や流れについて整理した。加えて、分かりやすい授業づくりに取り組む教員の意識の醸成を図ることや生徒が自身の課題を主体的に改善しようとする意欲を高めることを目指し、通級による指導を開始した。以下、研究の成果をまとめる。

まずは管理職のリーダーシップの下、組織的な支援体制づくりが行われたことである。「高等学校における通級による指導の制度化及び充実方策について（報告）」（平成28年3月）によると、方策の一つとして「何よりも、まずは特別支援教育の推進のための校内体制整備、すなわち、障害のある生徒への支援を特定の教員任せにしない組織的な体制作りが求められる」とされている。研究校では、指導開始に向けた検討・決定が速やかに進められるよう、5つのチームに校務内容を把握している各分掌部長等をメンバーとして加えた。この小規模のチームの編成により、それぞれの分掌がもつ情報を活用し、必要に応じて迅速に検討を進めることができた。これは、「通級推進委員会」を設置し通級による指導を全校で取り組むことが位置付けられただけでなく、

各チームを編成したことで検討する内容が焦点化され、それぞれの役割を明確にした支援体制づくりにつながったと考えられる。

次いで挙げられるのは、中核的役割を担うコアチームを通級指導担当教員と特別支援教育コーディネーターが運営することにより、情報の集約が円滑に進められたことである。研究校の特別支援教育コーディネーターは、今までも特別支援教育に関する取組を丁寧に進めてきた。今回の通級による指導開始に向けた事前準備は新たな検討事項ばかりであったが、従前の体制や取組を基盤にし、コアチームで定期的に進捗状況を確認しながら進めていくことができた。また、各チームでの検討内容の精選や情報収集においても、コアチームのコーディネート力が発揮された。このように、通級指導担当教員と特別支援教育コーディネーターが密に連携を図り、全体を統括していったことが、スムーズな通級による指導の開始につながったと考えられる。

また、校内研修会での授業の工夫の共有によって、指導に関する教員の意識が高まったことも研究の成果として考えられる。図18は、12月に教員へアンケートを行ったものである。「学校内の工夫を共有し合うメリット」を3つまで複数回答可として尋ねたところ、最も多かったのは「生徒が理解しやすい授業づくりにつながる」(20人)であった。次いで多かったのは「自身の授業を振り返る機会になる」

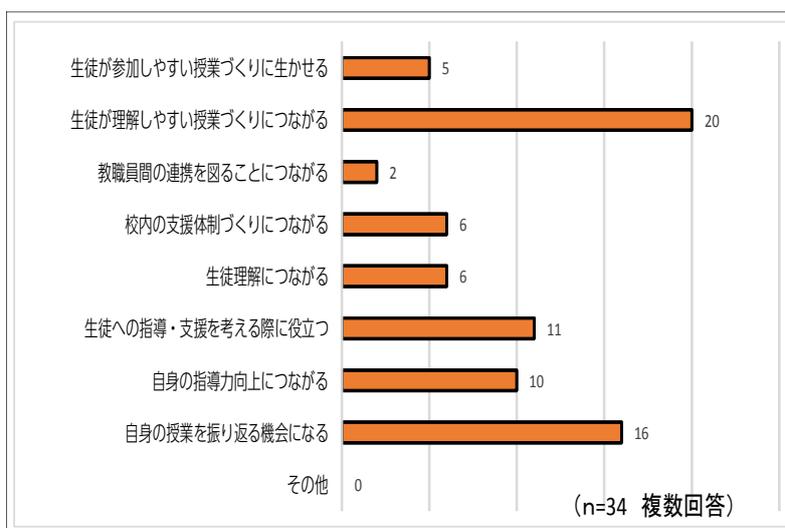


図18 「学校内の工夫を共有し合うメリット」の集計結果

(16人)であった。障害のある生徒の学びを充実させるには、通級による指導以外の授業においても指導の方法を見直すことが必要となる。今回のように、通級指導担当教員と特別支援教育コーディネーターが、生徒の学びやすさにつながる工夫を見出し学校全体で共有する機会を設けたことは、教員の指導力向上に努める意欲につながったと考えられる。

最後に成果として挙げるのは、通級による指導を受けた生徒らから「少しできるようになったかな」という声が聞かれ、普段関わりのある教員からも生徒の変化への気づきが挙げられていることである。少しずつではあるが、通級による指導で学んだことを自分の力にしていることが感じられる。しかし、自分のことを客観視し、課題を自己理解することは容易ではない。状況把握や他者の意図理解、コミュニケーション力に課題がある生徒にとっては尚更である。通級による指導は、自立活動に相当する内容を取り上げ指導を行う場であり、現時点での課題と卒業後に必要となる力を生徒も教員も自覚して取り組むことが欠かせない。そのため、個々の目標達成に向け、教員には具体的な指導内容の検討や支援方法の工夫がさらに求められるところである。通級による指導の内容が充実し、生徒が自立や社会参加を図るために必要な能力の育成や学習意欲の喚起、そして自尊感情を向上させることのできる場となることを期待したい。

6 今後の課題

今回、高等学校における通級による指導の導入を受け、定時制・通信制課程の公立高校である

大和中央高等学校をモデル校として取り組んだ。管理職のリーダーシップの下、コアチームを中心とした迅速で効果的な支援体制の仕組みを整え、導入段階の多くの課題に向き合う中で、検討を繰り返しながら制度づくりが行われた。これまでも入学段階より一人一人の生徒への丁寧な実態把握と制度づくりが行われてきた経緯の中で、新たな制度の導入においても前向きな取組や様々な工夫が実現した。また、自立活動を軸として個々の課題に応じた指導内容を探る中で、生徒が自身の得意や不得意といった自己理解を進められるよう指導をスタートすることとなった。

通級による指導は、障害による学習上や生活上のつまずきを改善・克服し将来の自立や社会参加を見据えて、生徒が自己理解を進め社会生活に必要な力を身に付けることを目的としているが、それだけに留まらず、通級による指導で培った力を、他の授業場面や学校生活及び社会生活において生かすことが重要となる。そのためには、個々の学び方の違いや多様性を認め合える環境や集団づくりが求められる。通級による指導の本格実施となる来年度は、今年度の研究成果を踏まえ、支援体制の更なる充実や年間を通じた指導内容とともに、発達の偏りや障害の有無に関わらず、生徒が安心して学び、過ごせる環境や集団づくりについて、学校全体での組織的な検討が一層必要であると考ええる。

国立特別支援教育総合研究所「高等学校における発達障害等の特別な支援を必要とする生徒への指導・支援に関する研究－授業を中心とした指導・支援の在り方」（平成26年3月）では、「高等学校における特別支援教育は、学力保障だけでなく、規範意識の醸成だけでもなく、また情緒的な安定だけでもなく、それらのすべてを含めて生徒の支援ニーズに気づき、個々のニーズに応じた支援を行うことにより、社会人として生きる力を育てるという視点が大切である」とされている。全国においては、約124校の高等学校において通級による指導の運用もしくは試行が既に開始され、それぞれの学校の実情に応じた制度設計を検討しながら取組が進んでいる。高等学校において多様な教育的ニーズを必要とする生徒が多く在籍している今日において、通級による指導が果たす役割は重要である。生徒一人一人が自身のもてる力を発揮し社会で活躍できることを目指したい。県教委としては、生徒の教育的ニーズに応じた指導・支援が必要に応じて開始または継続されるよう、高等学校における通級による指導の導入段階の方策や課題について整理するとともに、県内の高等学校や地域の小・中学校への周知と理解を進めていきたいと考える。

参考・引用文献

- (1) 文部科学省調査研究協力者会議（平成21年8月27日）「高等学校における特別支援教育の推進について～高等学校ワーキング・グループ報告～」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/054/shiryo/__icsFiles/afieldfile/2009/11/05/1283675_3.pdf
- (2) 文部科学省調査研究協力者会議（平成28年3月31日）「高等学校における通級による指導の制度化及び充実方策について」p.6、p.11、p.21-22
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/28/03/__icsFiles/afieldfile/2016/03/31/1369191_02_1_1.pdf
- (3) 文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会（平成24年7月23日）「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/houkoku/1321667.htm
- (4) 文部科学省（平成29年3月）「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体

制整備ガイドライン～発達障害等の可能性の段階から、教育的ニーズに気づき、支え、つなぐために～」

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/10/13/1383809_1.pdf

(5) 文部科学省（平成30年3月）「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚園部・小学部・中学部）」

(6) 文部科学省「特別支援教育に関する調査結果 通級による指導実施状況調査結果について（平成22年度～平成29年度）」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/1343889.htm

(7) 文部科学省「学校基本調査（平成27年度～平成30年度）」

http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/1267995.htm

(8) 日本学生支援機構（平成30年7月）「大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査結果報告書」

https://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu_shien/chosa_kenkyu/chosa/__icsFiles/afieldfile/2018/07/05/h29report.pdf

(9) 国立特別支援教育総合研究所（平成24年3月）「発達障害のある子どもへの学校教育における支援の在り方に関する実際的研究－幼児教育から後期中等教育への支援の連続性－（平成22年度～23年度）」

(10) 国立特別支援教育総合研究所（平成26年3月）「高等学校における発達障害等の特別な支援を必要とする生徒への指導・支援に関する研究－授業を中心とした指導・支援の在り方－（平成24年度～25年度）」 p. 155

(11) 国立特別支援教育総合研究所（平成30年3月）「高等学校教員のための『通級による指導』ガイドブック おさえておきたい8つの課題と課題解決のための10のポイント」